東京都立産業技術高等専門学校
「令和３年度　学生生活実態に関する調査」

調査報告書

令和4年2月

株式会社 リベルタス・コンサルティング

令和３年度　学生生活実態調査の結果について

東京都立産業技術高等専門学校は、平成 18 年にスタートしたまだ新しい高専で、“ものづくりスペシャリスト”の育成を目指しています。本校が育てる“ものづくりスペシャリスト”とは、工学の基礎をしっかり身に付け、種々の工学的な問題解決能力やコミュニケーション能力を備えた実践的な技術者です。単に、技術の進歩に追随するだけでなく、社会が抱える問題解決にも貢献でき、世界で活躍する技術者の育成を目指しています。

そのために、本校では国際的に通用する工学教育の質の保証の追求、海外教育プログラムや国際交流事業を通した教育に注力しています。平成 28 年度からは創造的かつ実践的教育を一層進めるため、情報セキュリティ技術者育成プログラムと航空技術者育成プログラムをスタートさせました。更に、令和３年から IoT、ビッグデータ、人工知能等を活用した「Society5.0」を支える基盤技術教育の確立を目指して品川キャンパスに AI スマート工学コースと情報システム工学コースを新設しました。また、荒川キャンパスでは、AI を積極的に取り入れたコース横断型の医工連携教育を開始しました。こうした改革を実りあるものとするためには、本校の実態を客観的に把握・分析することが不可欠です。

そこで、本校では概ね５年毎に、在校生、保護者、就職先企業及び卒業生に対するアンケート調査を実施しています。　今回３回目となる「学生生活実態調査」を行い、調査結果と分析の概要を纏めることができましたのでご報告いたします。

尚、本調査にご協力いただいた在校生及び保護者の皆様には、あらためて深く御礼を申し上げます。

東京都立産業技術高等専門学校 校長　渡辺　和人

目次

第１部　アンケート調査概要 1

1－1 調査目的 1

1－2 調査概要 1

1－3 回答者属性 2

第２部　アンケート調査結果 4

2－1 学校全般について 4

2－2 各科目について 8

2－3 学生支援の取組 14

2－4 校内設備 20

2－5 学生生活 23

2－6 学習の状況 26

2－7 海外に関する意識 33

2－8 生活状況 35

2－9 情報端末（スマートフォンやパソコンなど）の利用 41

2－10 各種プログラム 47

第３部　保護者からみた状況 49

3－1 奨学金制度の利用状況 49

3－2 海外意向 50
3－3 子どもとの状況 52
第４部　各種プログラムと海外意向の関係　57
4－1 本科生 57
4－2 保護者 61
第５部　まとめ（本科を中心に）　63

第1部 アンケート調査概要

1－1　調査目的

東京都立産業技術高等専門学校の在校生とその保護者に対し、学校の魅力や学校評価、学校生活の実態、学外での学習状況・生活実態、学生と保護者の関係について調査し、本校の経営戦略に活かすための基礎資料を得ることを目的とする。

1－2　調査概要

(1)調査対象・回収数

調査対象は、以下のとおり。

調査名	調査対象人数	回収数
本科調査	令和 3 年度東京都立産業技術高等専門学校本科の在校生　1,560 名	1,479 件（回収率 94.8%）
専攻科調査	令和 3 年度東京都立産業技術高等専門学校専攻科の在校生　72 名	39 件（回収率 54.2%）
保護者調査	令和 3 年度東京都立産業技術高等専門学校在校生の保護者　1,632 名	733 件（回収率 44.9%）

(2)調査方法・調査期間

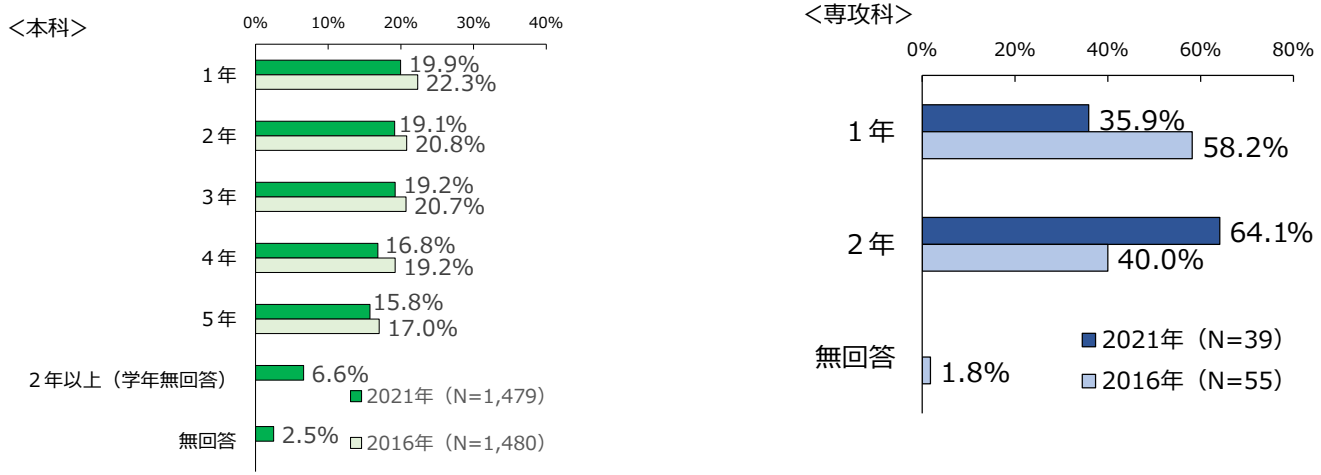
調査方法・調査期間は、以下のとおり。

調査名	調査方法	調査方法
本科調査	紙による調査票方式。主にホームルーム時間に回答	令和 3 年 10 月 19 日(火)～10 月 29 日(金)
専攻科調査	紙による調査票方式。	令和 3 年 10 月 19 日(火)～10 月 29 日(金)
保護者調査	紙による案内（学生経由及び保護者会で配布）、WEB による回答	令和 3 年 10 月 18 日(月)～11 月 2 日(火)

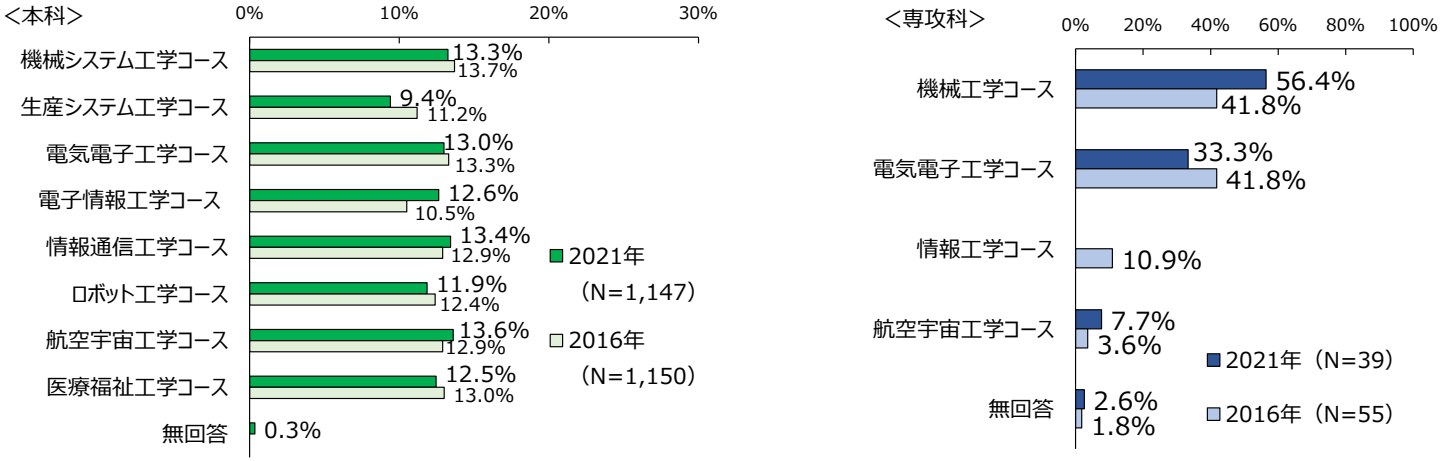
1－3　回答者属性

本科、専攻科の学年、コースは、下記のとおり。

図表 1-1　学年（本科（左）：N=1,479　専攻科（右）：N=39）

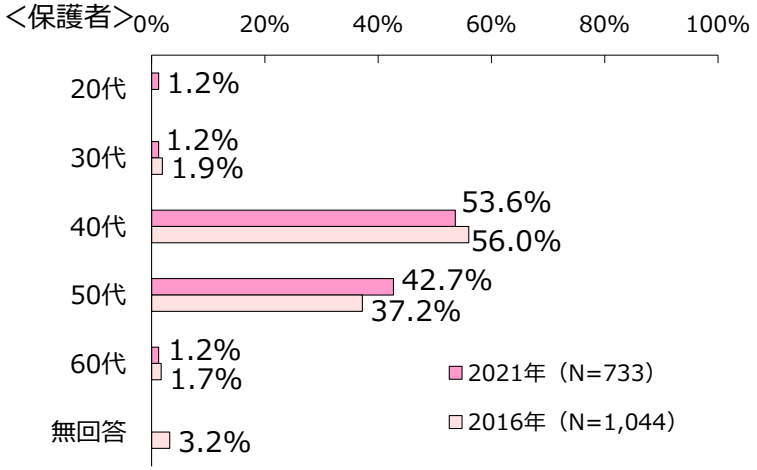


図表 1-2　コース（本科（2 年生以上）（左）：N=1,147　専攻科（右）：N=39）

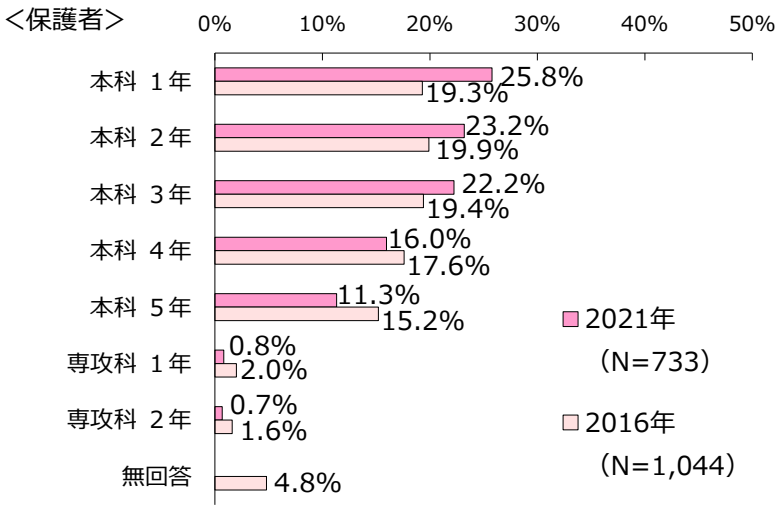


保護者調査の属性は、下記の通り。

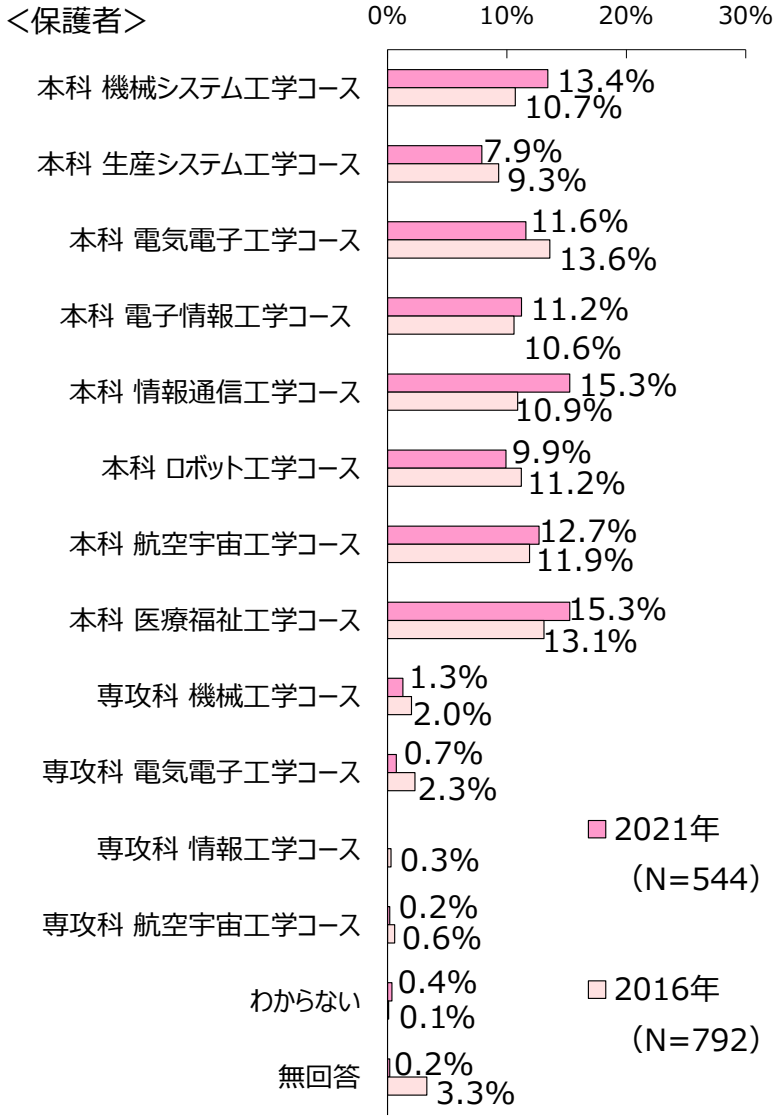
図表 1-3　年代（保護者：N=733）



図表 1-4　子どもの学年（保護者：N=733）



図表 1-5　子どものコース（保護者：N=733）



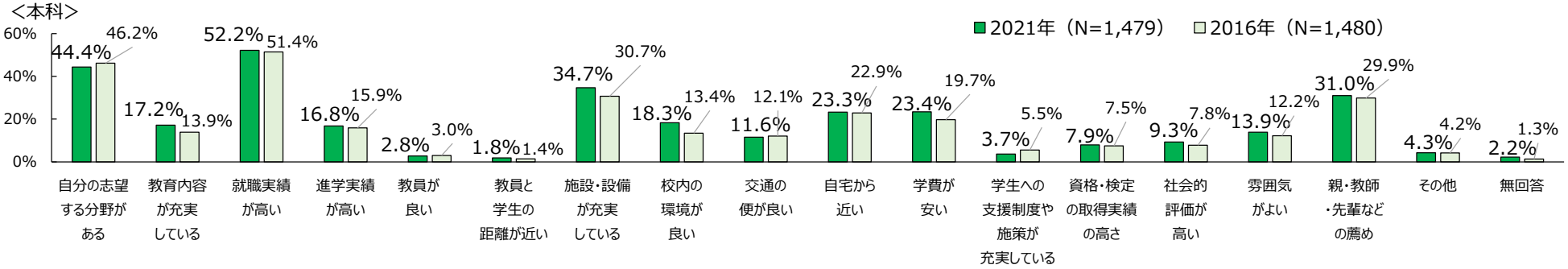
第2部 アンケート調査結果

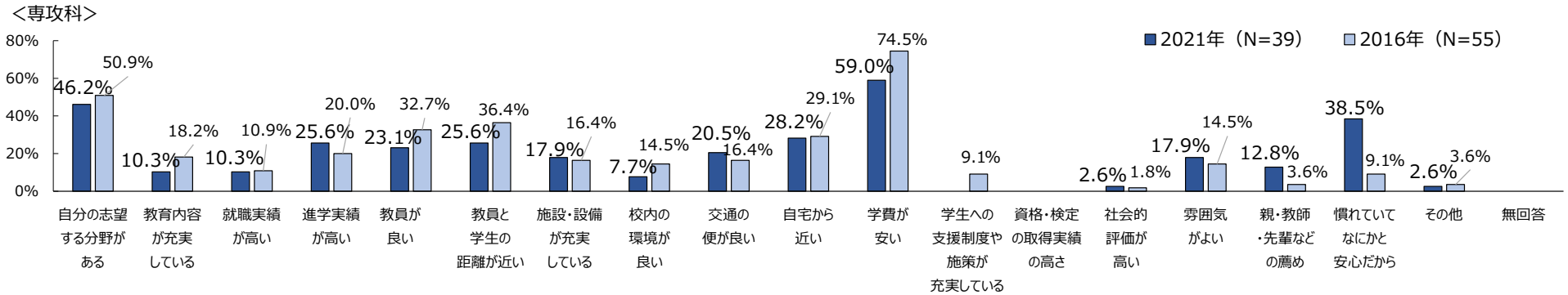
2－1　学校全般について

2－1－1 本校への入学を選んだ理由

- 入学選定理由を見ると、本科では「就職実績が高い」「自分の志望する分野がある」「施設・設備が充実している」が続き、前回調査と同様の結果となった。
- 専攻科では「学費が安い」「自分の志望する分野がある」「慣れていてなにかと安心だから」の割合が高い。

図表 2-1　本校への入学を選んだ理由（本科（上）：N=1,479　専攻科（下）：N=39）

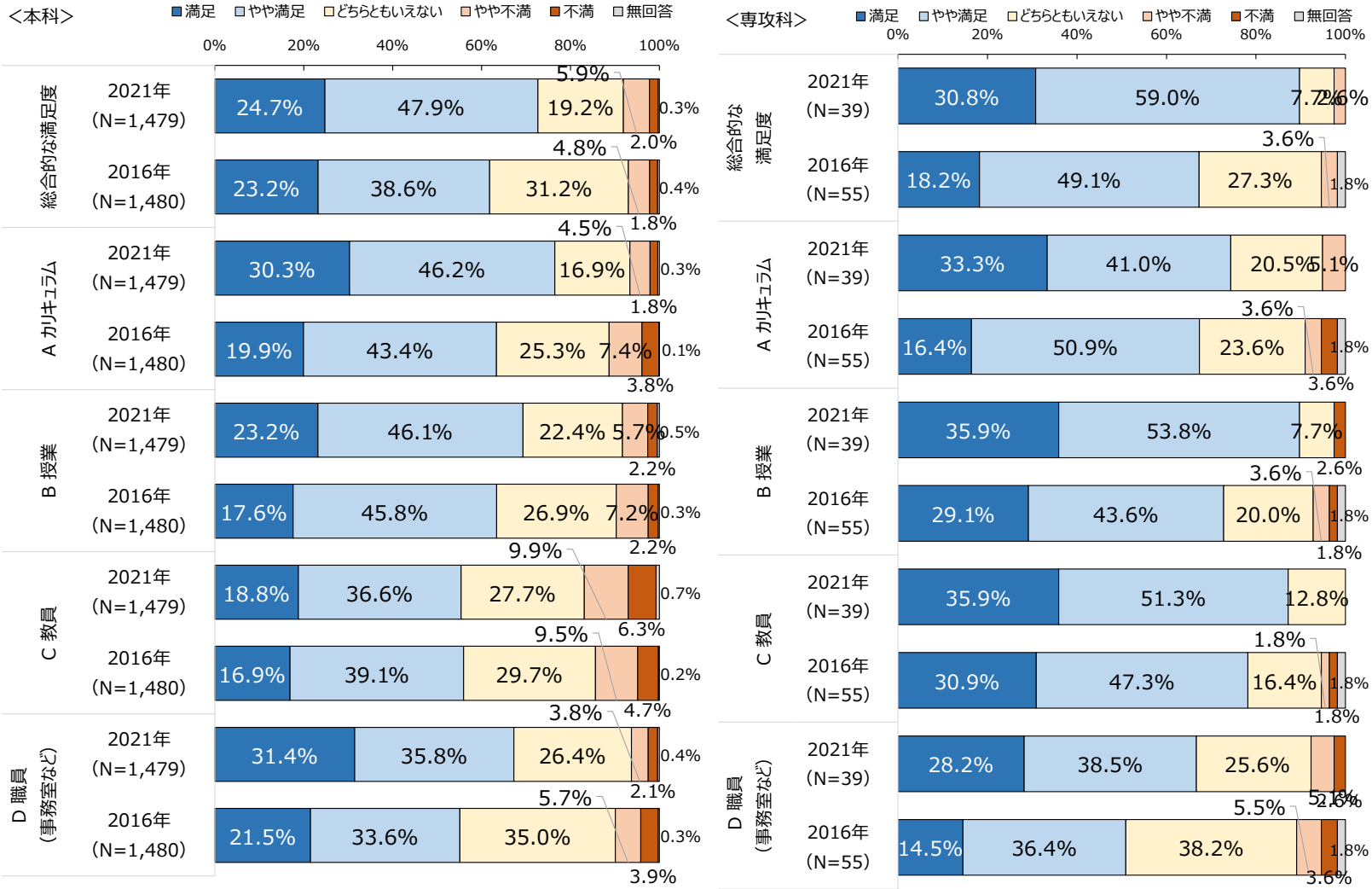




2－1－2　学校の満足度

● 学校の満足度は、前回調査と比較し、本科では「教員」以外の項目で、専攻科は全ての項目で、満足（満足＋やや満足）した割合が増加。

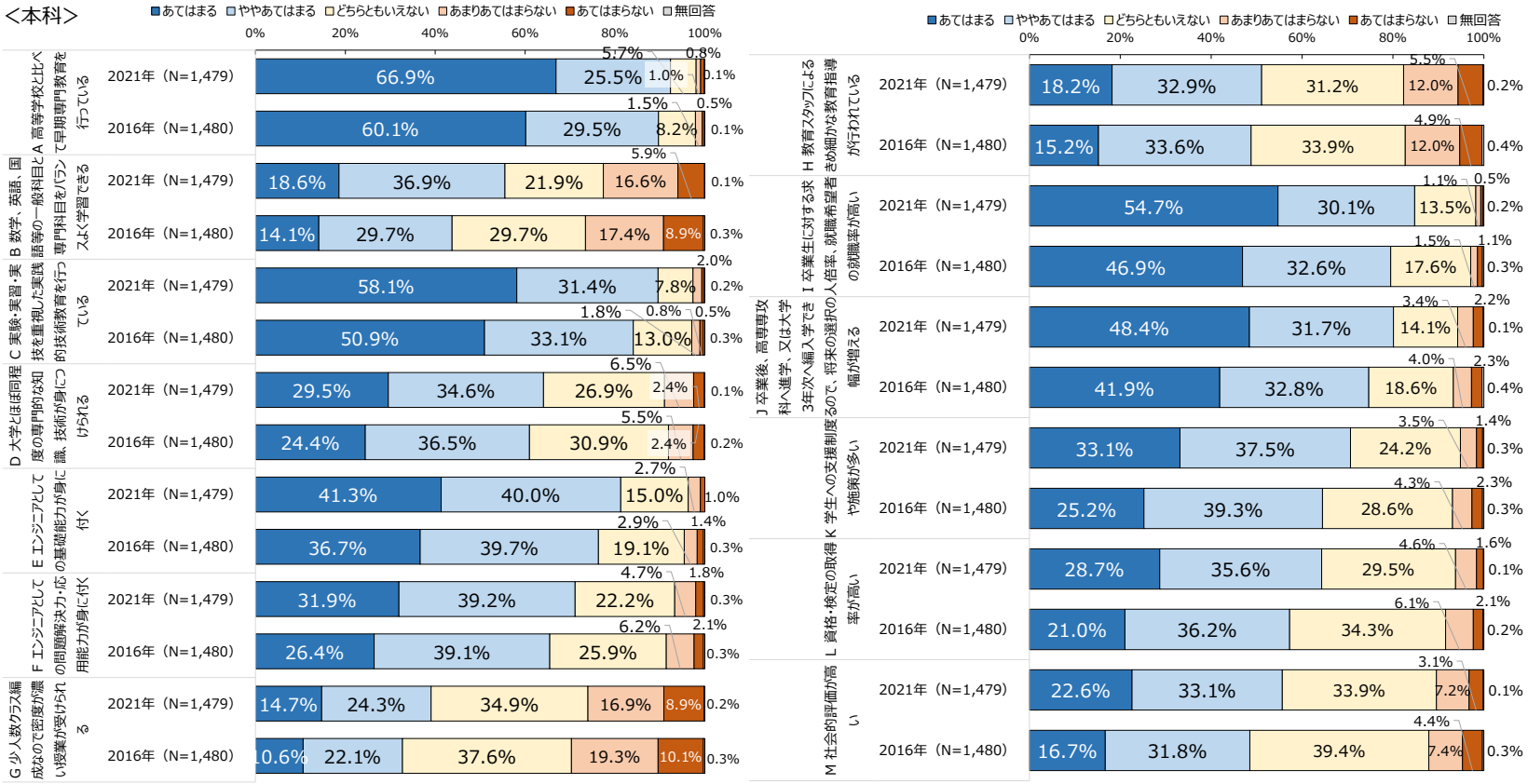
図表 2-2　満足度（本科（左）：N=1,479　専攻科（右）：N=39）



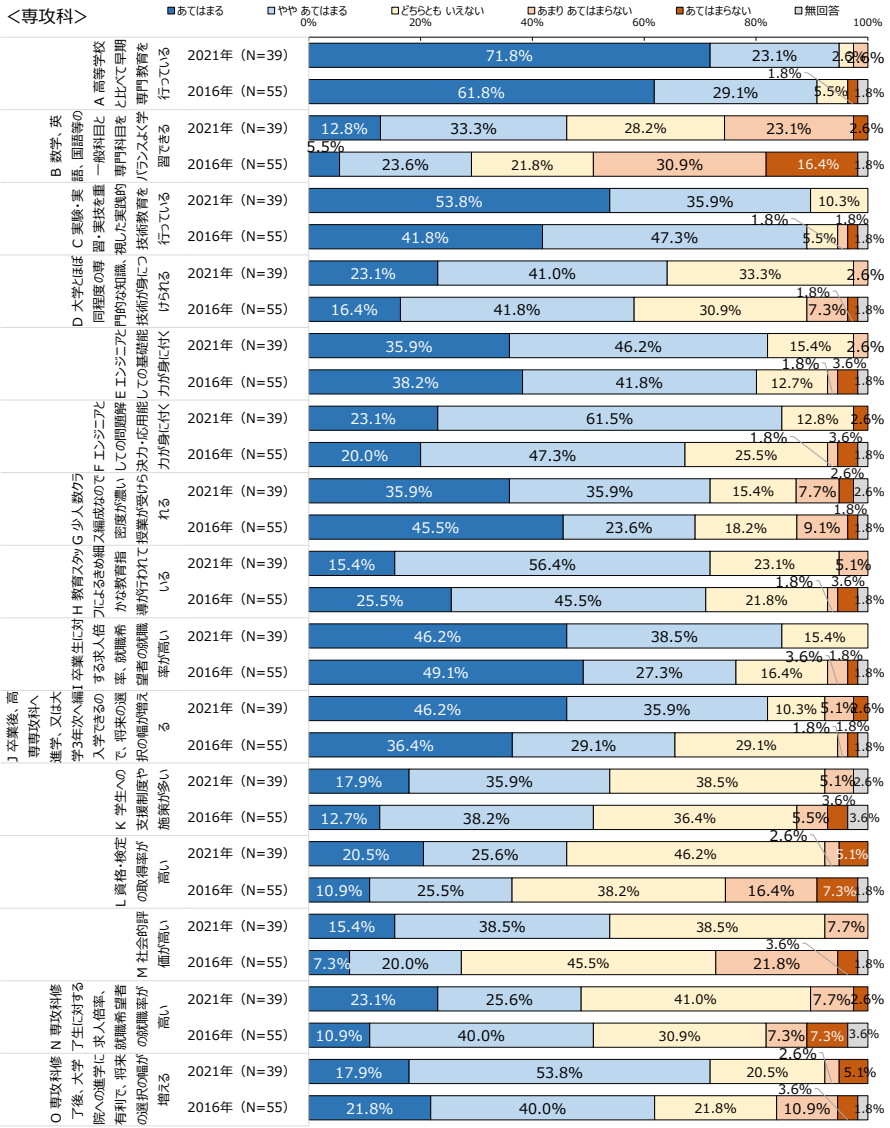
2－1－3　高専に該当する特徴

- いずれの調査も「高等学校と比べて早期専門教育を行っている」「実験・実習・実技を重視した実践的技術教育を行っている」の順に高い。
- 「あてはまる（あてはまる＋ややあてはまる）」が 10 ポイント以上増加した項目は、本科が「数学、英語、国語等の一般科目と専門科目をバランスよく学習できる」、専攻科がこれと「卒業後、高専専攻科へ進学、又は大学 3 年次へ編入学できるので、将来の選択の幅が増える」「社会的評価が高い」、保護者も「社会的評価が高い」であった。

図表 2-3　高専に該当する特徴（本科：N=1,479）



図表 2-4　高専に該当する特徴（専攻科（左）：N=39　保護者（右）：N=733）

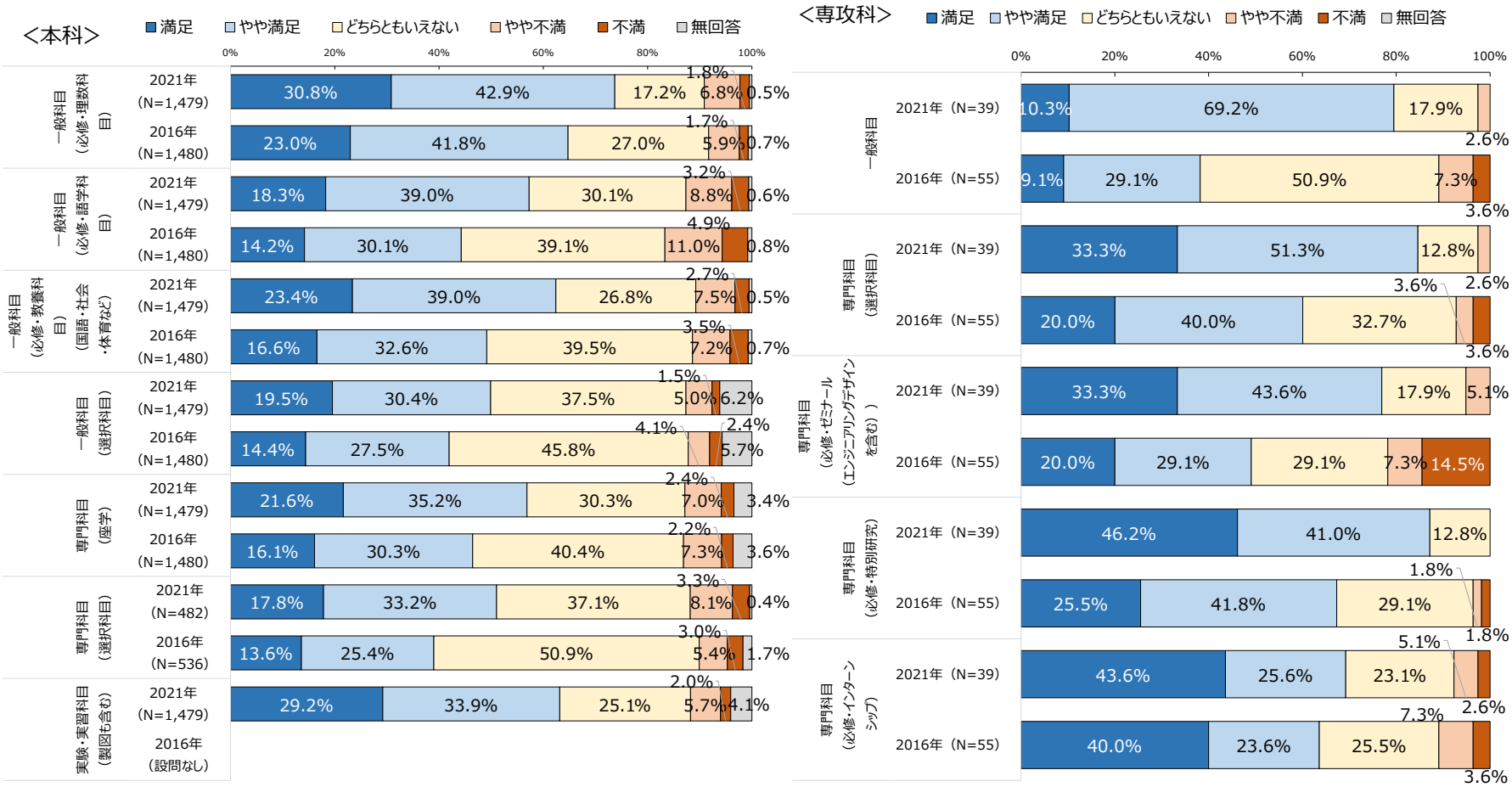


2－2　各科目について

2－2－1　各科目の満足度

● 専門科目の選択科目の満足度について、前回調査と比較して、本科、専攻科共に「満足」「やや満足」の割合が増加している。

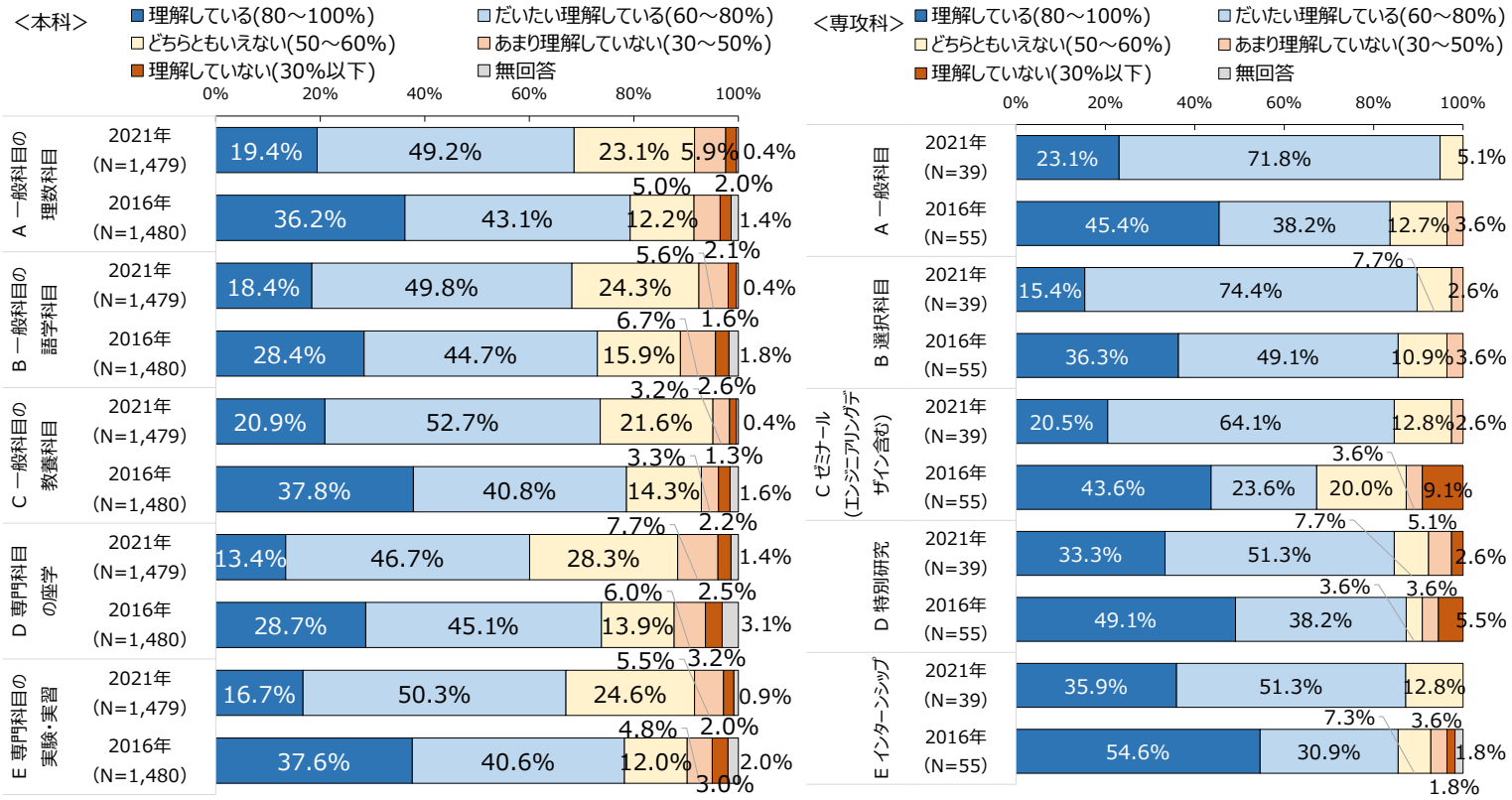
図表 2-5　各科目の満足度（左：本科（専門科目「座学」「選択科目」は 4､5 年生対象）、右：専攻科）



2－2－2　授業の理解度（達成度）

- 本科では、専門科目の座学に「理解している（80～100%）」「だいたい理解している（60～80%）」と回答した割合がやや低く 6 割弱で、全体的に前回調査より低下している。これは新型コロナウイルス感染症による遠隔授業の影響が大きいと考えられる。
- 専攻科は、「理解している（80～100%）」の割合は前回調査より減少しているものの、「だいたい理解している（60～80%）」を含めた理解度は全体的に前回調査と同等あるいは上回っている。

図表 2-6　授業の理解度（達成度）（本科（左）：N=1,479　専攻科（右）：N=39）

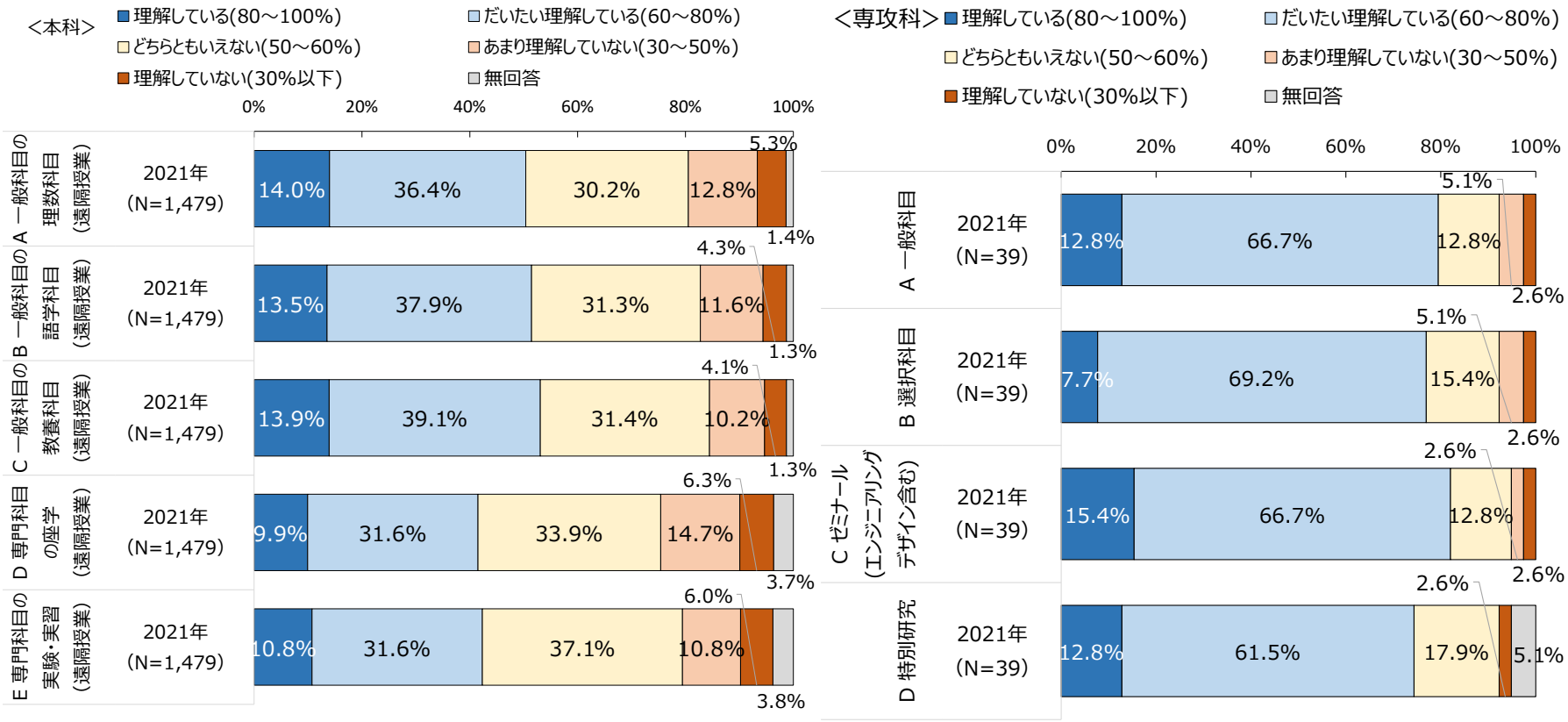


※本設問は対面・遠隔を分けず全般としての理解度としている。また前回調査では、理解度の後ろのカッコ（80～100%、など）は記載していない。

2－2－3　遠隔授業の理解度（達成度）

- 遠隔授業の理解度は、本科では、一般科目は、「理解している（80～100%）」「だいたい理解している（60～80%）」と回答した割合が 50%を超えているが、専門科目は座学及び実験・実習科目のいずれにおいても 50%未満に留まっている。
- 専攻科では、全体の 3/4 以上が「理解している」「だいたい理解している」と回答している。

図表 2-7　遠隔授業の理解度（達成度）（本科（左）：N=1,479　専攻科（右）：N=39）

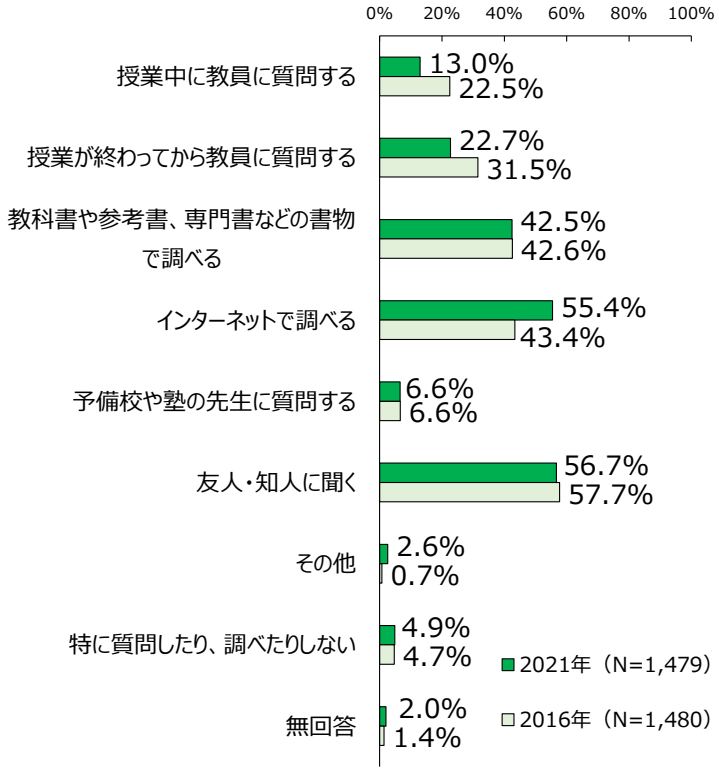


2－2－4　授業内容が理解できない場合の対応

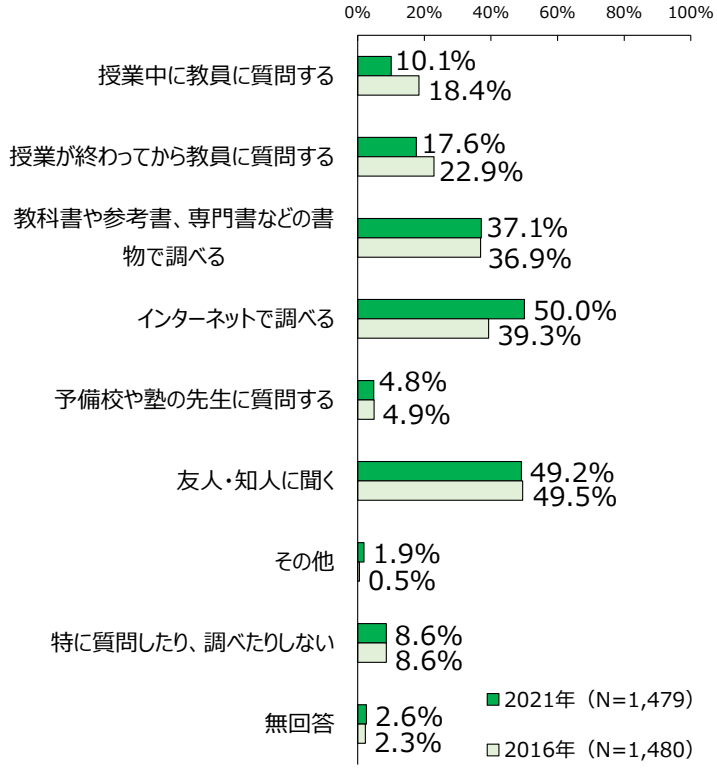
- 授業内容が理解できない場合の対応について、全科目で共通して高い割合となった対応方法は「インターネットで調べる」である。前回調査で全項目において最も割合が高かった「友人・知人に聞く」を、多くの科目で上回っている。
- 「授業中に教員に質問する」「授業が終わってから教員に質問する」と回答した割合は、前回調査と比較してどの授業においても減少している。

図表 2-8　授業内容が理解できない場合の対応（A 一般科目の理数科目、B 一般科目の語学科目）（本科：N=1,479）

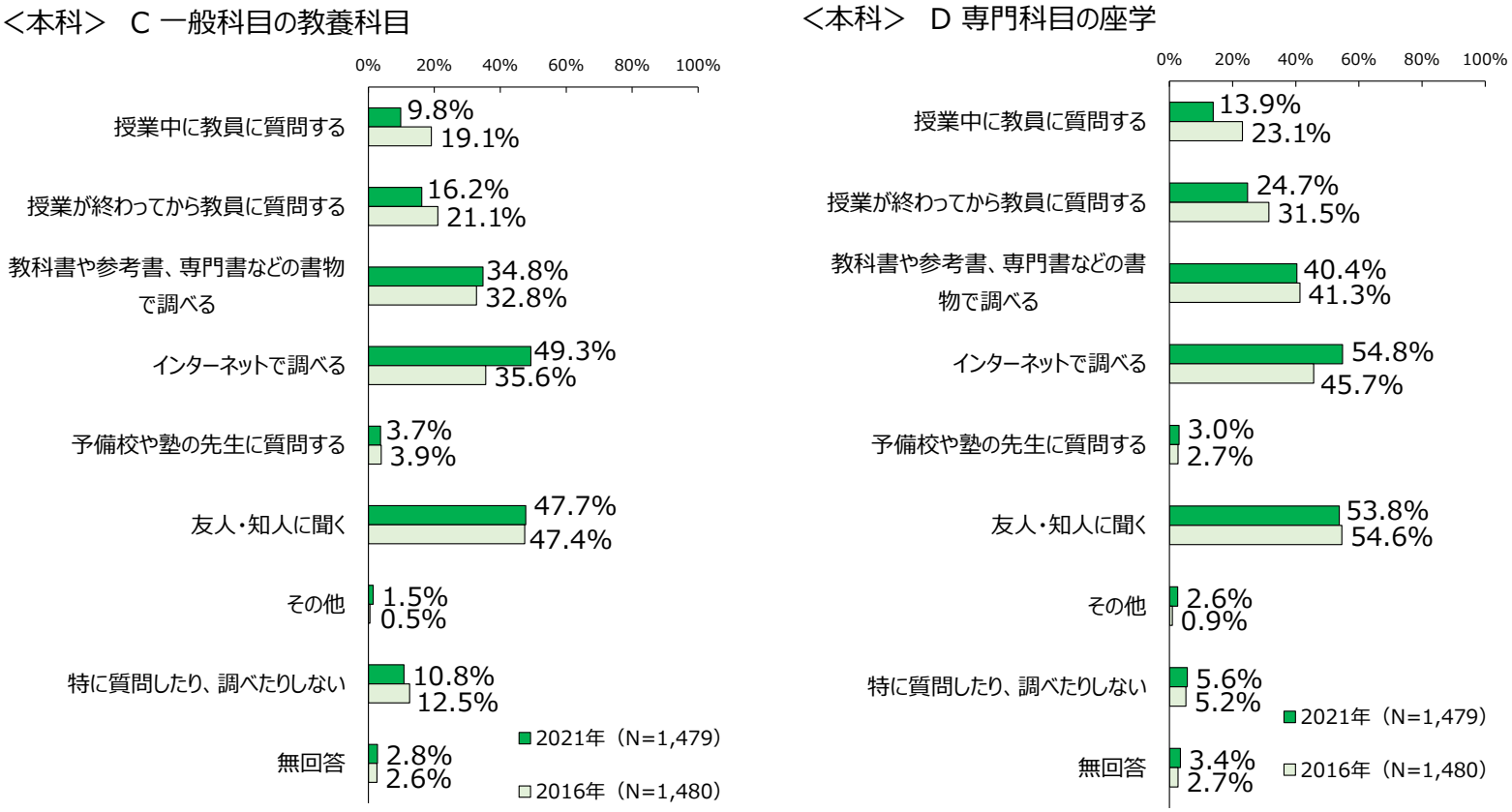
＜本科＞　A 一般科目の理数科目



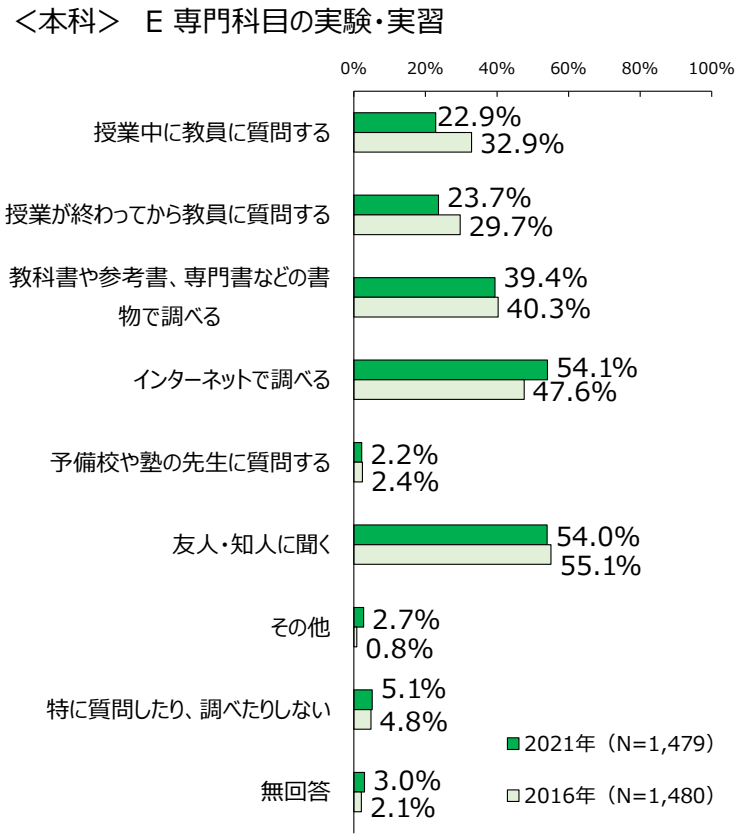
＜本科＞　B 一般科目の語学科目



図表 2-9　授業内容が理解できない場合の対応（C 一般科目の教養科目（左）、D 専門科目の座学（右））（本科：N=1,479）



図表 2-10　授業内容が理解できない場合の対応（E 専門科目の実験・実習）（本科：N=1,479）

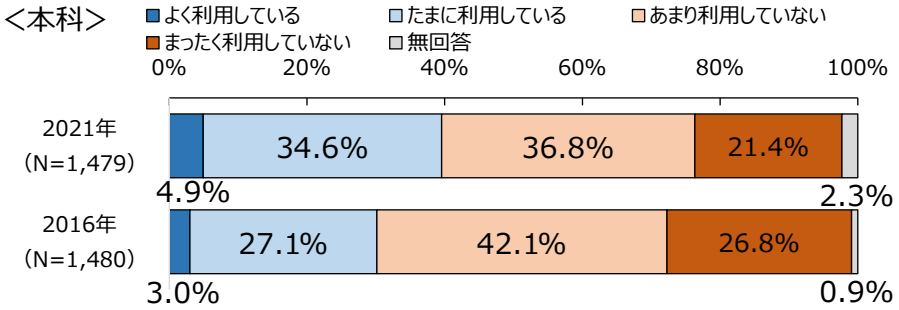


2－3　学生支援の取組

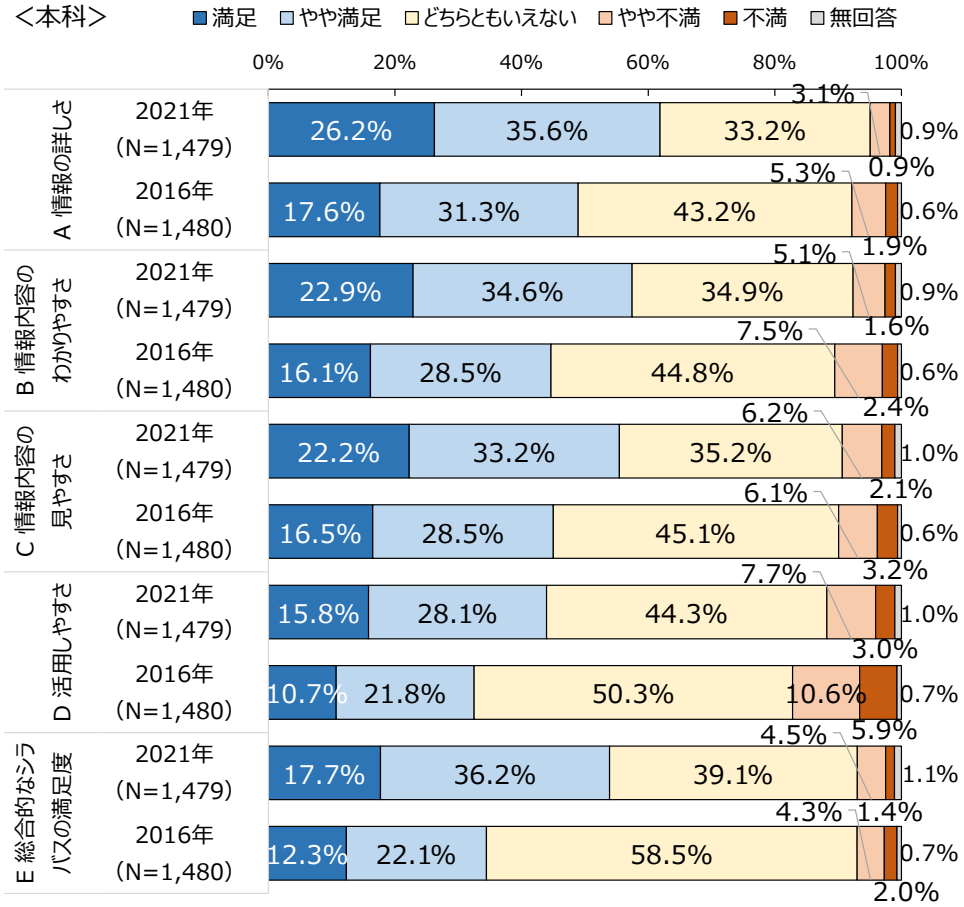
2－3－1　シラバス・履修の手引きの利用状況

- 本科のシラバスを「利用している」「たまに利用している」と回答した割合は、前回調査よりも高く、9.4 ポイント増。
- 本科のシラバスの満足度は、全項目で「満足」と回答した割合が、前回調査を 5%以上上回っている。
- 専攻科の履修の手引きの利用率（よく利用している＋たまに利用している）は 79.5%で、前回調査より 19.5 ポイント増加している。

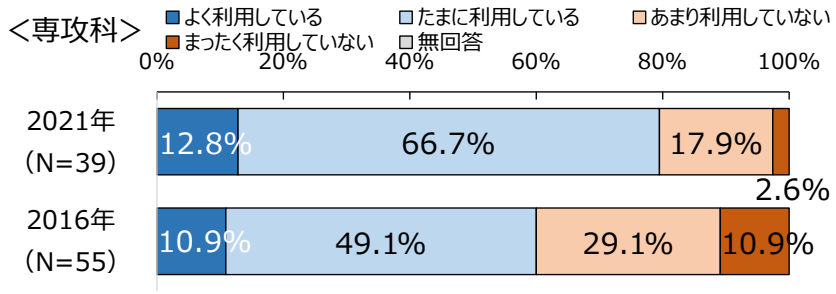
図表 2-11　シラバスの利用状況（本科：N=1,479）



図表 2-12　シラバスの満足度（本科：N=1,479）



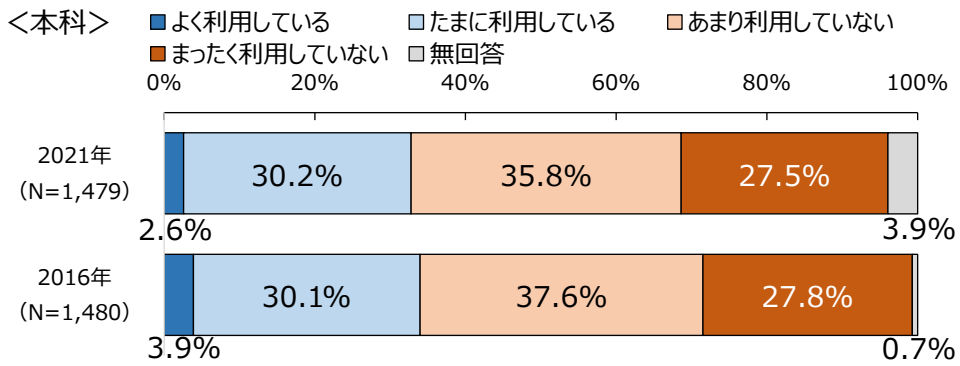
図表 2-13　履修の手引きの利用状況（専攻科：N=39）

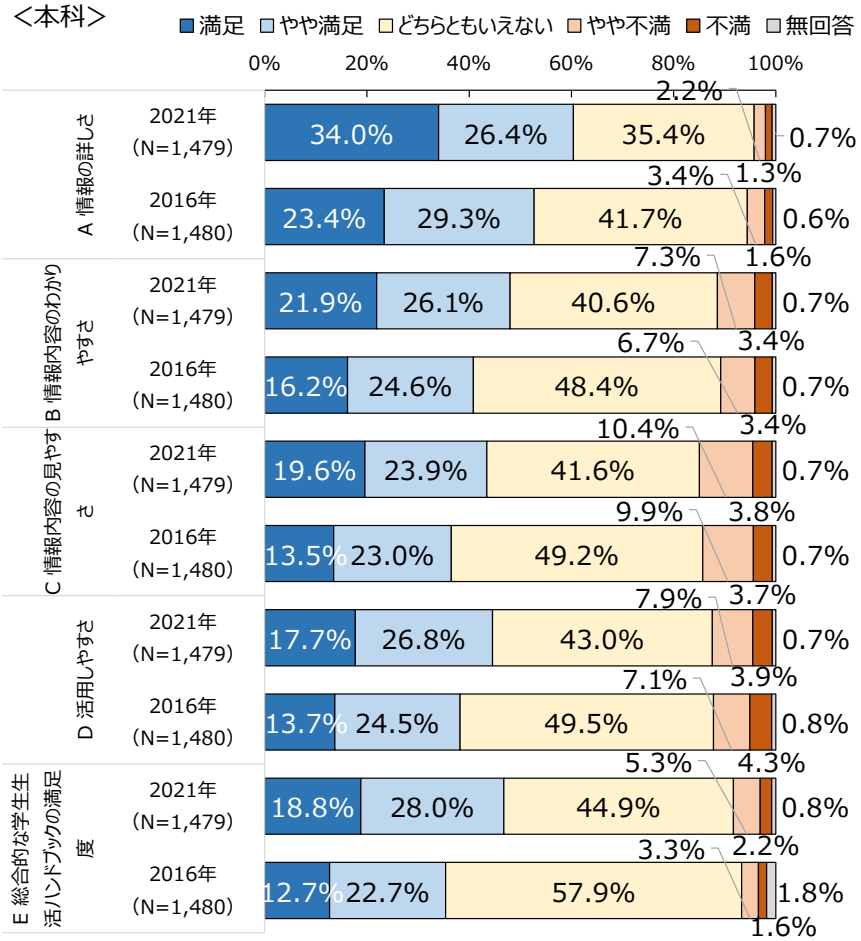


2－3－2　学生生活ハンドブックの利用状況

- 学生生活ハンドブックを利用している（よく利用＋たまに利用）割合は、前回調査と大きな変化はなく、約 3 割となっている。
- 満足度については、前回調査時よりも満足度が向上している。中でも「情報の詳しさ」は「満足」が 34.0%と割合が高い。

図表 2-14　学生生活ハンドブックの利用状況（左）、満足度（右）（本科：N=1,479）

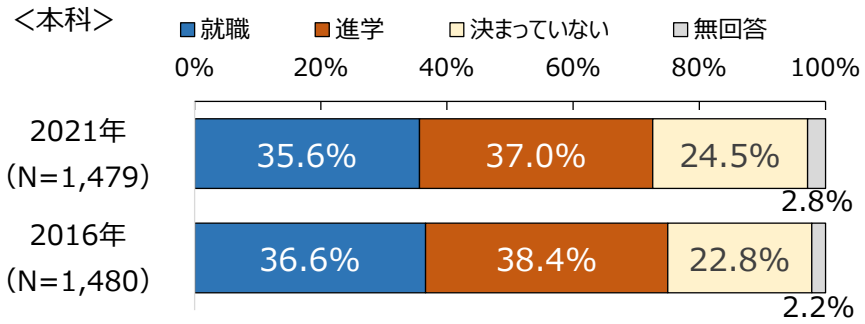


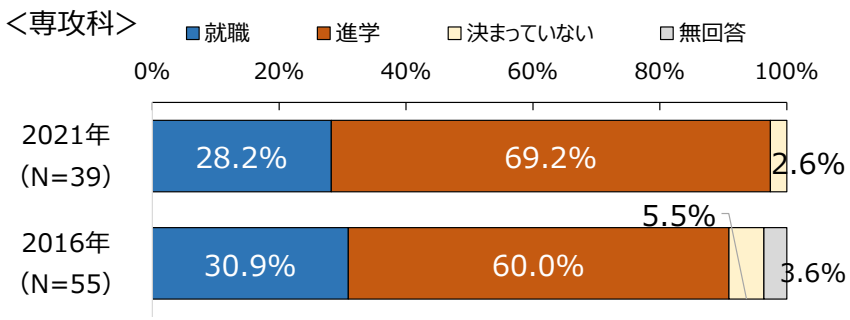


2－3－3　卒業後の進路

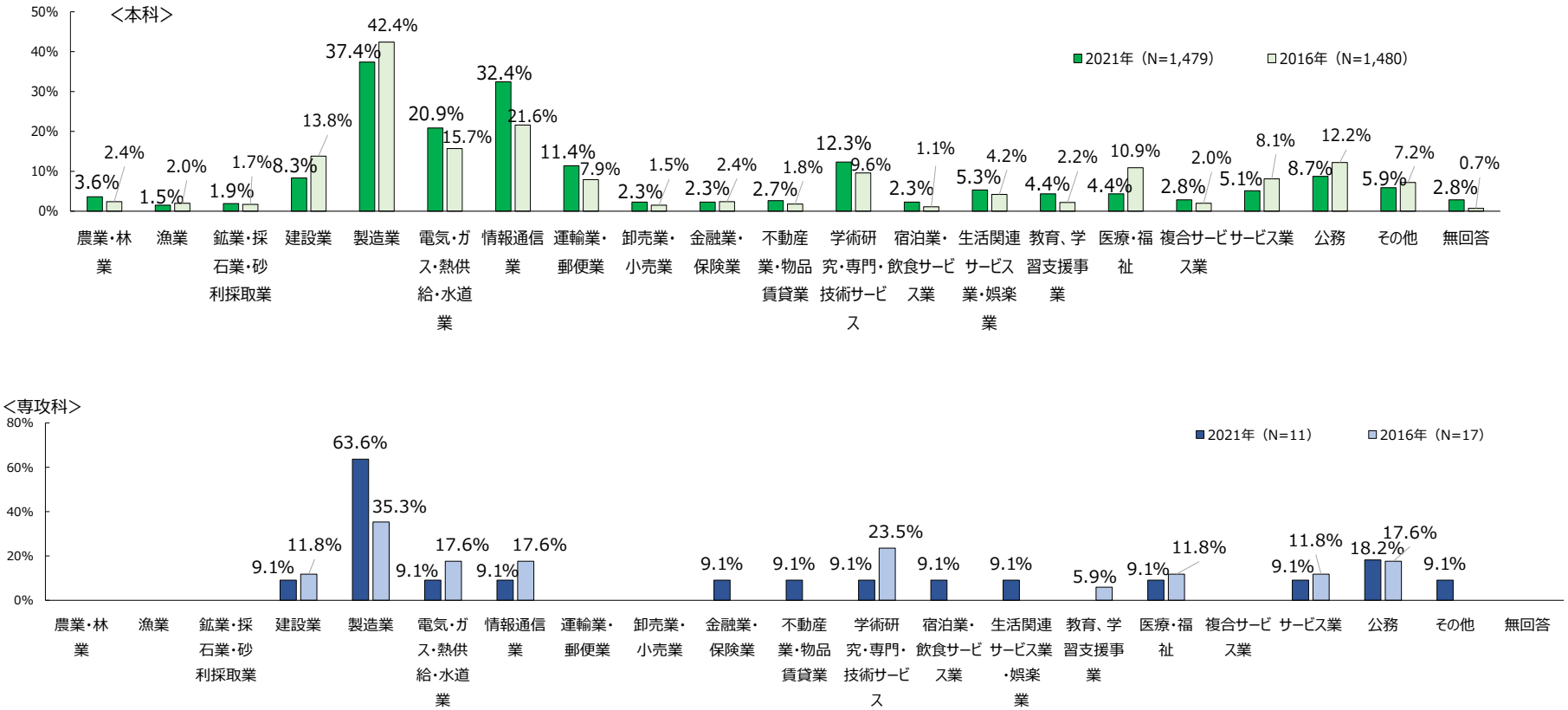
- 卒業後の進路について、本科は前回調査と大きな違いはない。専攻科は「進学」が 10 ポイント程度増加している。
- 本科の卒業後の進路は、「製造業」が最も割合が高く、次いで「情報通信業」の割合が高い。
- 専攻科は就職と回答した母数は少ないものの、「製造業」が最も高い割合である。

図表 2-15　卒業後の進路（本科（上）：N=1,479　専攻科（下）：N=39）





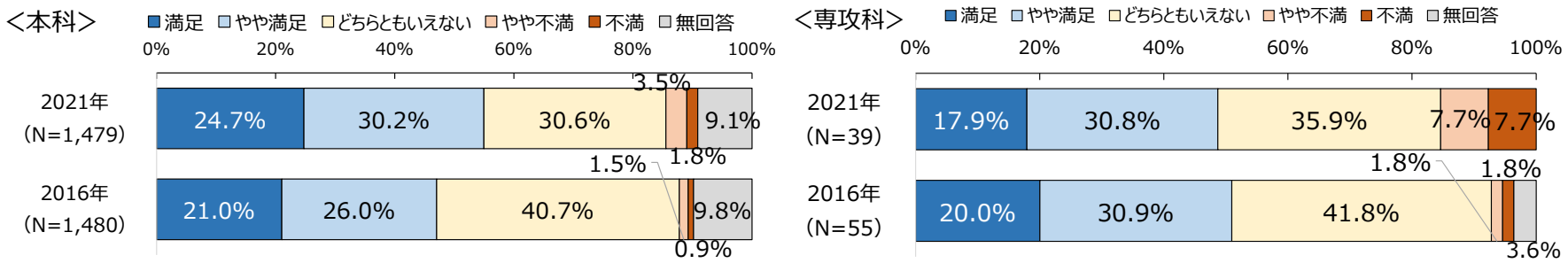
図表 2-16　卒業後の進路（就職先）（本科（上）：N=1,479　専攻科（下）：N=11）



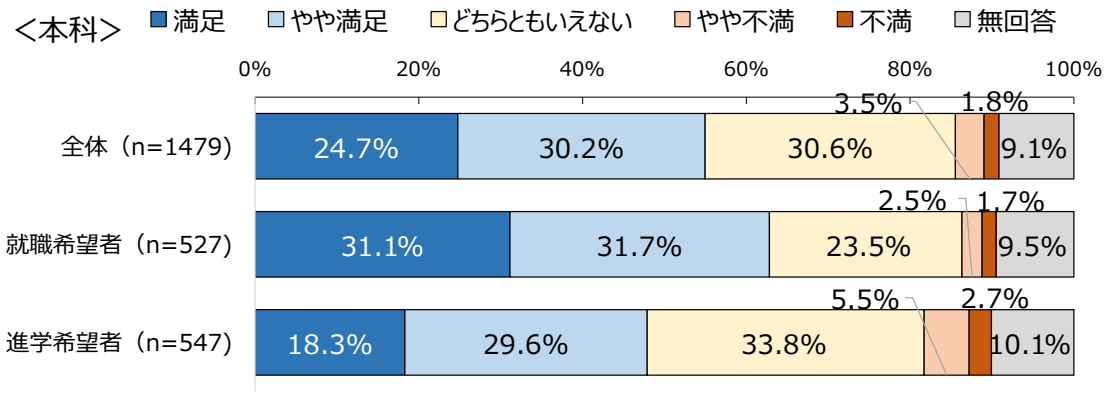
2－3－4　就職・進学支援の満足度

- 就職・進学支援の満足度について、本科は「満足」「やや満足」で約 55%となり、前回調査よりも 8 ポイント上昇。
- 本科の就職希望者では、「満足」「やや満足」で 6 割を超えている。

図表 2-17　就職・進学支援の満足度（本科（左）：N=1,479　専攻科（右）：N=39）



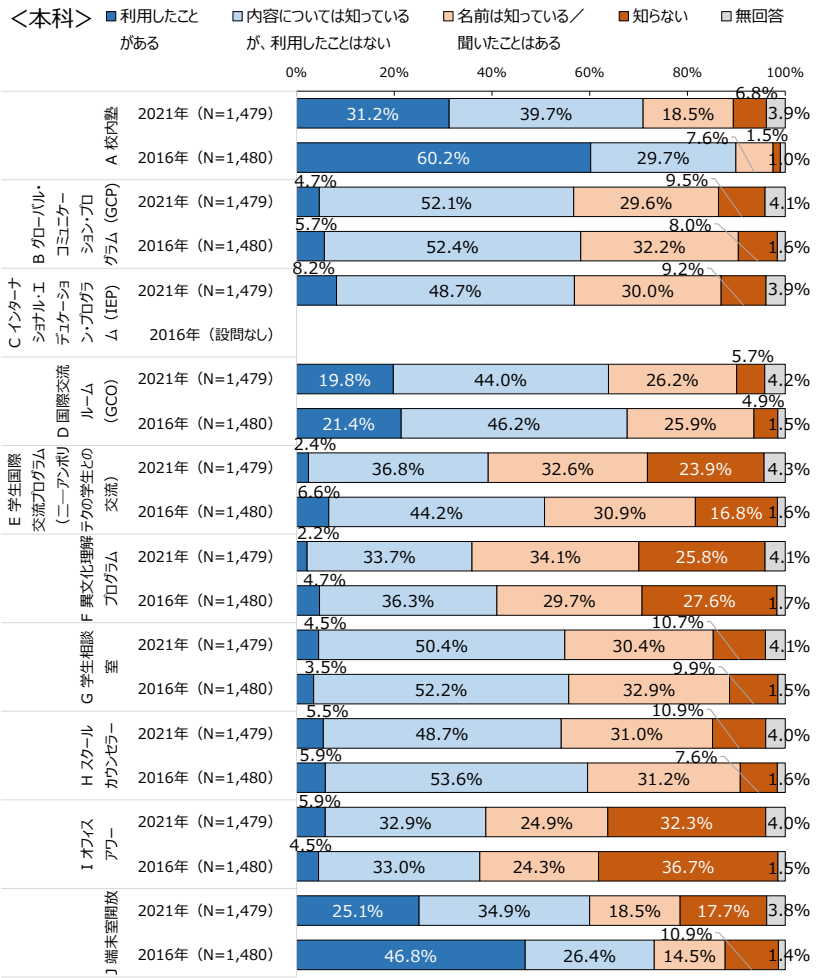
図表 2-18　進路別　就職・進学支援の満足度（本科）



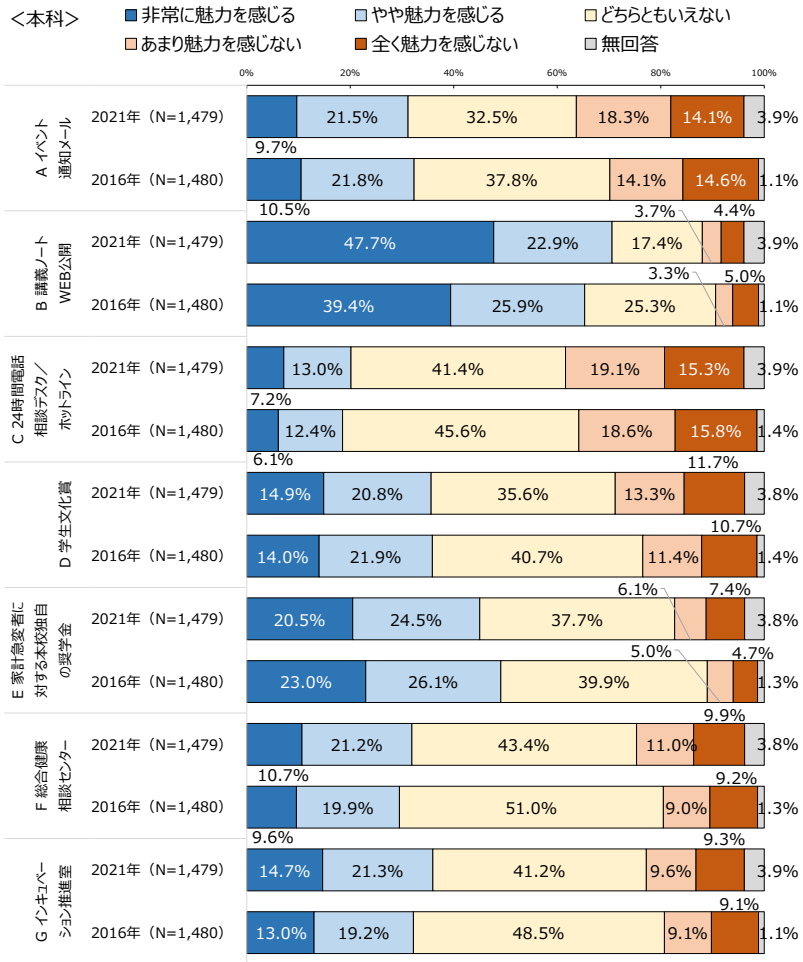
2－3－5　学校の制度・支援

- 学校の制度・支援について、「利用したことがある」割合は「校内塾」が 31.2%。大半の項目は 10%未満に留まり前回調査より減少。
- 魅力を感じる他校の学生支援制度・施策は、約 4～5 割が「講義ノート WEB 公開」に「非常に魅力を感じる」としている。

図表 2-19　学校の制度・支援の認知度（本科：N=1,479）



図表 2-20　魅力を感じる他校の学生支援制度・施策（本科：N=1,479）

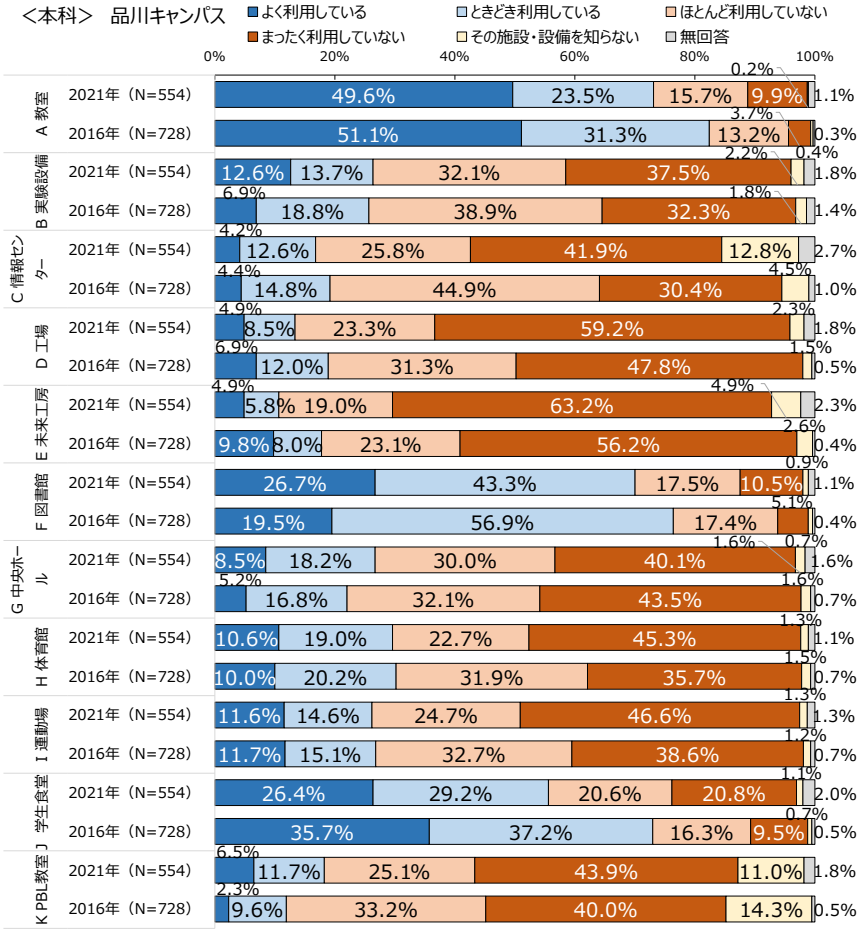


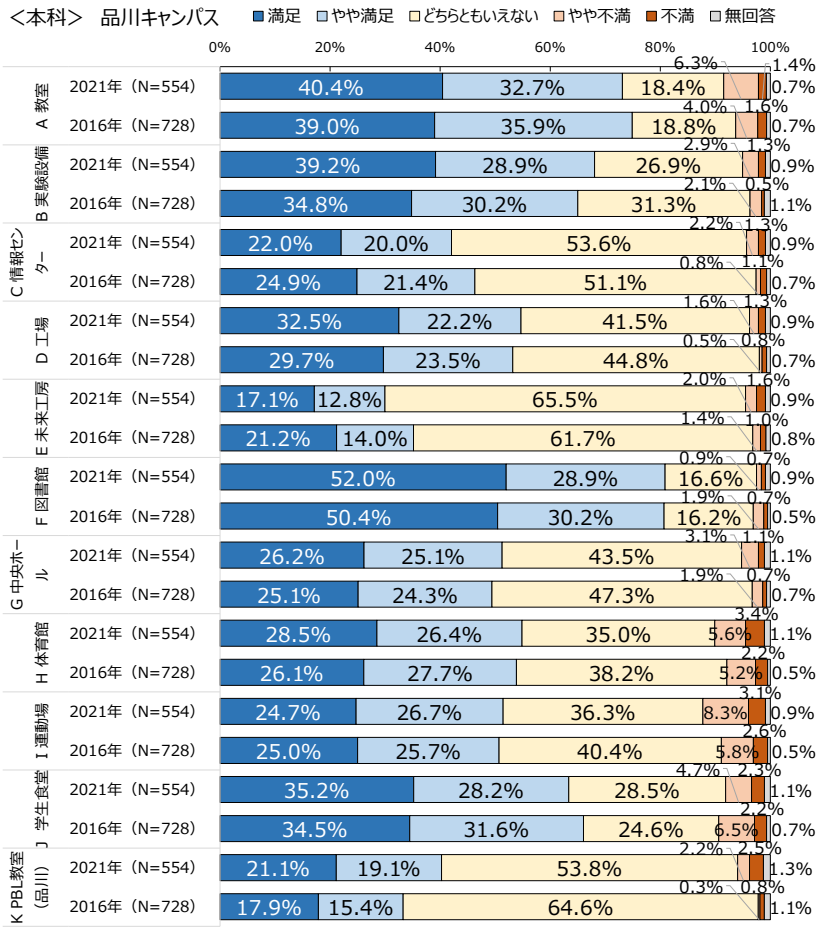
2－4　校内設備

2－4－1　校内設備・施設の利用状況（品川キャンパス）

- 品川キャンパスで利用されている施設は、「教室」73.1%、「図書館」70.0%、「学生食堂」55.6%である。
- 校内設備・施設の満足度は、前回調査と比較してほぼ同様。最も割合が高いのが「F 図書館」の 80.9%であった。

図表 2-21　校内設備・施設の利用状況（左）と満足度（右）（品川キャンパス）（本科：N=554）

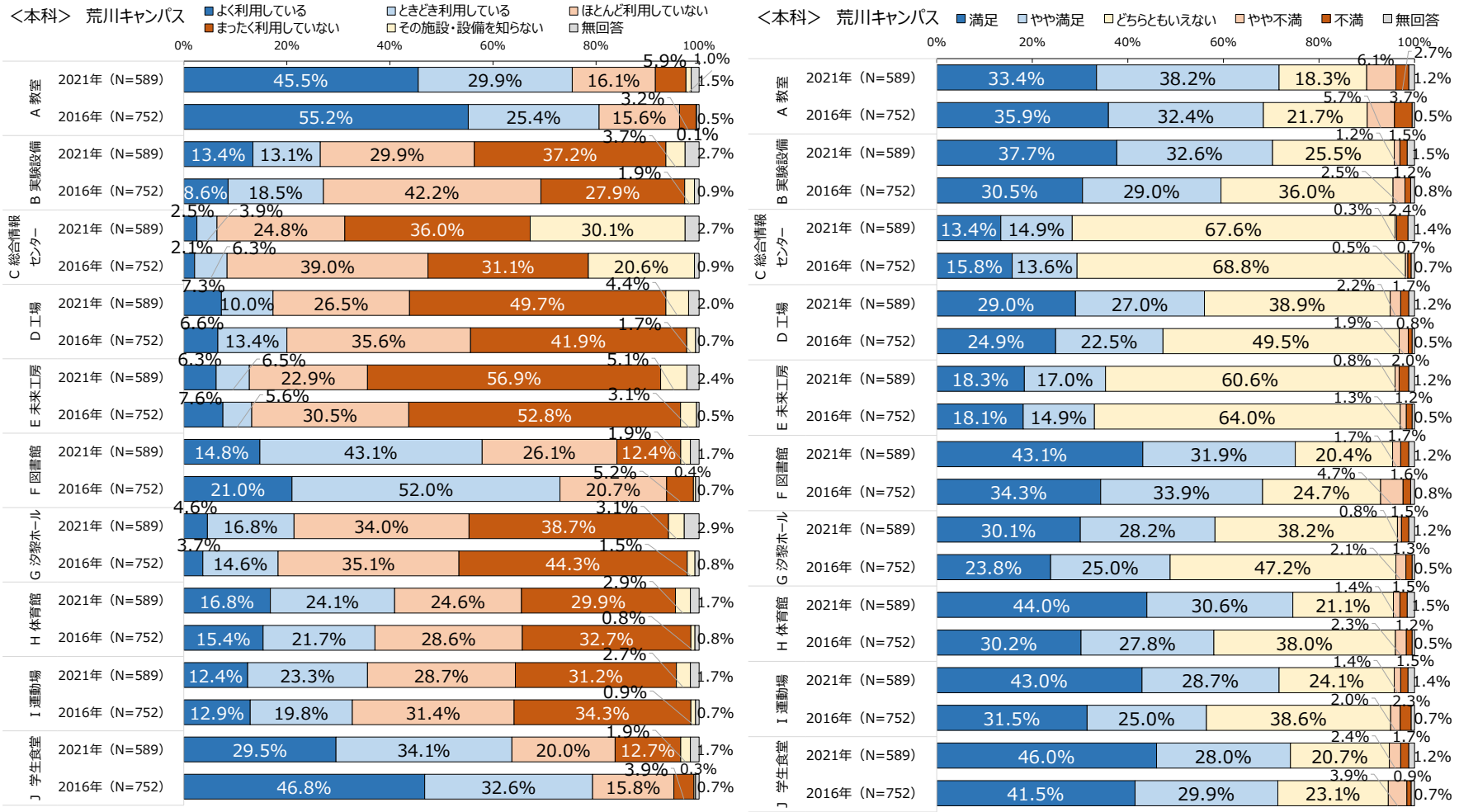




2－4－2　校内設備・施設の利用状況（荒川キャンパス）

- 荒川キャンパスで利用されている施設は、「A 教室」75.4%、「J 学生食堂」63.7%、「F 図書館」57.9%が上位 3 施設。
- 満足度は、前回調査と比較して「B 実験設備」「H 体育館」「I 運動場」が 10 ポイント以上アップしており、7 割以上が満足と回答。

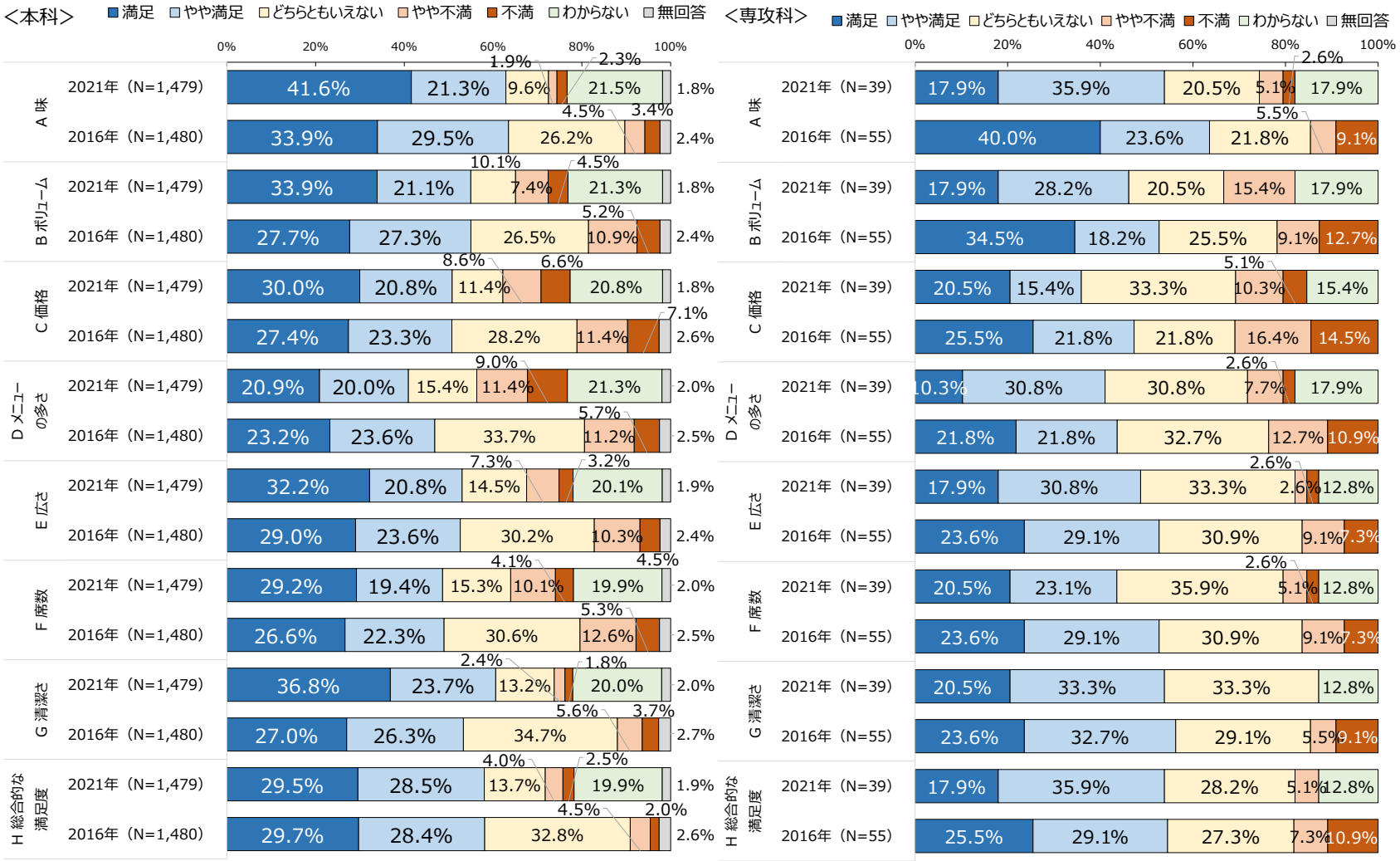
図表 2-22　校内設備・施設の利用状況（左）と満足度（右）（荒川キャンパス）（本科：N=589）



2－4－3　学生食堂

● 本科は、「清潔さ」において満足の割合が前回調査より増加した。

図表 2-23　学生食堂満足度（本科（左）：N=1,479　専攻科（右）：N=39）

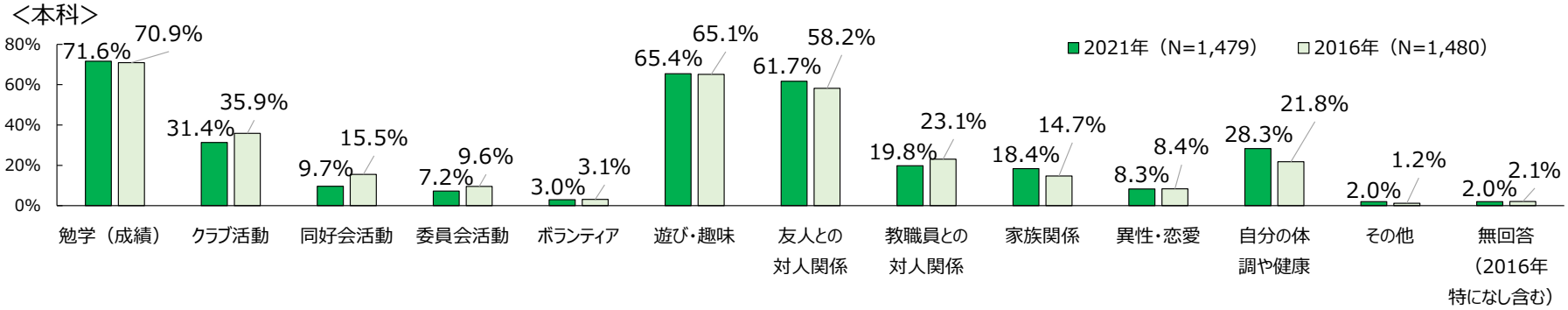


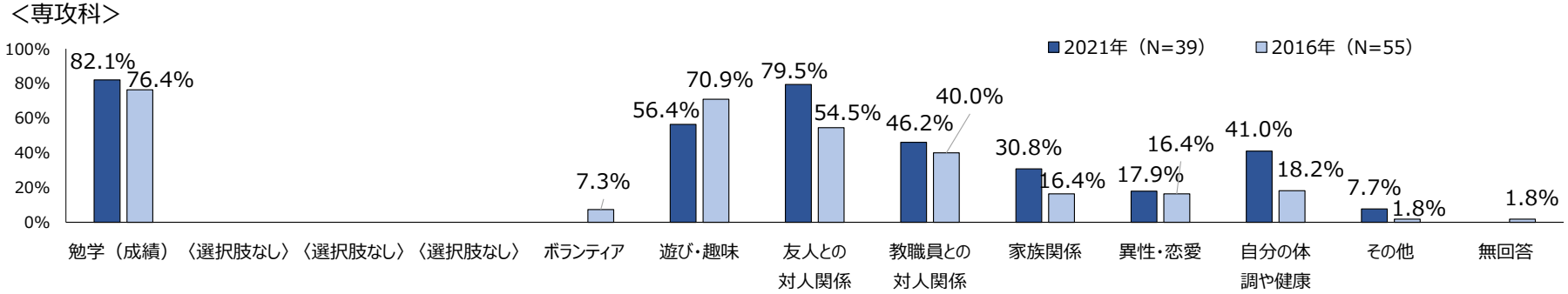
2－5　学生生活

2－5－1　学生生活で大事にしていること

- 学生生活で大事にしていることについて、本科では「勉学（成績）」が 7 割と最も高く、次いで「遊び・趣味」「友人との対人関係」である。専攻科では、「勉学（成績）」友人との対人関係」「遊び・趣味」の順となっている。

図表 2-24　学生生活で大事にしていること（本科（上）：N=1,479　専攻科（下）：N=39）

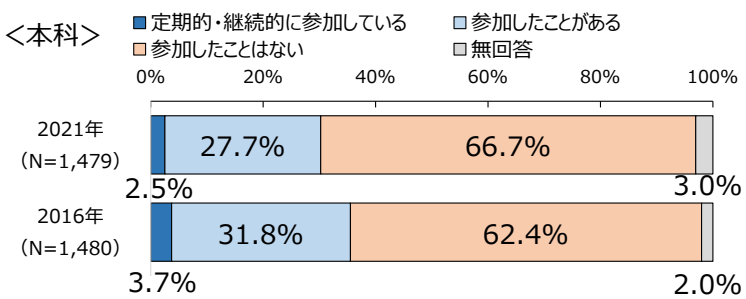


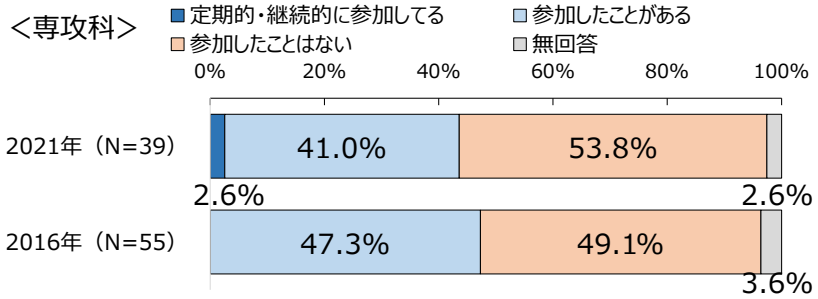


2－5－2　各活動の参加状況等

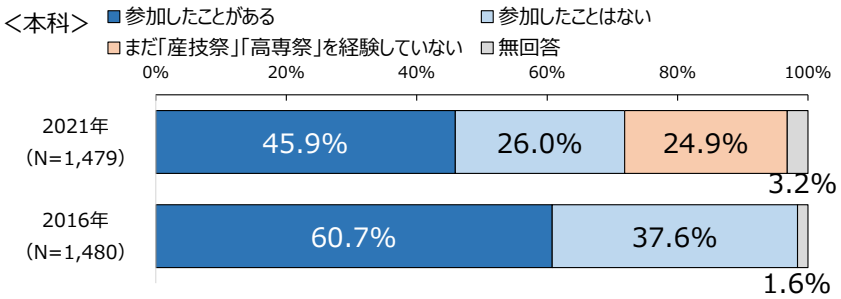
- ボランティア活動の参加状況は本科・専攻科共に大きな変化はない。
- 『産技祭』『高専祭』に「参加したことがある」と回答した割合は 45.9%で、前回調査の 60.7%から約 15 ポイント減少している。今回新たに選択肢に加わった「まだ『産技祭』『高専祭』を経験していない」が 24.9%で、全体の 1/4 を占めている(※)。
- 担任の必要性について、「必要だと思う」の専攻科の割合は、前回調査と比べ 10 ポイント以上高くなって 53.8%となっている。

図表 2-25　ボランティア活動の参加状況（本科（左）：N=1,479　専攻科（右）：N=39）

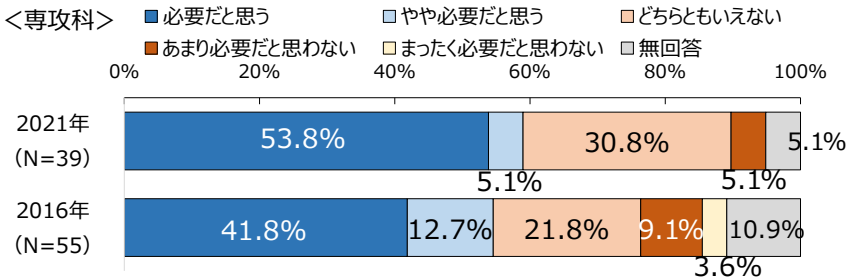




図表 2-26　「産技祭」「高専祭」の参加状況（本科：N=1,479）



図表 2-27　「担任」の必要性（専攻科：N=39）



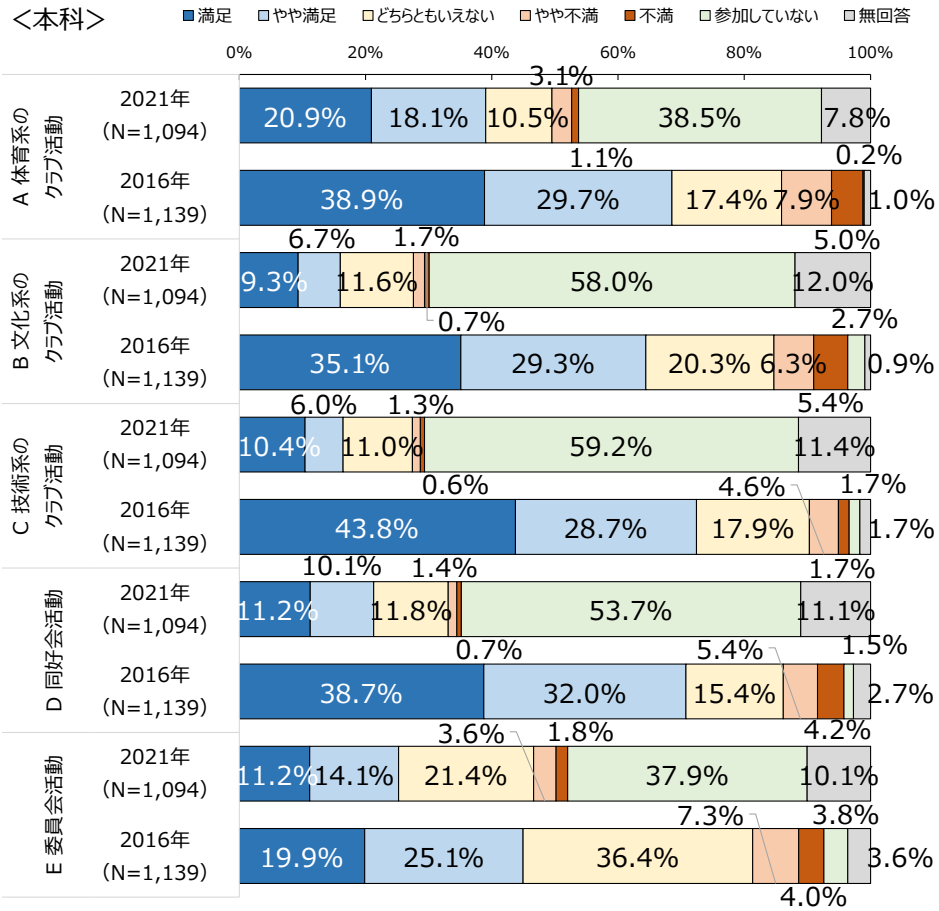
※『2020 年は新型コロナウイルス感染症拡大予防のため「産技祭」「高専祭」は開催せず、

また調査期間が 2021 年の開催前だったため、基本的に本科 1～2 年は「まだ「産技祭」「高専祭」を経験していない」にあたる。

2－5－3　課外活動の満足度

- 課外活動に「満足」と回答した割合は、前回調査と比較して全ての活動において低下している。
- 課外活動に「参加していない」と回答した割合が、全てのクラブ活動で 3 割以上となっており、前回調査を大きく上回った。コロナ禍での活動自粛などの影響が大きいと考えられる。

図表 2-28　課外活動の満足度（本科：N=1,094）

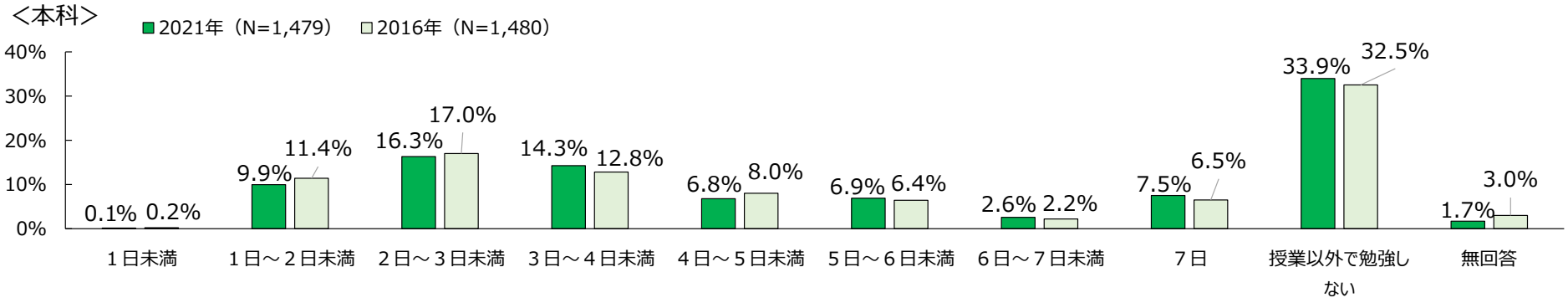


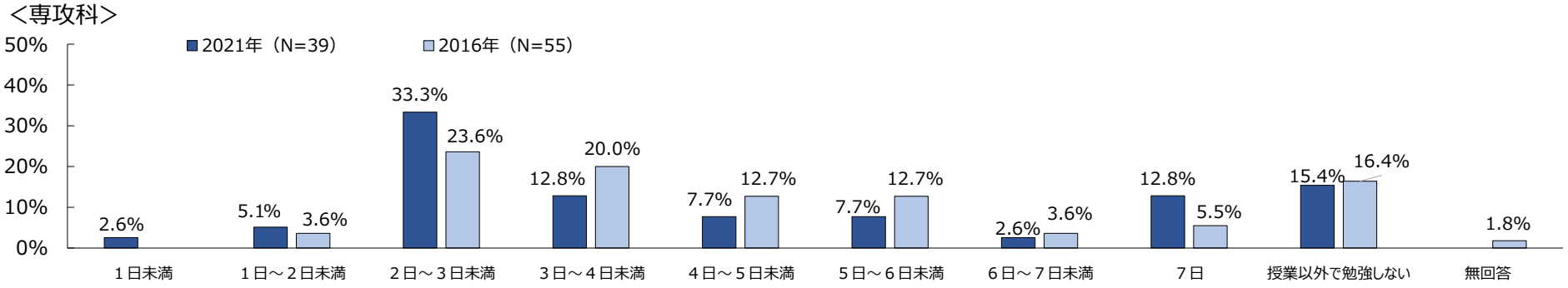
2－6　学習の状況

2－6－1 学校以外での勉強日数

● 学校以外での勉強日数として、本科は「授業以外で勉強しない」が 33.9%で最も割合が高い。専攻科は、「2 日～3 日未満」が 33.3%。

図表 2-29　学校以外での勉強日数（本科（上）：N=1,479　専攻科（下）：N=39）

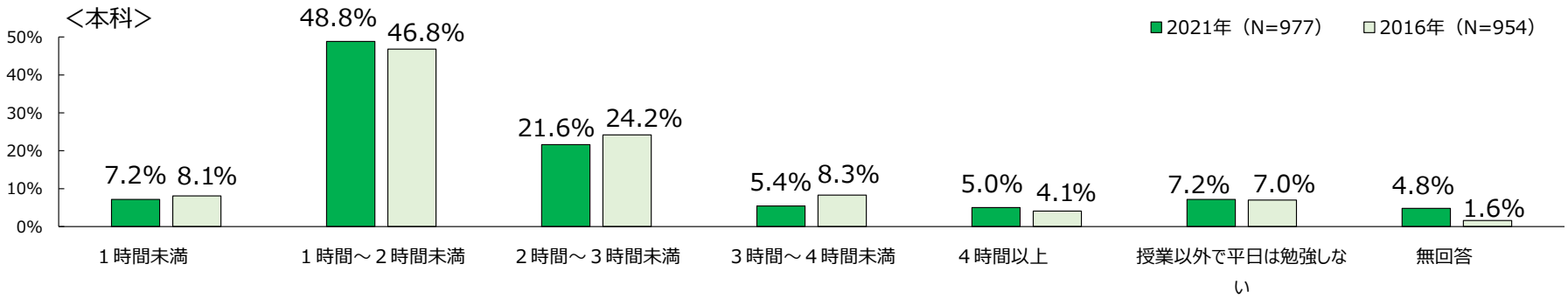




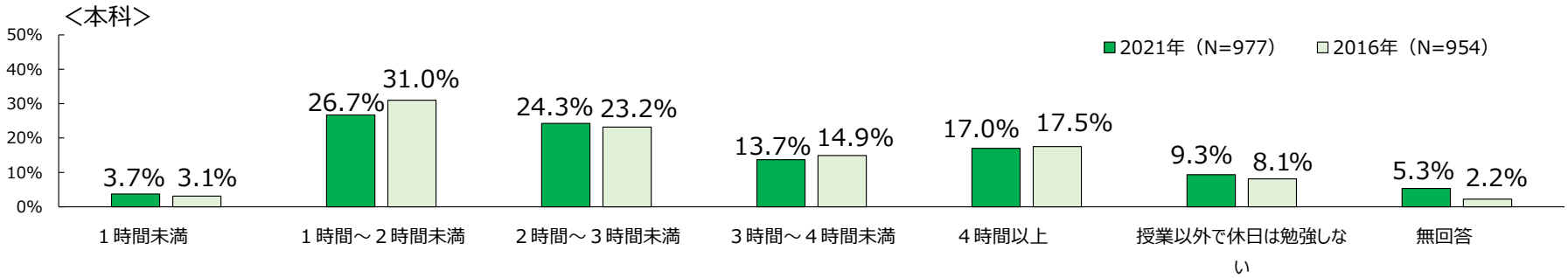
2－6－2　学校以外での勉強時間

- 学校以外での勉強時間（平日）は「1 時間～2 時間」が半数に近く、専攻科は「1 時間～2 時間」「2 時間～3 時間」がどちらも全体の 1/4 程度となっている。
- 学校以外での勉強時間（休日）は、「1 時間～2 時間未満」「2 時間～3 時間未満」が 25%程度であり、次いで「4 時間以上」が 17%となっている。

図表 2-30　学校以外での勉強時間（平日）（本科：N=977）



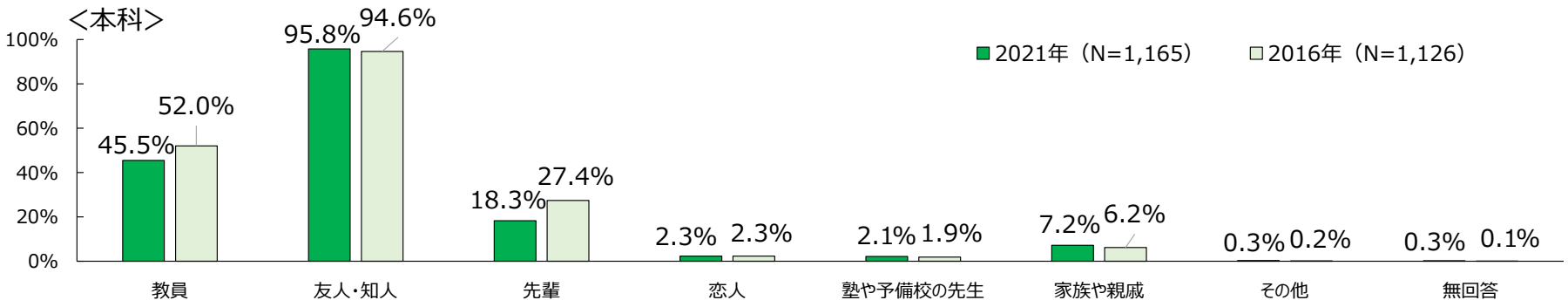
図表 2-31　学校以外での勉強時間（休日）（本科：N=977）



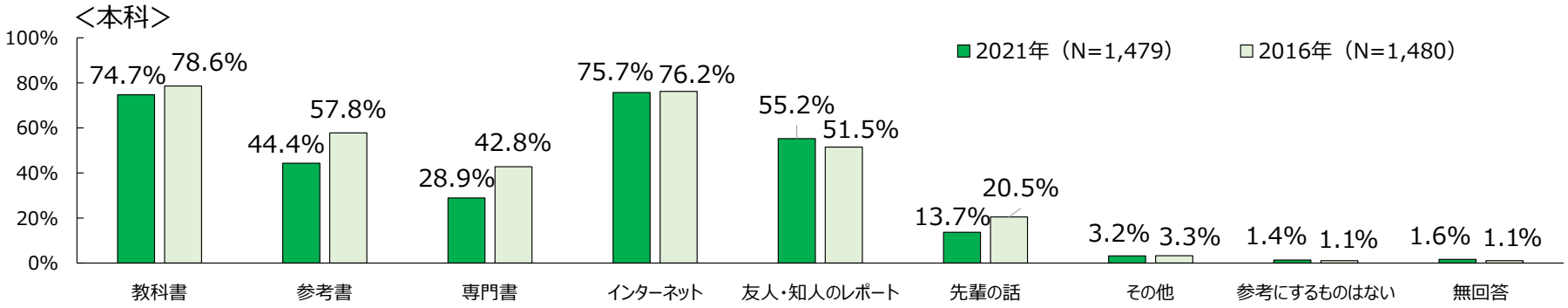
2－6－3　勉強で不明点があった場合等の情報源

- 勉強不明点の質問者は、本科では「友人・知人」が 95.8%と最も高く、次いで「教員」「先輩」となっている。
- レポート作成時の情報源は、「インターネット」「教科書」が共に 7 割を超えて活用されており、前回調査の結果とほぼ同様であった。一方で、「参考書」「専門書」を情報源とする割合は、前回調査から 10 ポイント以上減少している。

図表 2-32　勉強不明点の質問者（本科：N=1,165）



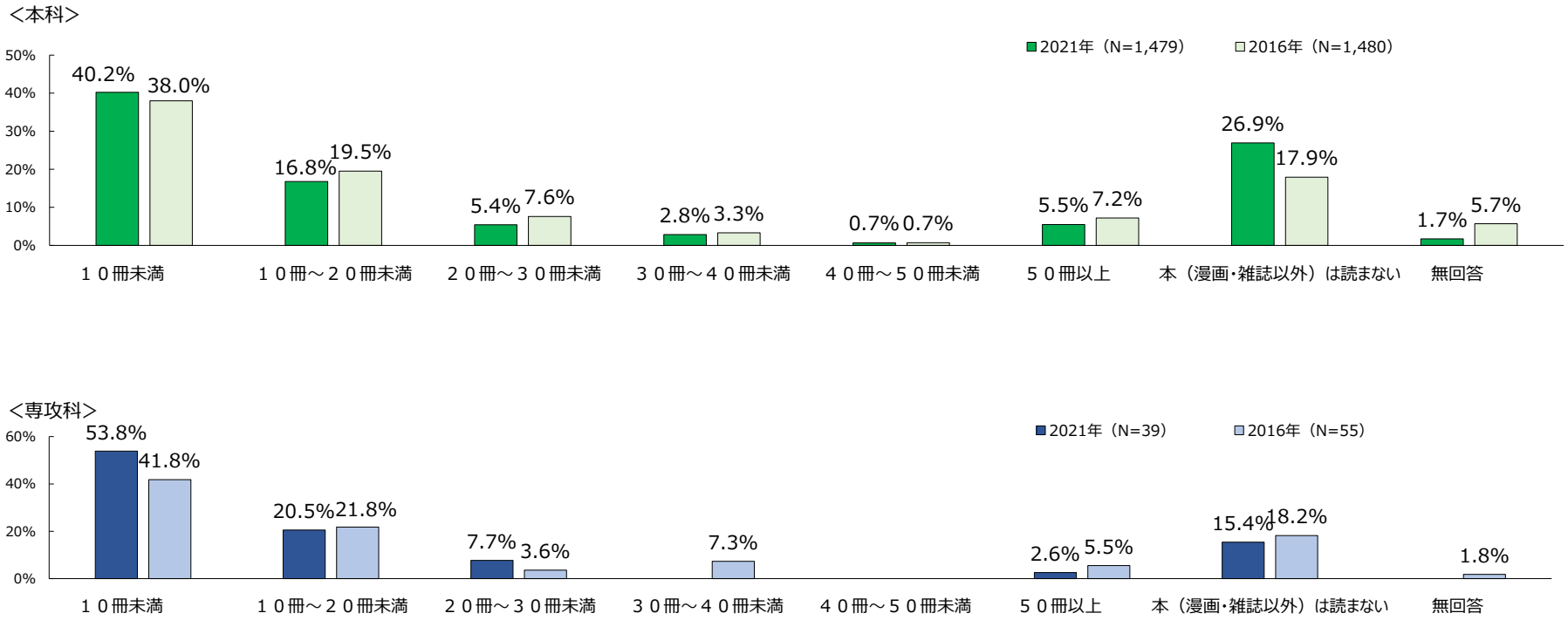
図表 2-33　レポート作成時の情報源（本科：N=1,479）



2－6－4　１年間の読書数

- １年間の読書数は本科・専攻科共に「10 冊未満」が最も高い。全体的な傾向として読書量は減っている。
- 本科では、前回調査から比べて「本（漫画・雑誌以外）は読まない」が約 10 ポイント増加し、「10 冊～20 冊未満」を抜いて 2 番目となっている。

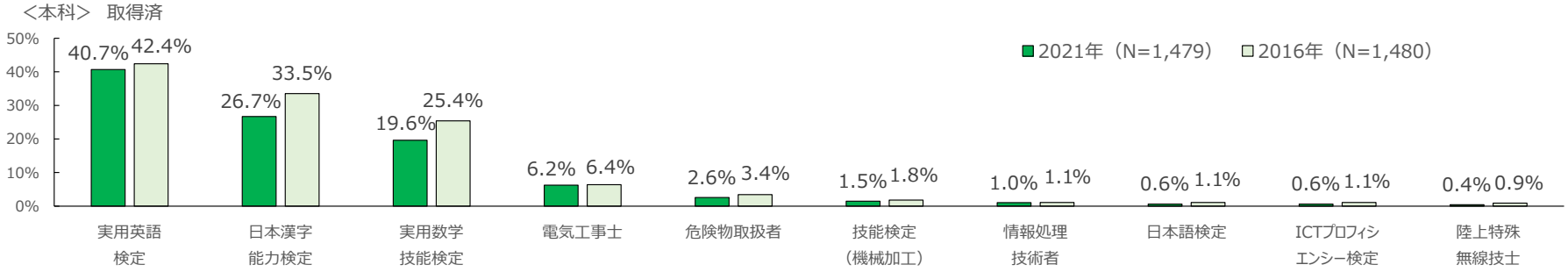
図表 2-34　１年間の読書数（本科（上）：N=1,479　専攻科（下）：N=39）



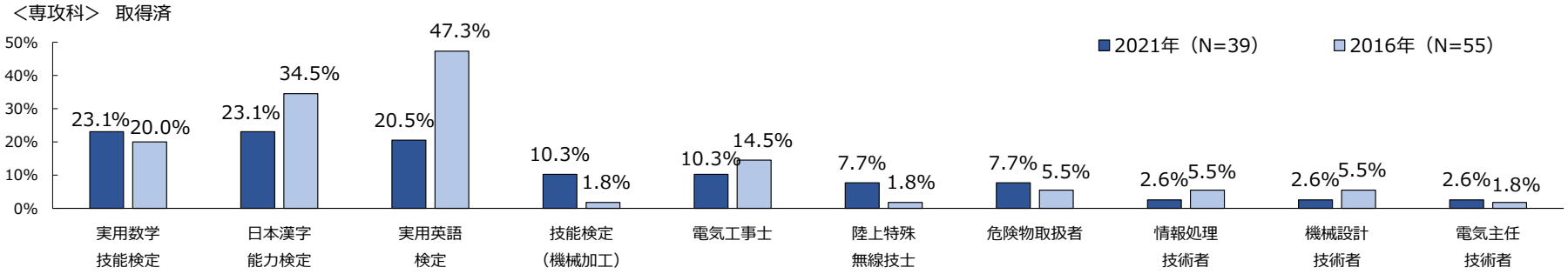
2－6－5　資格取得状況（取得済）

- 本科は「実用英語検定」「日本漢字能力検定」「実用数学技能検定」の順となっているが、前回調査よりも取得率は低下している。
- 専攻科も取得率の高い検定は本科と同じだが、特に「実用英語検定」は前回調査の半分未満となっている。

図表 2-35　資格取得状況（取得済、上位 10）（本科：N=1,479）



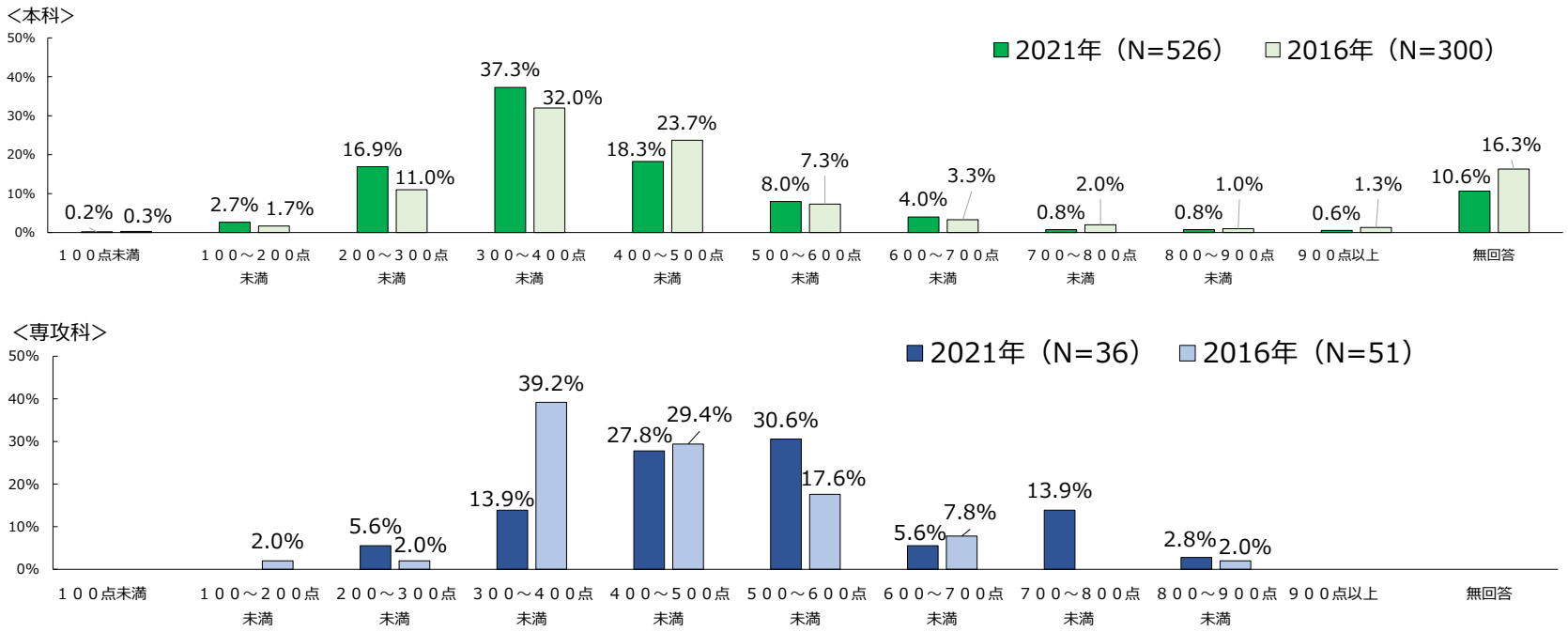
図表 2-36　資格取得状況（取得済、上位 10）（専攻科：N=39）



2－6－6　ＴＯＥＩＣ受験状況

- ＴＯＥＩＣ受験時のスコアは、本科では「300～400 点未満」が最も高く、次いで「400～500 点未満」、「200～300 点未満」となった。
- 専攻科では、「500～600 点未満」「700～800 点未満」の割合が前回より高く、「300～400 点未満」の割合が減っている。

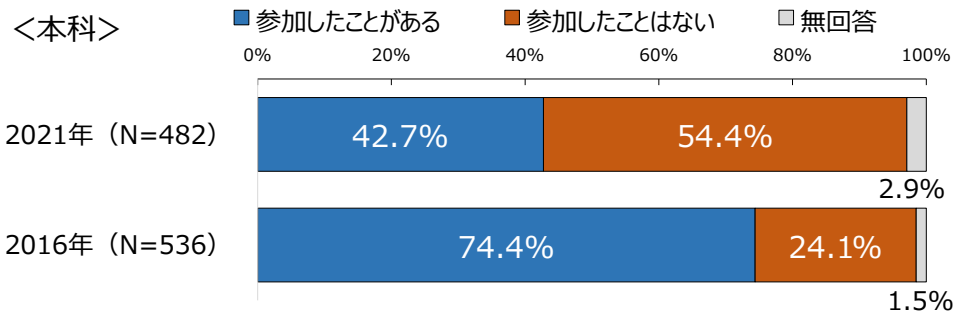
図表 2-37　ＴＯＥＩＣ受験時のスコア（本科（上）：N=526　専攻科（下）：N=36）



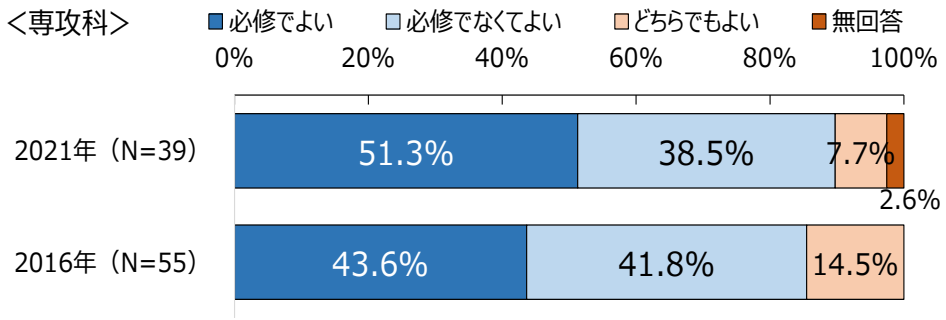
2－6－7　インターンシップ

- 本科では、インターンシップに「参加したことがある」と回答した割合は 42.7%で、コロナ禍等の影響もあり、前回調査の 2/3 程度になっている。
- 専攻科では、インターンシップは「必修でよい」が 51.3%と前回調査を 7.7 ポイント増加。

図表 2-38　インターンシップの参加状況（4、5 年生）（本科：N=482）



図表 2-39　インターンシップの必修の是非（専攻科：N=39）

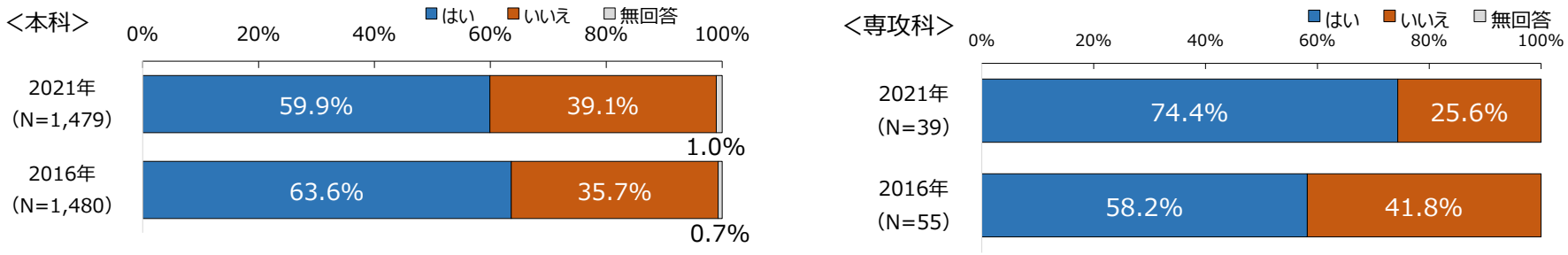


2－7　海外に関する意識

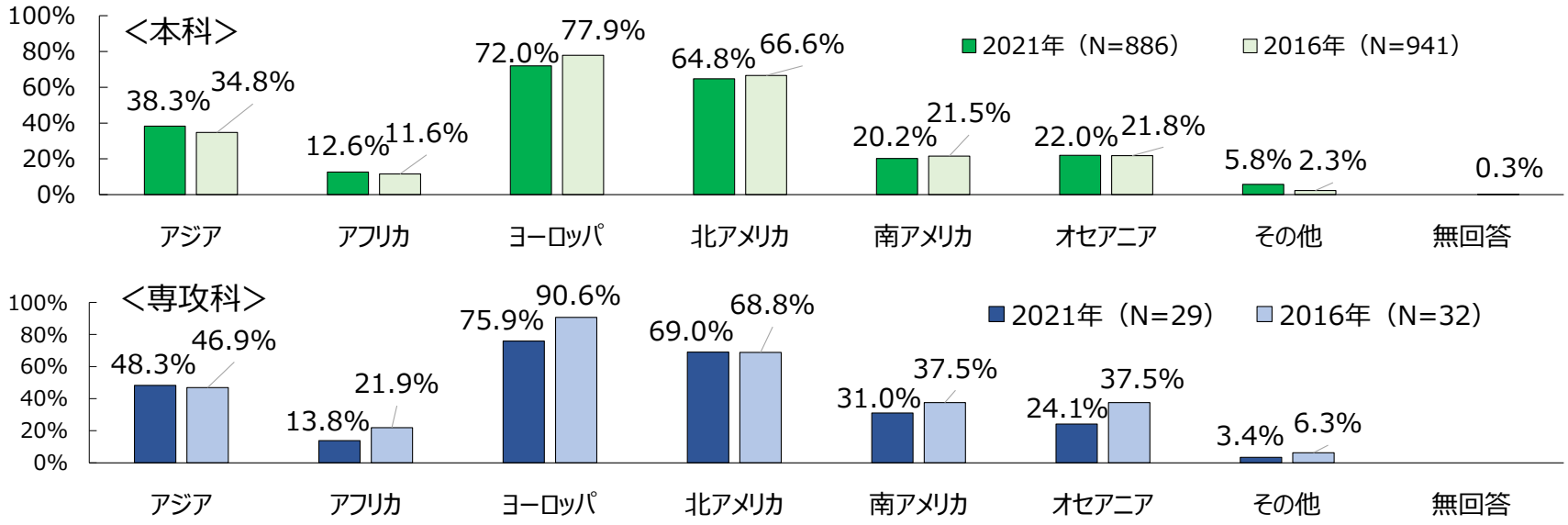
2－7－1　海外渡航意向

- 海外渡航意向は、本科では前回調査と大きな変化はないが、専攻科は増加している。
- 渡航希望地域について、前回調査同様、本科・専攻科共に「ヨーロッパ」が最も高く、次いで「北アメリカ」「アジア」と続いている。

図表 2-39　海外渡航意向（本科（左）：N=1,479　専攻科（右）：N=39）



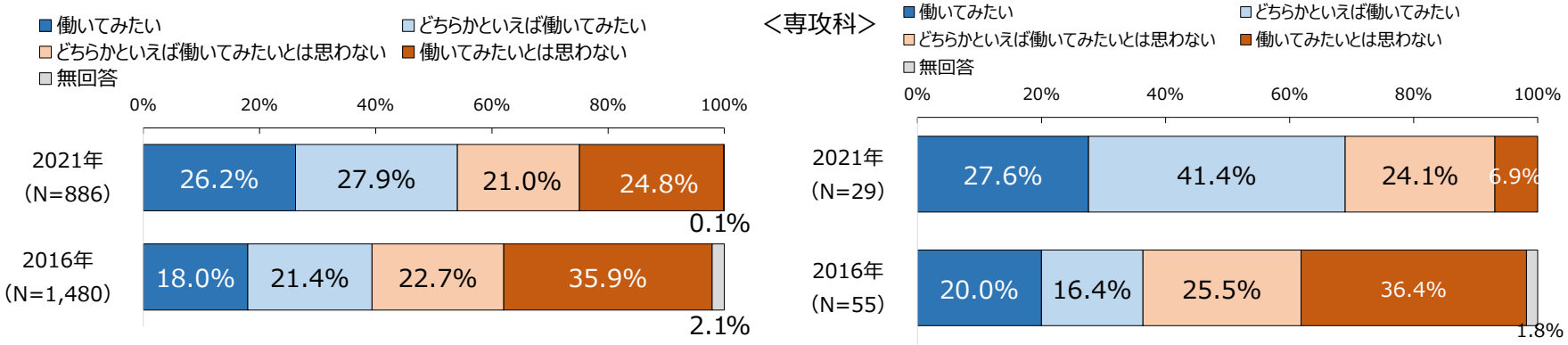
図表 2-40　渡航希望地域（本科（上）：N=886　専攻科（下）：N=29）



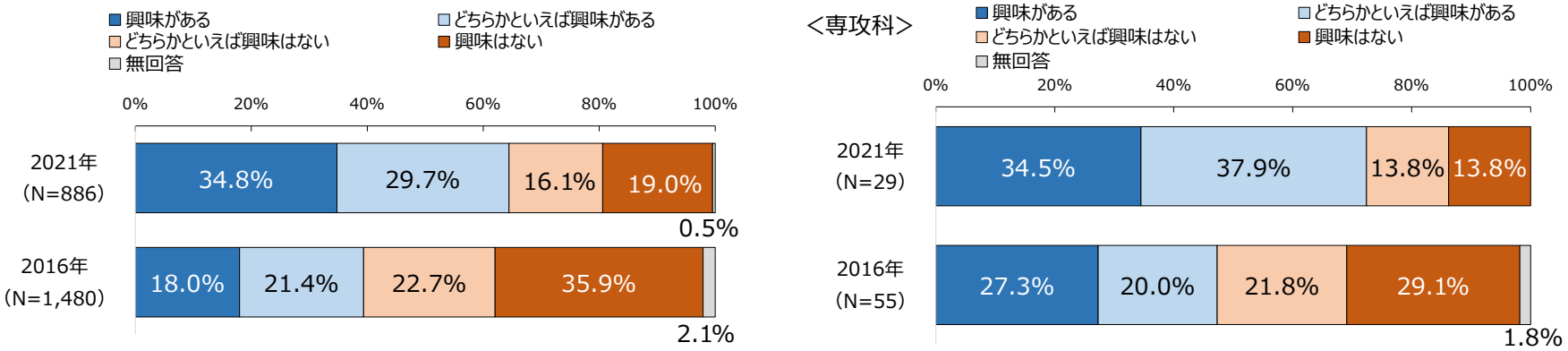
2－7－2　海外就労意向

- 海外就労意向については、本科、専攻科とも前回調査と比べ、「働いてみたい」「どちらかといえば働いてみたい」の割合が増加しており、特に専攻科の伸びが大きい。
- 留学興味度についても、同様に前回調査と比較すると「興味がある」「どちらかといえば興味がある」の割合が増加している。
- これらにより、コロナ禍 2 年目の調査であっても、全般的に海外志向が高まっていることが分かる。

図表 2-41　海外就労意向（本科（左）：N=886　専攻科（右）：N=29）



図表 2-42　留学興味度（本科（左）：N=886　専攻科（右）：N=29）

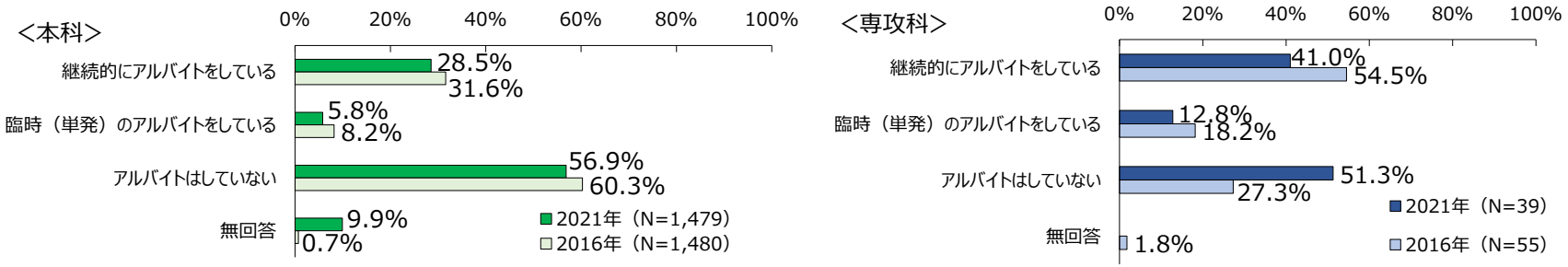


2－8　生活状況

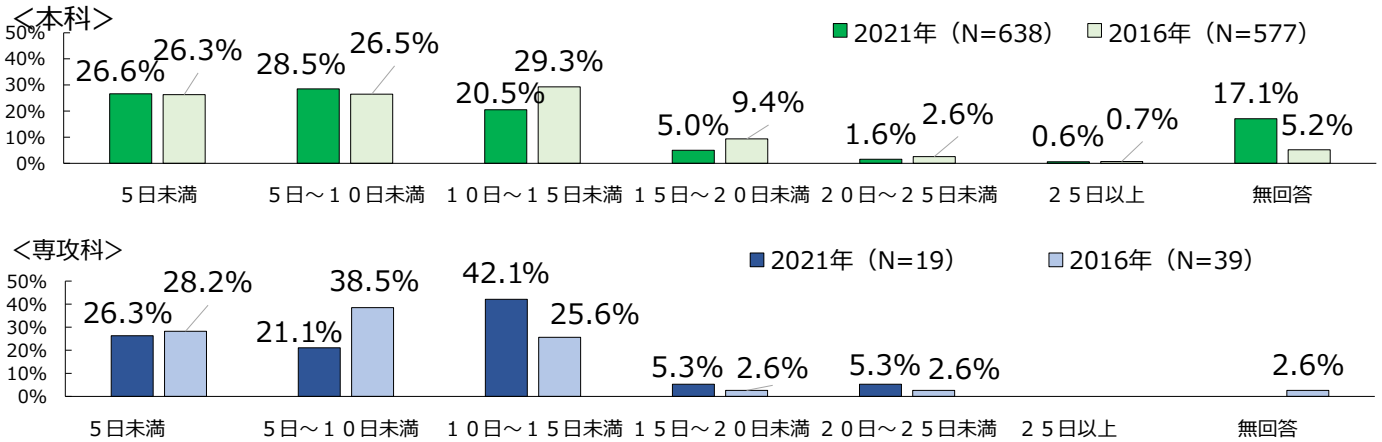
2－8－1　アルバイト従事状況

- 本科はすべての項目で前回調査と回答割合に大差がないのに対し、専攻科はアルバイトを「している」割合はどちらも減少し、「アルバイトはしていない」は前回調査から倍増している。
- 平均労働日数で最も多いのは、本科は「5～10 日未満」で 28.5%、専攻科は「10 日～15 日未満」が 42.1%で前回調査よりも増加した。

図表 2-44　アルバイト従事状況（本科：N=1,479　専攻科：N=39）



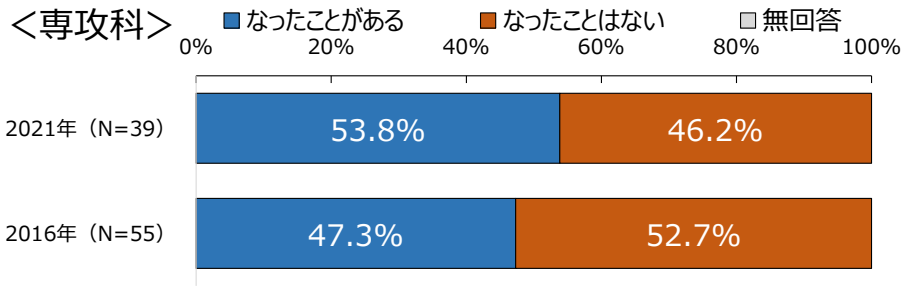
図表 2-45　アルバイト平均労働日数（本科（上）：N=638　専攻科（下）：N=19）



2－8－2　スチューデント・アシスタント従事経験

● 専攻科のスチューデント・アシスタントに従事したことがある割合は 53.8%で、前回調査よりも 6.5 ポイント増加している。

図表 2-46　スチューデント・アシスタント従事経験（専攻科：N=39）

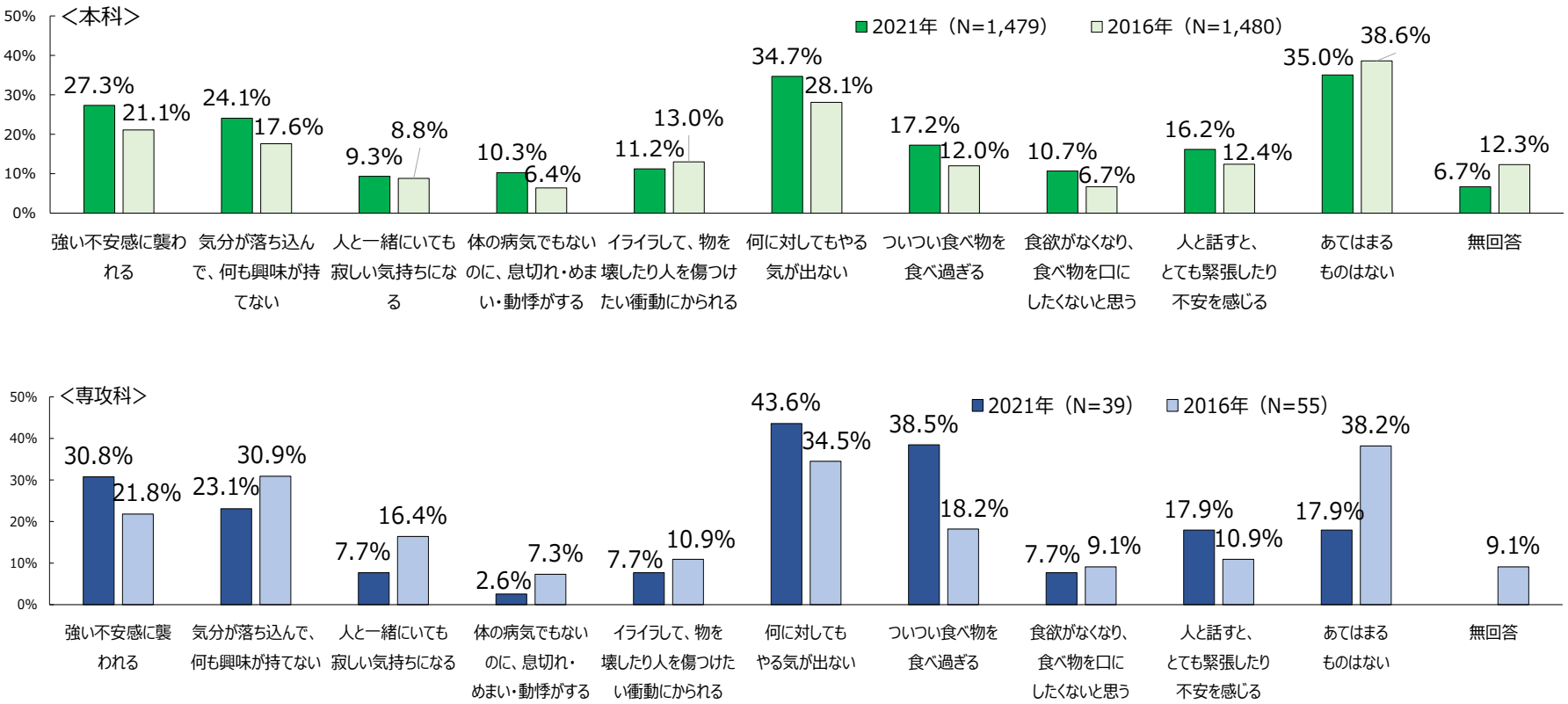


※ スチューデント・アシスタント制度は、各キャンパス内で放課後に校内塾を開塾し、本科の上級生や専攻科生が 1､2 年生に基礎科目に対する質問に答えたり、コンピュータスキルに関する助言を行ったりといった、学生同士による支援制度。

2－8－3　生活全般で感じる心身の不調等

- 本科は前回調査と比べ「何に対してもやる気が出ない」「強い不安感に襲われる」「気分が落ち込んで何も興味が持てない」が 5 ポイント以上増加している。
- 専攻科は本科と同じ項目が概ね高いが、前回調査より最も割合が増加したのは「ついつい食べ物を食べ過ぎる」で 2 倍以上となった。

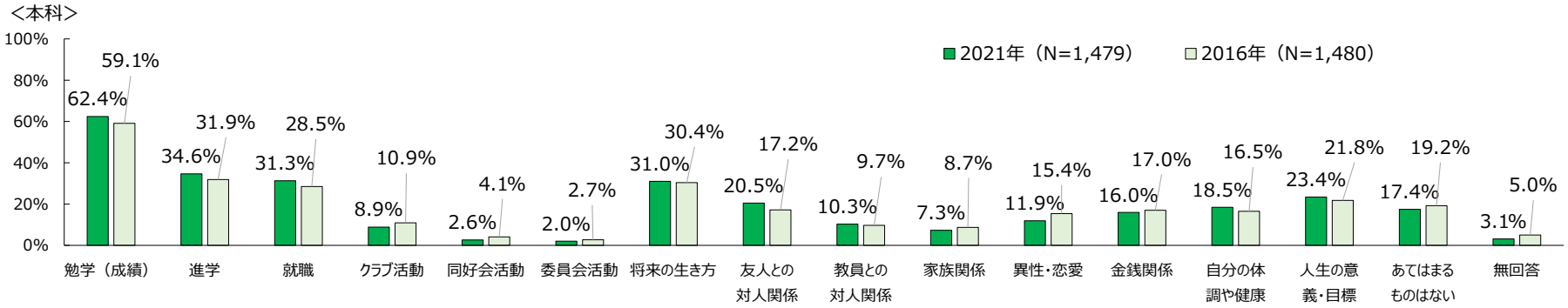
図表 2-47　生活全般で感じる心身の不調等（本科（上）：N=1,479　専攻科（下）：N=39）

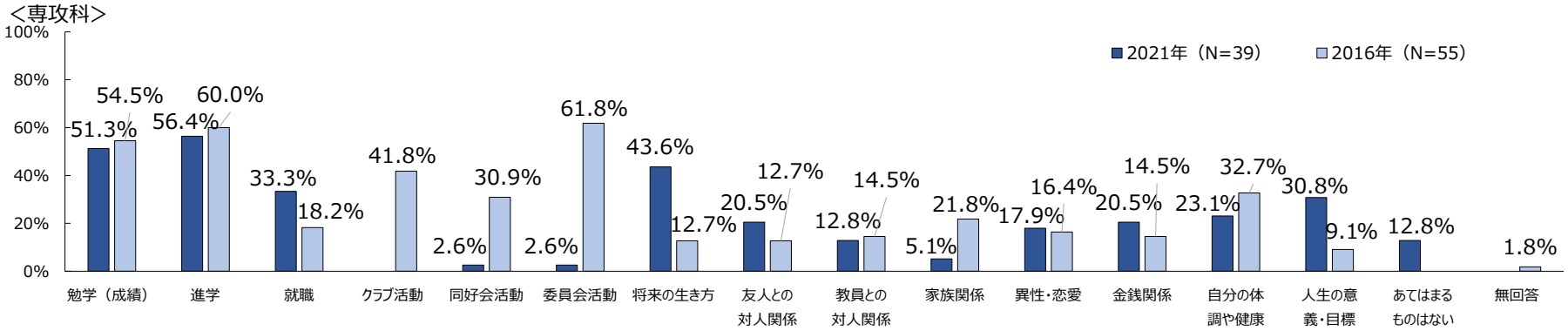


2－8－4　学生生活における悩み・不安

- 本科は前回調査と同様に「勉学（成績）」の割合が最も高く、次いで「進学」「就職」「将来の生き方」となっており、専攻科は「進学」「勉学（成績）」「将来の生き方」が上位となった。
- 特に専攻科において、前回調査で高い割合だった「委員会活動」「クラブ活動」「同好会活動」は大幅に減少した。が、これは活動機会が減少したからであると考えられる。

図表 2-48　学生生活における悩み・不安（本科（上）=1,479　専攻科（下）39）

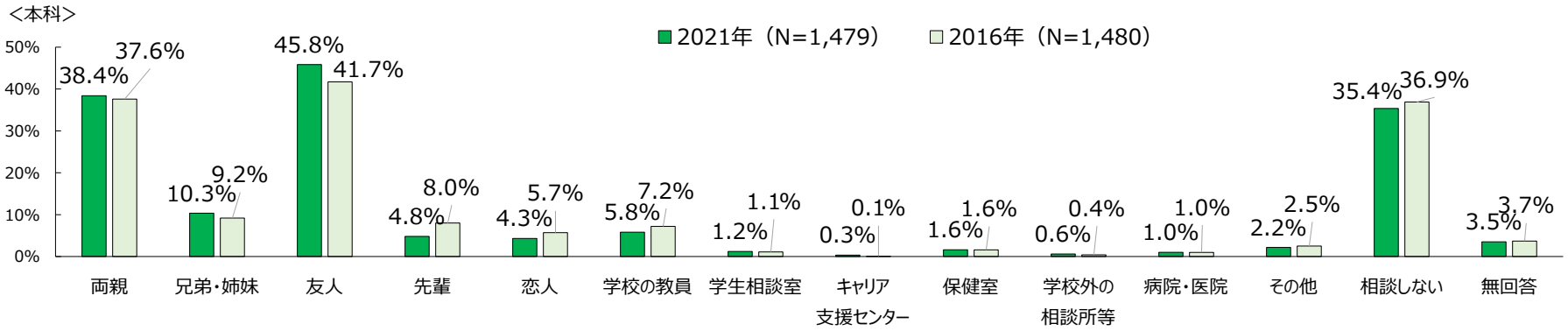


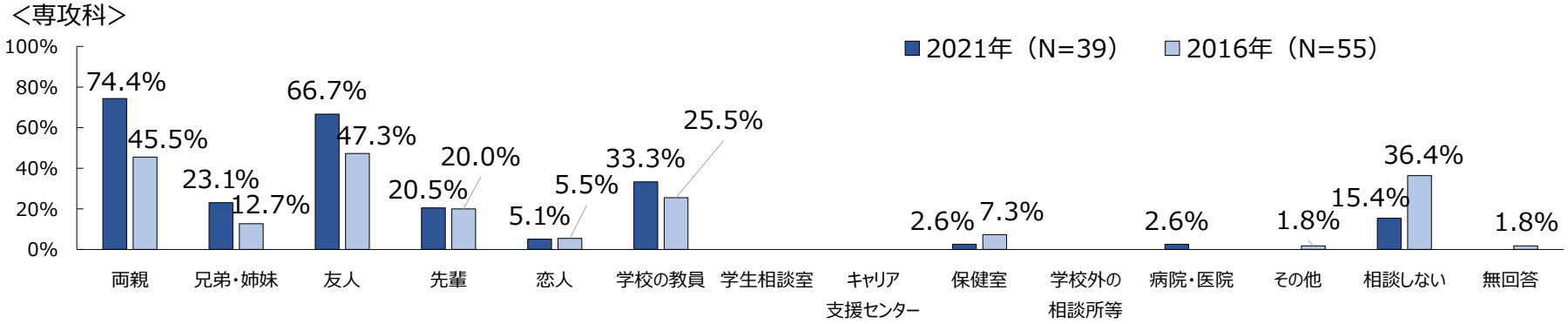


2－8－5　悩み・不安の相談相手

- 悩み・不安の相談相手は、本科・専攻科共に「友人」「両親」が高く、本科は次いで「相談しない」の割合が前回同様に高くなっている。
- 本科・専攻科共に、「学校の教員」「学生相談室」「キャリア支援センター」「保健室」の校内を相談先とする割合が低い点は、学校としての課題である。

図表 2-49　悩み・不安の相談相手（本科（上）：N=1,479　専攻科（下）：N=39）

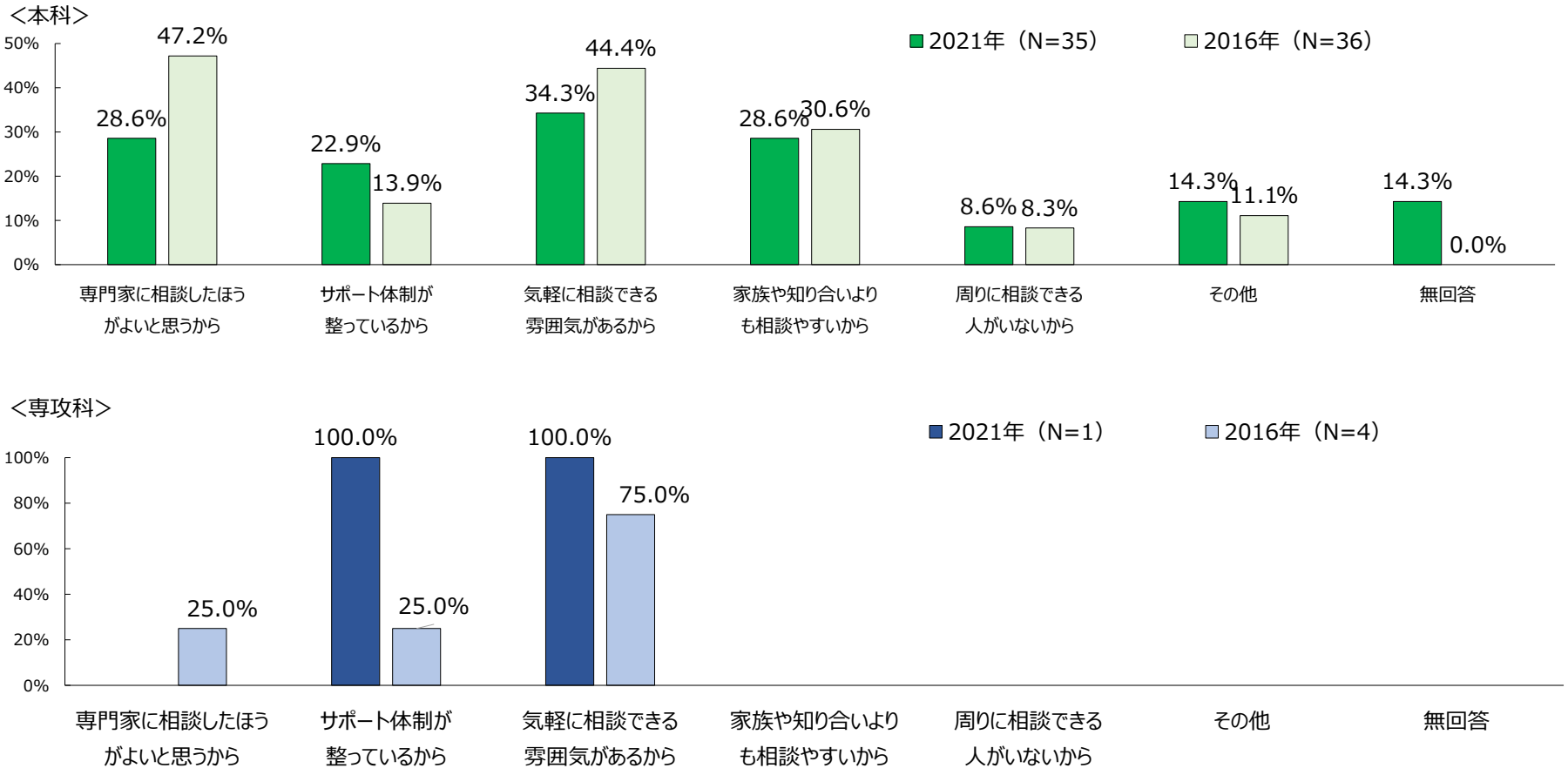




2－8－6　学生相談室・キャリア支援センター・保健室等利用の理由

- 本科は、「気軽に相談できる雰囲気があるから」が最も高く、次いで「専門科に相談したほうがよいと思うから」「家族や知り合いよりも相談しやすいから」となったが、全体的に前回調査よりも割合は減少している。
- 専攻科の回答は「サポート体制が整っているから」「気軽に相談できる雰囲気があるから」の 2 項目で、どちらも前回調査より高い。

図表 2-43　学校内の施設での悩み・不安相談理由（本科（上）：N=35　専攻科（下）N=1）

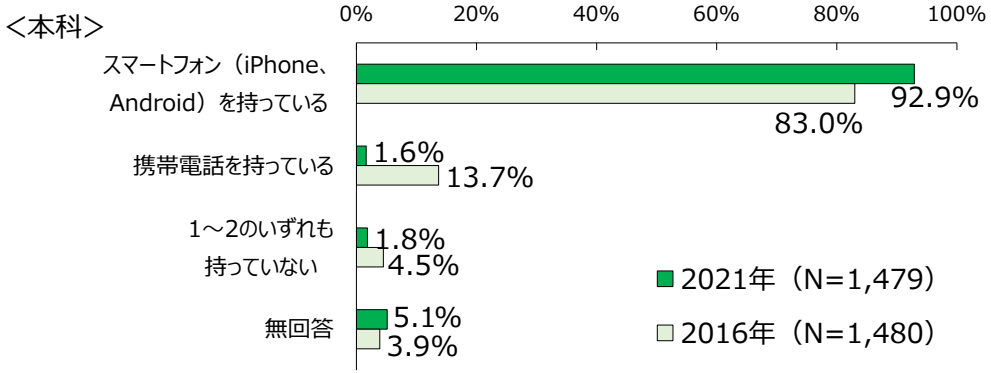


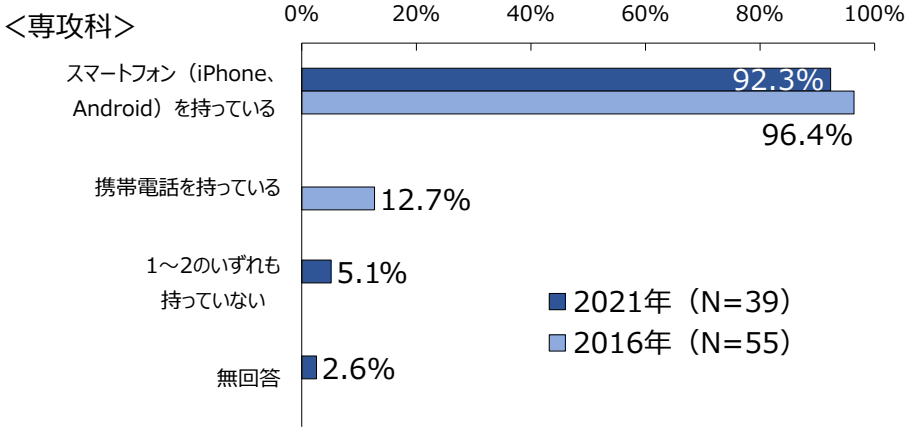
2－9　情報端末（スマートフォンやパソコンなど）の利用

2－9－1　スマートフォン所有状況

● スマートフォン所有状況は、本科・専攻科共に「スマートフォン（iPhone、Android）を持っている」が 9 割以上で最も割合が高い。

図表 2-51　スマートフォン所有状況（本科（上）：N=1,479　専攻科（下）：N=39）

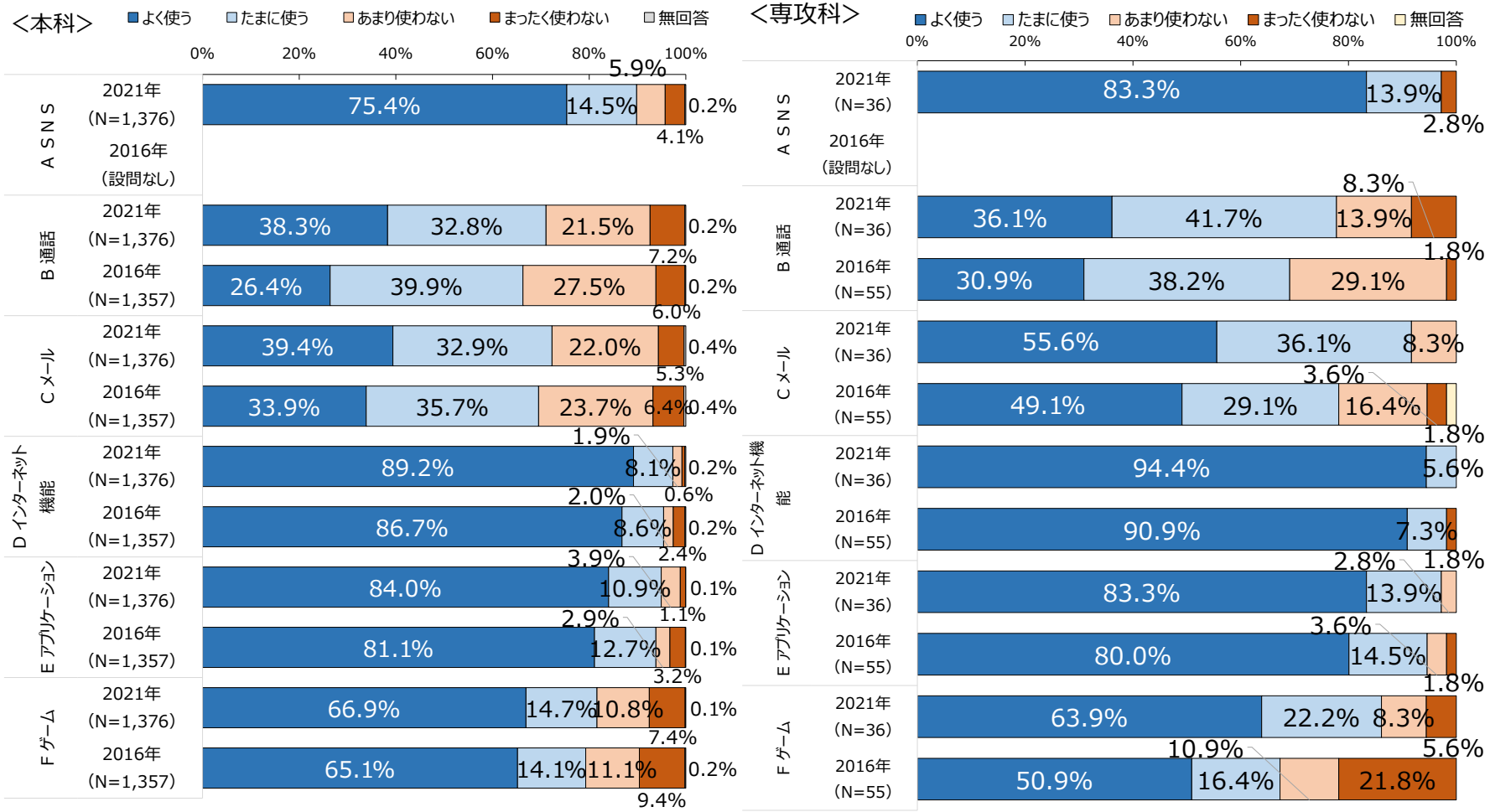




2－9－2　スマートフォン使用状況

- スマートフォン使用状況は、本科・専攻科共に「SNS」「インターネット」「アプリケーション」について「よく使う」の割合が高い。「通話」は約４割弱に留まっている。

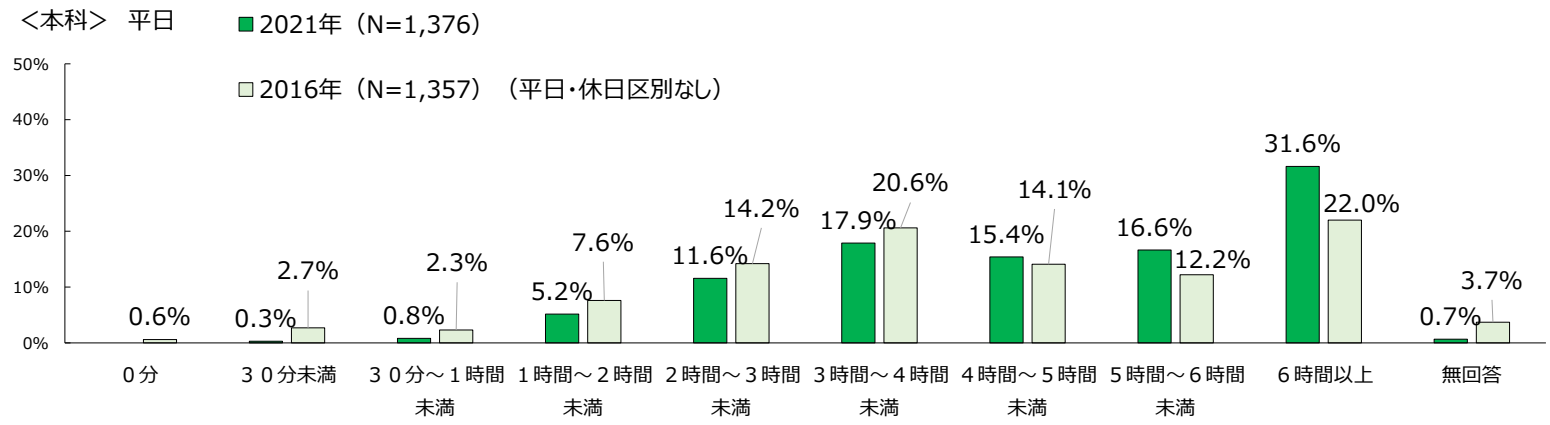
図表 2-44　スマートフォン使用状況（本科（左）：N=1,376　専攻科（右）：N=36）

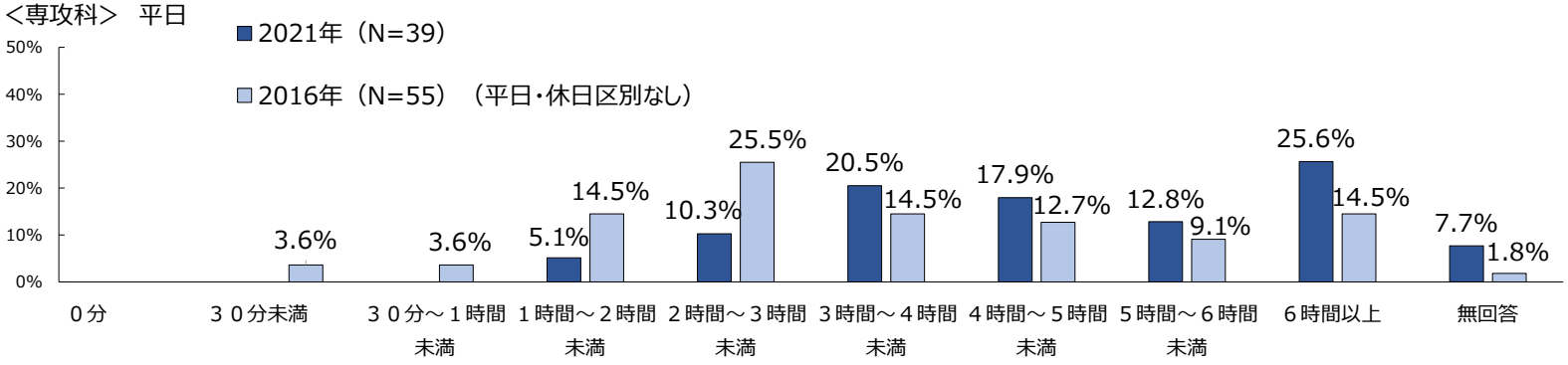


2－9－3　スマートフォン使用時間（平日）

- スマートフォン使用時間（平日）は、本科・専攻科共に「6 時間以上」が最も割合が高く、次いで「3～4 時間未満」となっている。
- 本科は 4 時間以上、専攻科は 3 時間以上の割合が前回調査を上回っており、使用時間が大きく増加している。

図表 2-45　スマートフォン使用時間（平日）（本科（上）：N=1,376　専攻科（下）：N=39）

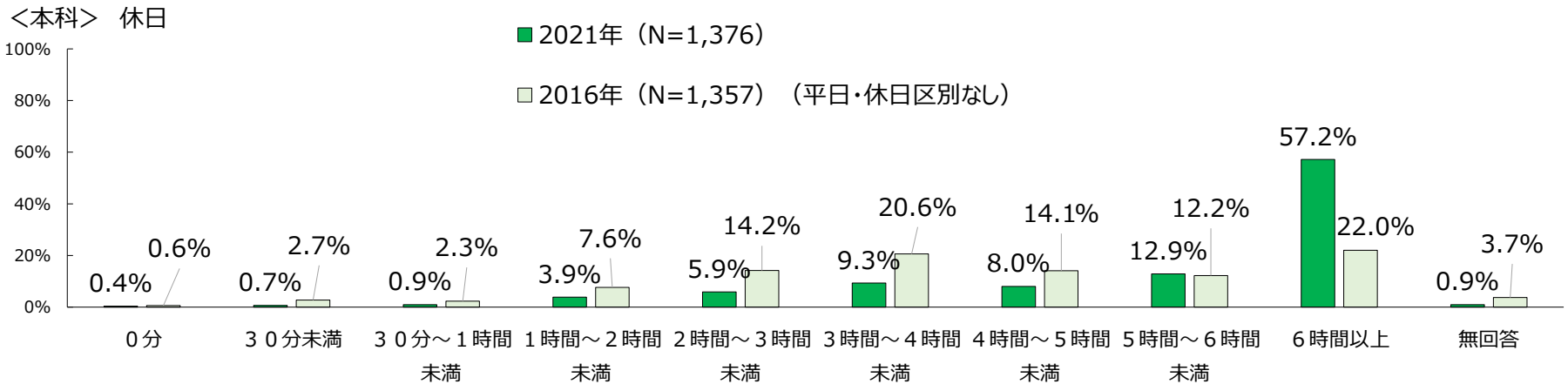


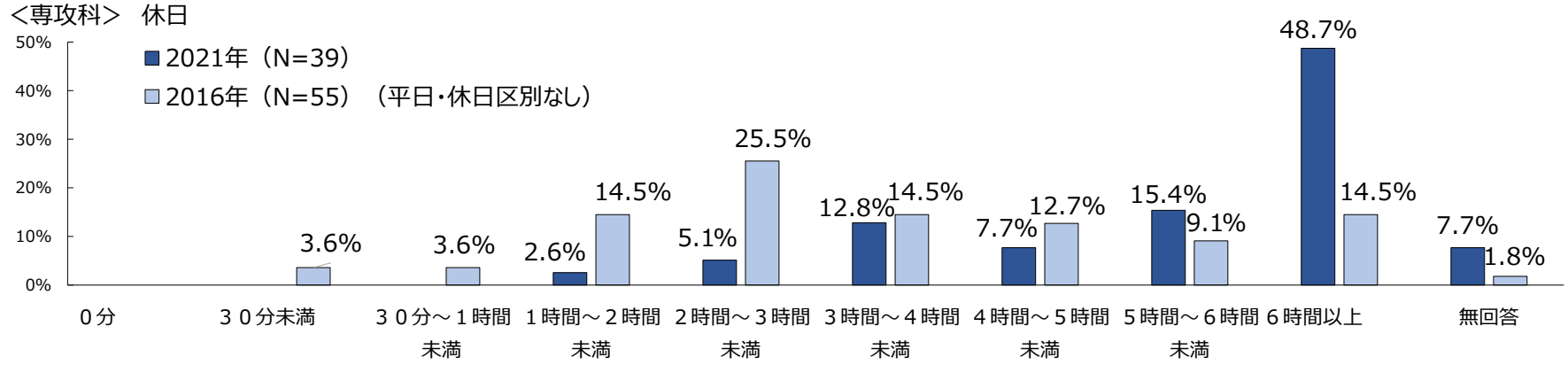


2－9－4　スマートフォン使用時間（休日）

- スマートフォン使用時間（休日）についても、平日同様、本科・専攻科共に「6 時間以上」が最も割合が高く、「5 時間～6 時間未満」が続いている。

図表 2-46　スマートフォン使用時間（休日）（本科（上）：N=1,376　専攻科（下）：N=39）

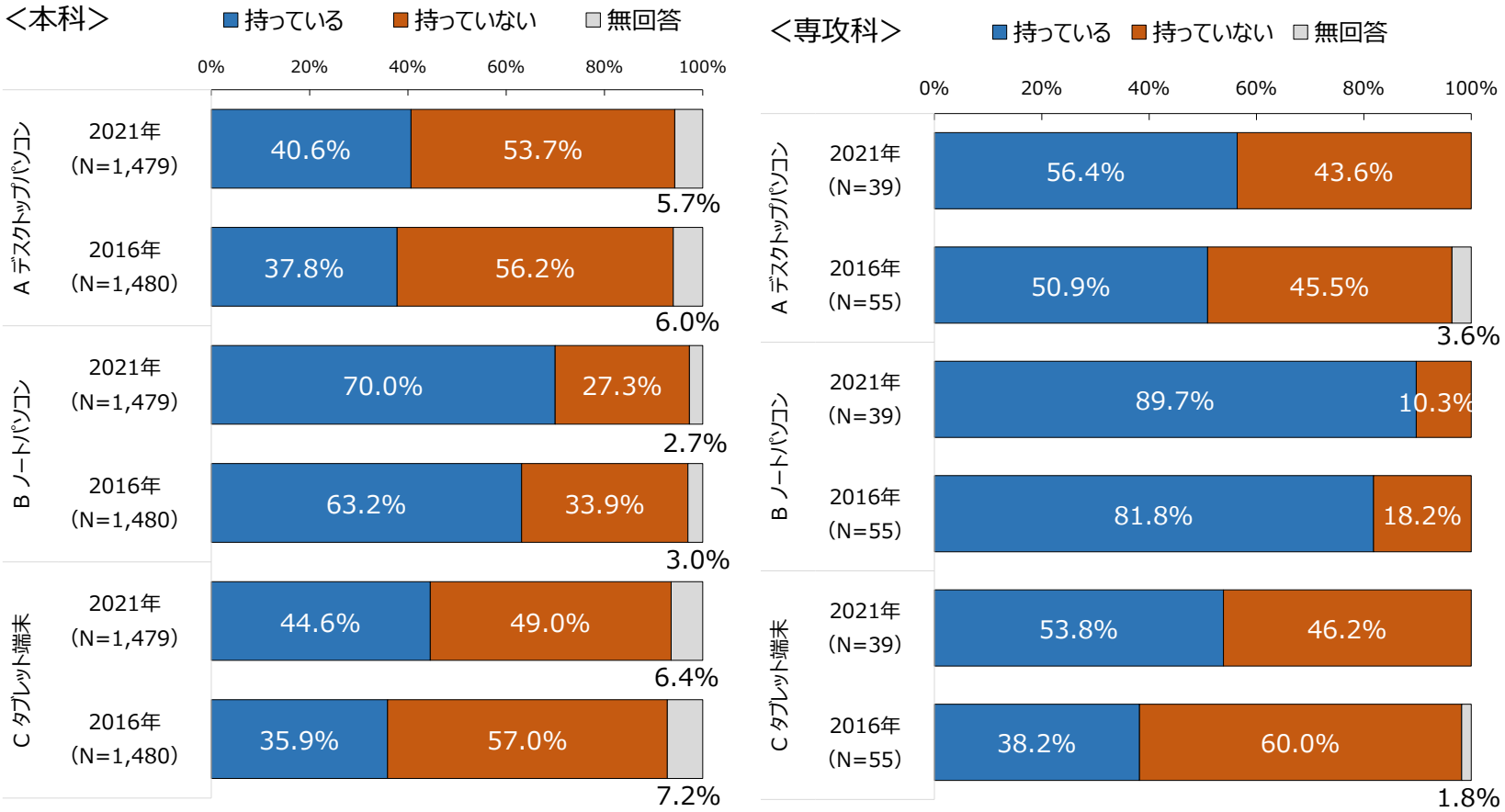




2－9－5　情報端末所有状況

- 情報端末所有状況について、前回調査と比べ、いずれの端末も「持っている」の割合が増加している。
- 前回調査の時点でも割合の高い「ノートパソコン」は、本科・専攻科共に約 7～8 ポイント増加している。

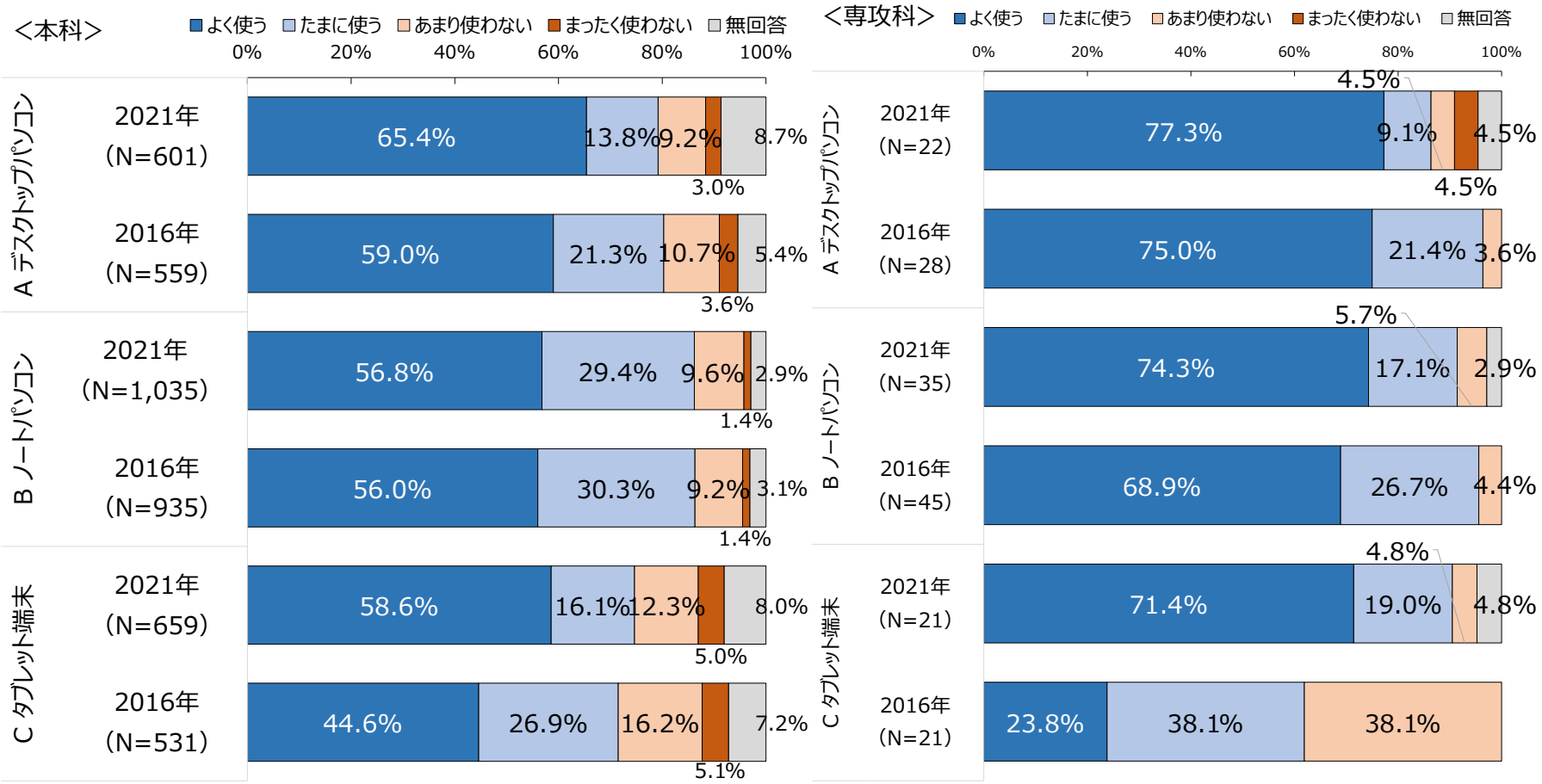
図表 2-47　情報端末所有状況（本科（左）：N=1,479　専攻科（右）：N=39）



2－9－6　情報端末使用状況

● 情報端末使用状況は、本科・専攻科共に、いずれの端末も「よく使う」の割合が高い。

図表 2-48　情報端末使用状況（本科（左）、専攻科（右））

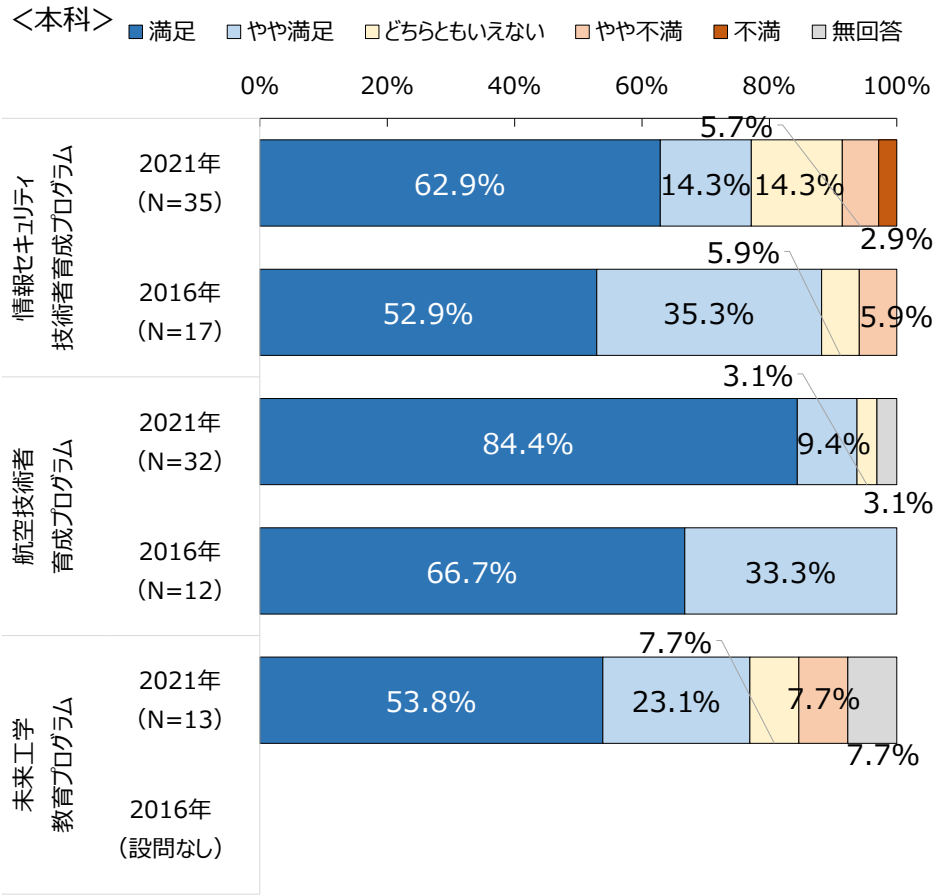


2－10　各種プログラム

2－10－1　各種プログラムの満足度

- 各種プログラムに「満足」と回答した割合は、いずれも半数以上となっており、前回調査より割合が高い。
- 特に「航空技術者育成プログラム」は「満足」と回答した割合が高く、8 割以上となっている。

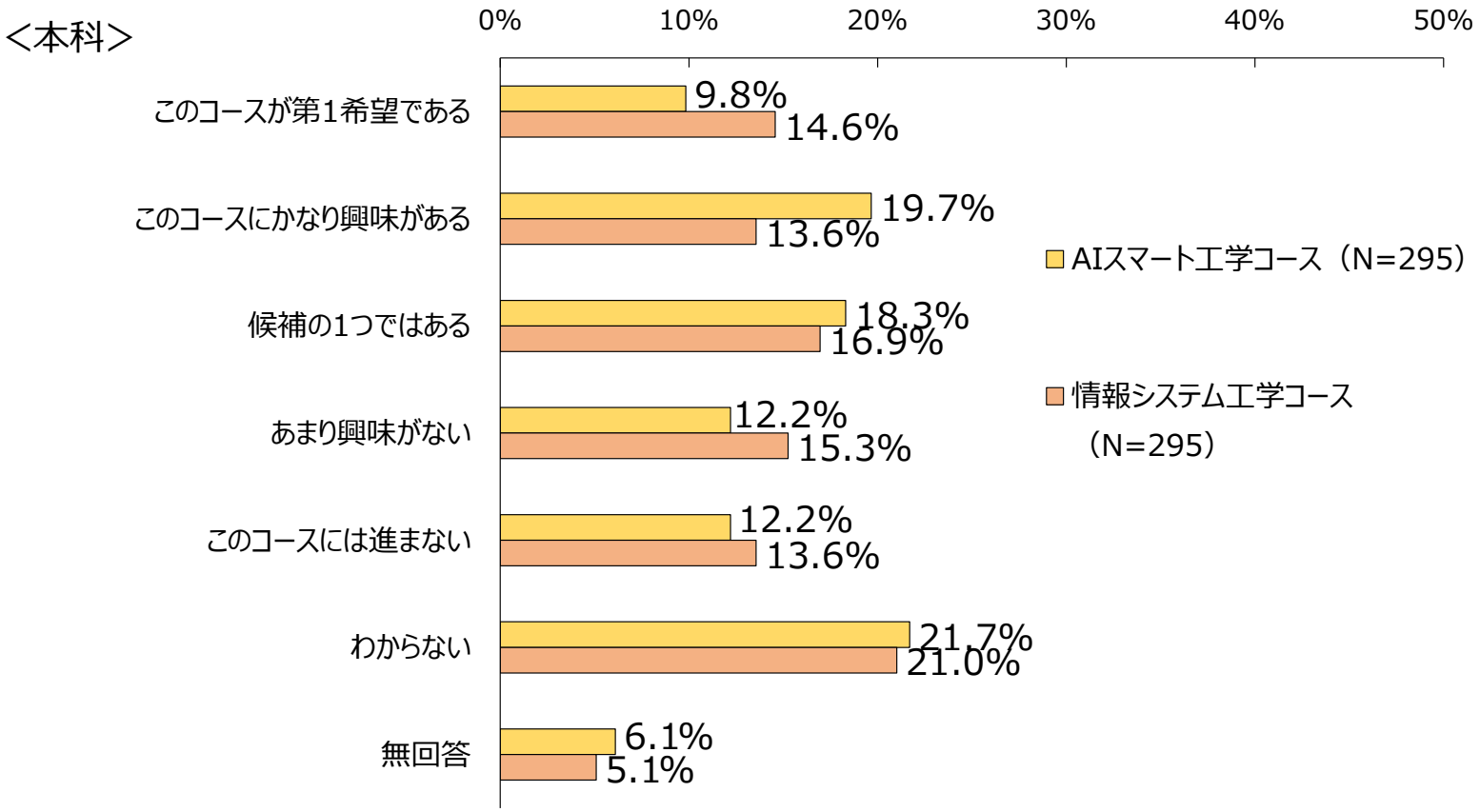
図表 2-49　各種プログラムの満足度（本科）



2－10－2　新コースの印象

- AI スマート工学コースは「このコースにかなり興味がある」、情報システム工学コースは「候補の 1 つではある」がそれぞれ高い割合であり、いずれも概ね評価されていると考えられる。

図表 2-50　新コースの印象（本科：N=295）

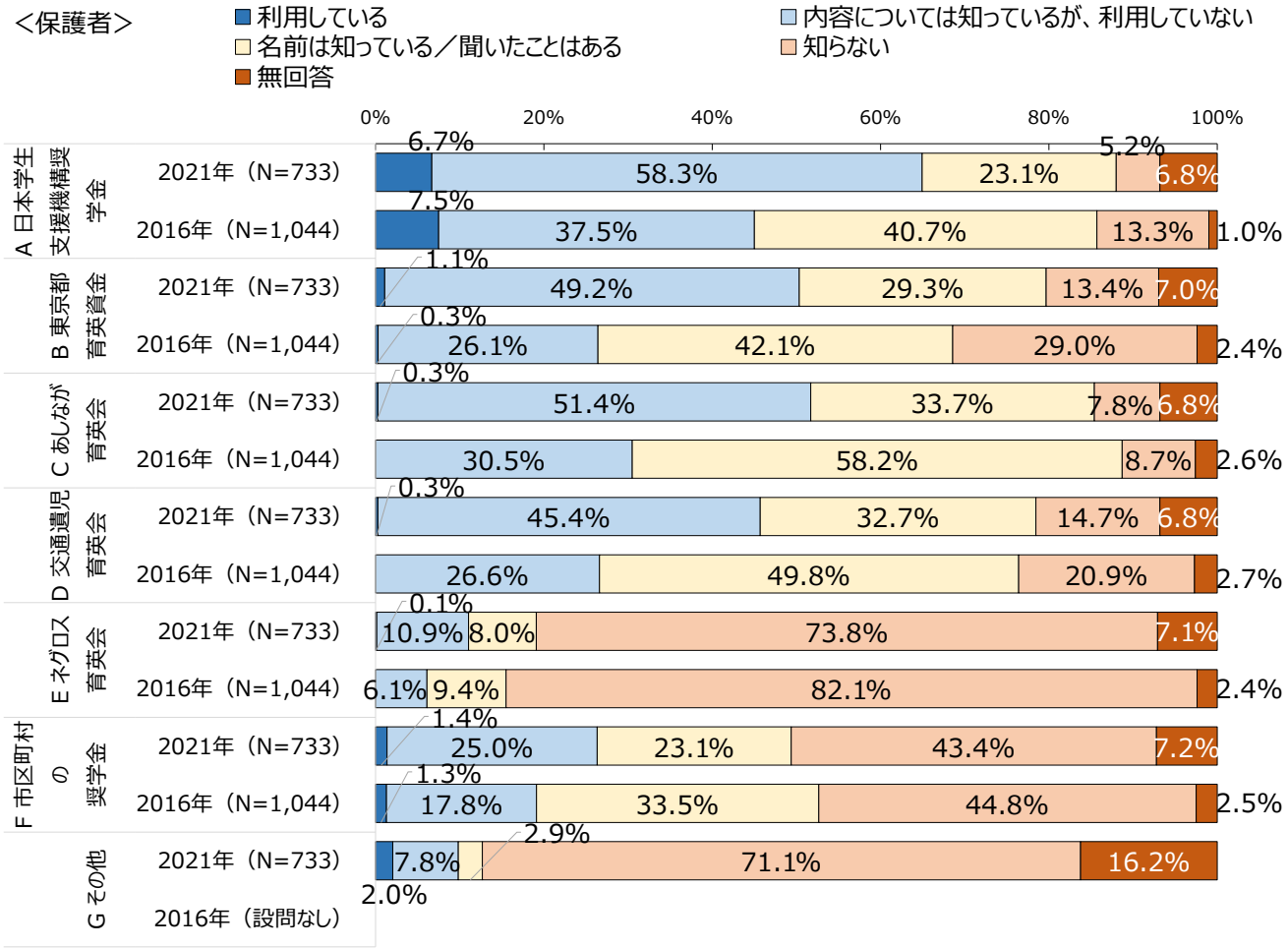


第3部 保護者からみた状況

3－1　奨学金制度の利用状況

● 奨学金制度の利用状況は、前回調査に比べて、「内容について知っているが、利用していない」割合が増加している。

図表 3-1　奨学金制度の利用状況（保護者：N=733）

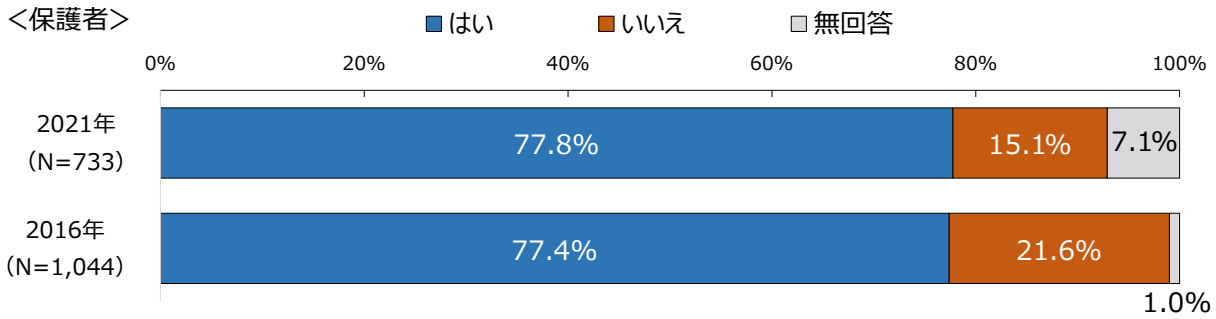


3－2　海外意向

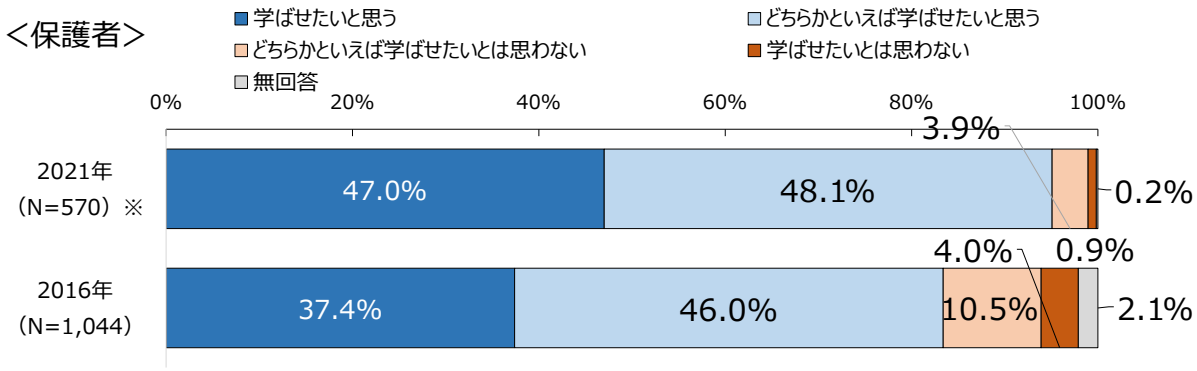
3－2－1　子どもを海外に行かせたいか

- 子どもを海外に「行かせたい」と回答した割合は 77.8%で、前回調査とほぼ同じであった。
- 海外で「学ばせたいと思う」「どちらかといえば学ばせたいと思う」は全体の 9 割を超えており、前回調査と比較して 11.7%増加。

図表 3-2　子どもを海外に行かせたいか（保護者：N=733）



図表 3-3　子どもを海外で学ばせたいか（保護者：N=570）※

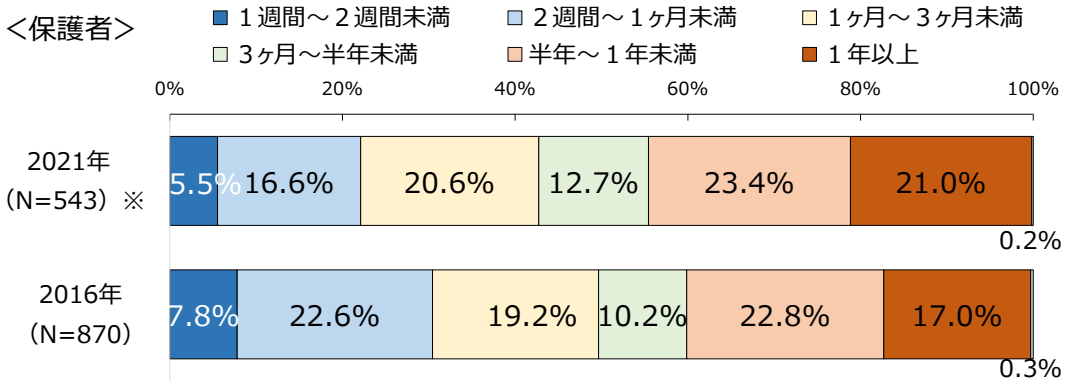


※　2021 年は前問で「はい（海外に行かせたい）」と回答した保護者が対象。

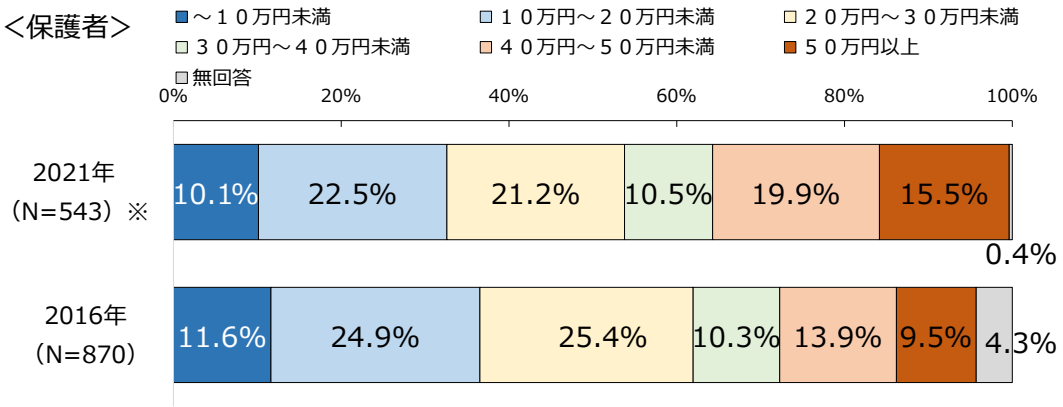
3－2－2　海外留学をさせる場合の希望期間

- 海外留学をさせる場合、「半年～1 年未満」が 23.4%、「1 年以上」が 21.0%と長期を望む割合が多く、次いで「1 ヶ月～3 ヶ月未満」となっている。前回調査と比較して、1 ヶ月以上の海外留学期間を望ましいとする回答の割合が増加。
- 海外留学の費用は、前回調査と比較して「40 万円～50 万円未満」「50 万円以上」の割合が 5%以上増加している。

図表 3-4　海外留学希望期間（保護者：N=543）※



図表 3-5　海外留学費用（保護者：N=543）※



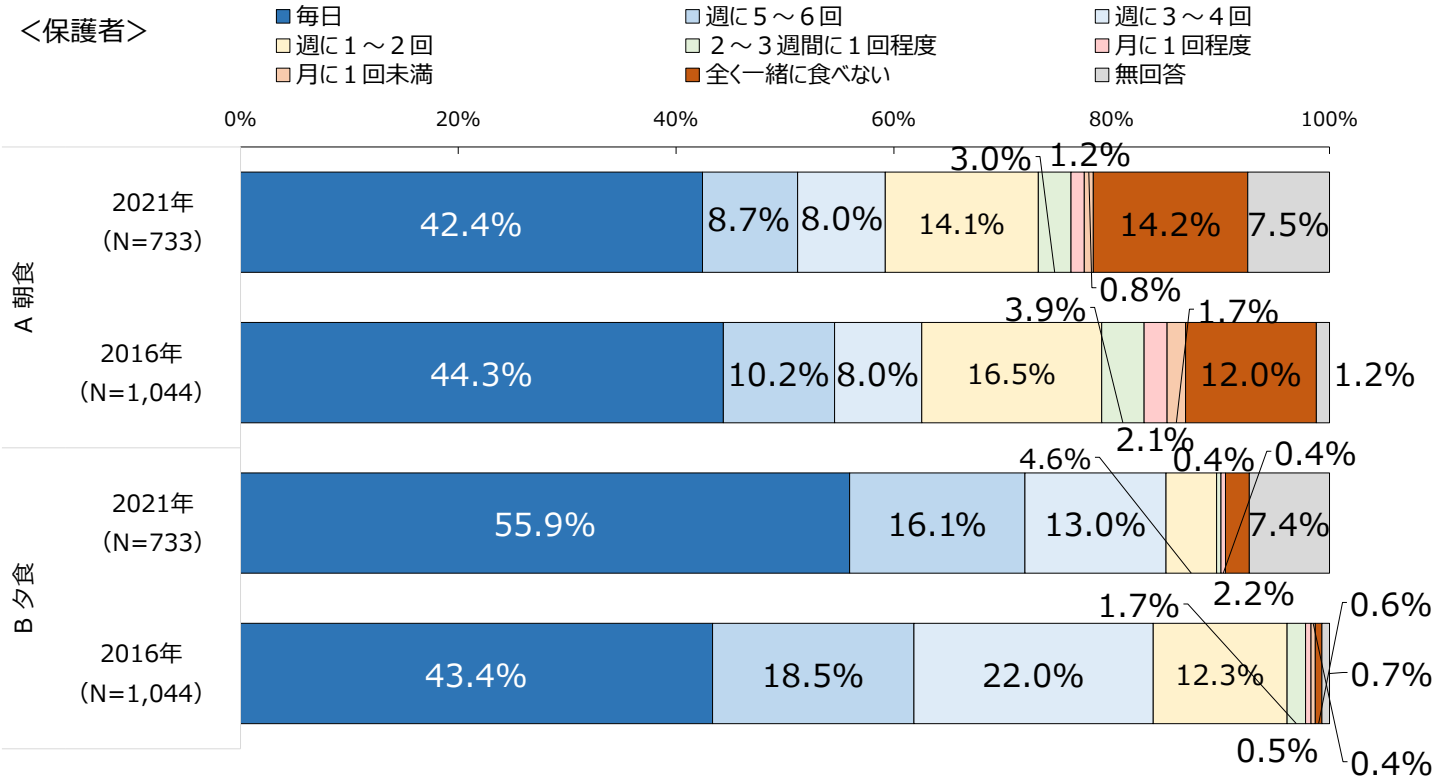
※　2021 年は前問で「海外で学ばせたい」「どちらかというと学ばせたい」と回答をした保護者が対象。

3－3　子どもとの状況

3－3－1　子どもと家族が食事を共にする頻度

- 子どもと家族が食事を「毎日」一緒に摂る割合は、「朝食」が 42.4%と前回調査とほぼ同じで、「夕食」が 55.9%と前回より 10%以上増加している。
- 夕食を「毎日」一緒に摂る割合が増加した背景には、保護者の在宅勤務や学生の遠隔授業の増加による影響も考えられる。

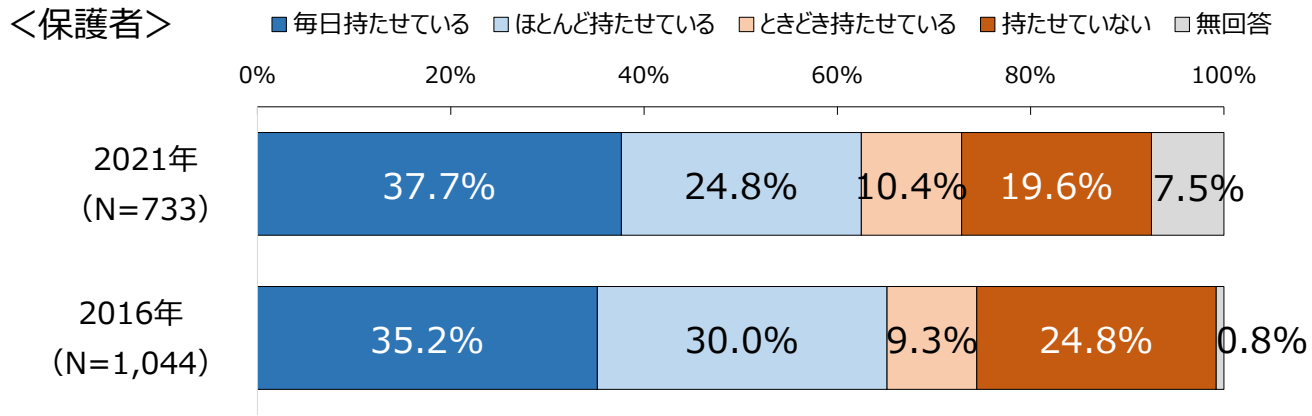
図表 3-6　子どもと家族の食事頻度（朝食）（保護者：N=733）



3－3－2　子どもに「お弁当」を持たせているか

- お弁当を「毎日持たせている」割合は 37.7%で最も割合が高い。

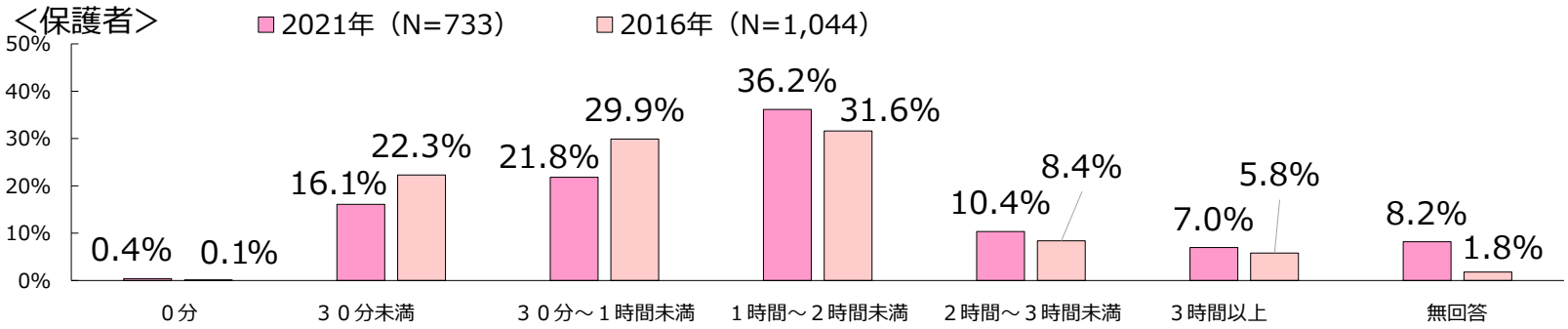
図表 3-7　子どもに「お弁当」を持たせているか（保護者：N=733）



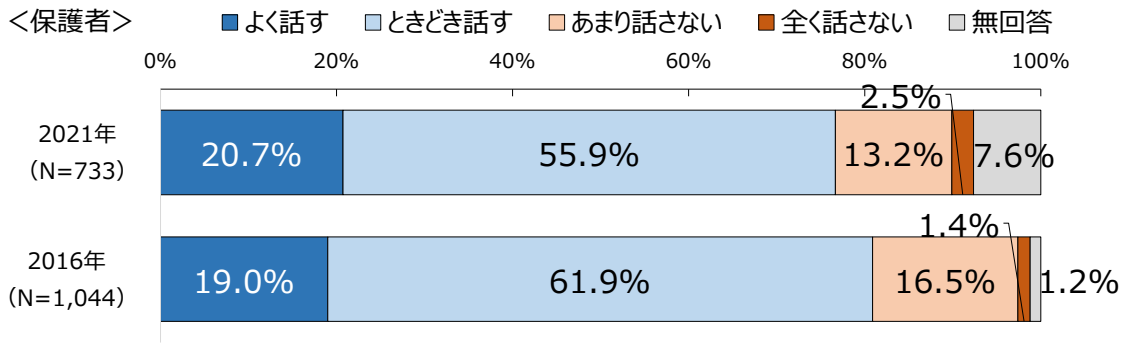
3－3－3　子どもと話をする時間

- 子どもと話をする時間は、「1 時間～2 時間未満」が 36.2%、1 時間以上子どもと話をすると回答した割合は、前回調査と比べて増加。保護者の在宅勤務や学生の遠隔授業によって、家にいる時間が増えたことも要因の一つと考えられる。
- 「進路」について子どもと「話す（よく話す＋ときどき話す）」と回答した割合は 76.6%となった。

図表 3-8　子どもと話をする時間（保護者：N=733）



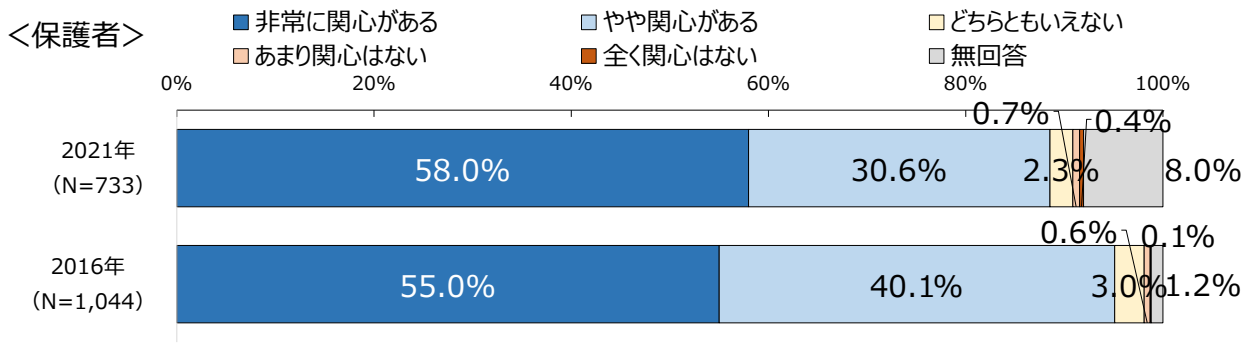
図表 3-9　「進路」について子どもと話す時間（保護者：N=733）



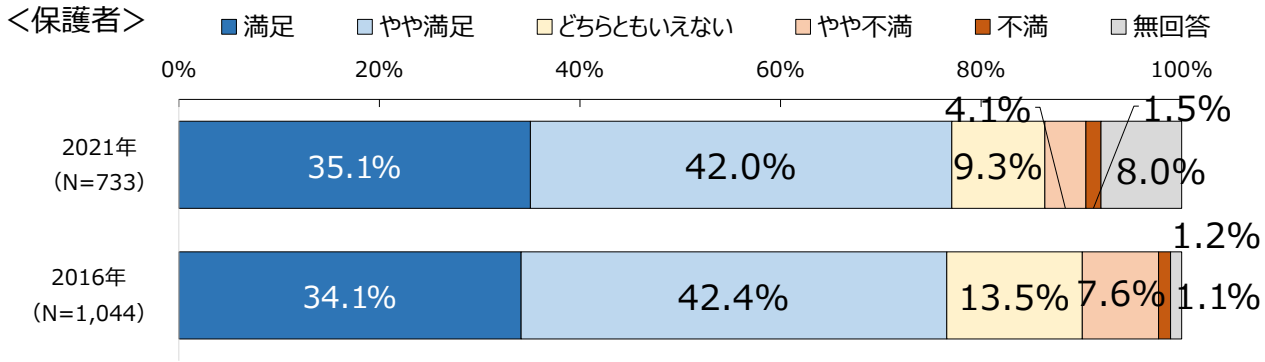
3－3－4　子どもの高専での学生生活への関心度

- 子どもの高専での学生生活へ関心がある（非常に関心がある＋やや関心がある）割合は 88.6%となっている。
- 子どもの高専での学校生活に満足している（満足＋やや満足）割合は 77.1%となっている。

図表 3-10　子どもの高専での学生生活への関心度（保護者：N=733）



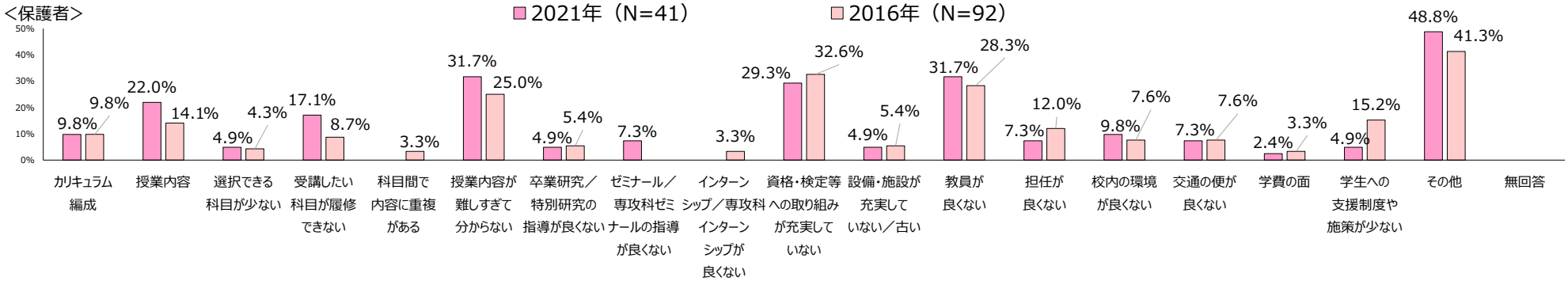
図表 3-11　子どもの高専での学生生活の総合的満足度（保護者：N=733）



3－3－5　子どもの高専での学生生活の不満点

- 子どもの高専での学生生活に不満を持つ保護者の実数は、前回調査に比べ大きく減少している。
- 不満点については、「教員が良くない」「授業内容が難しすぎてわからない」が 31.7%、「資格・検定等への取り組みが充実していない」が 29.3%と割合が高い。

図表 3-12　子どもの高専での学生生活の不満点（保護者：N=41（子どもの高専での学生生活に不満な方のみ））



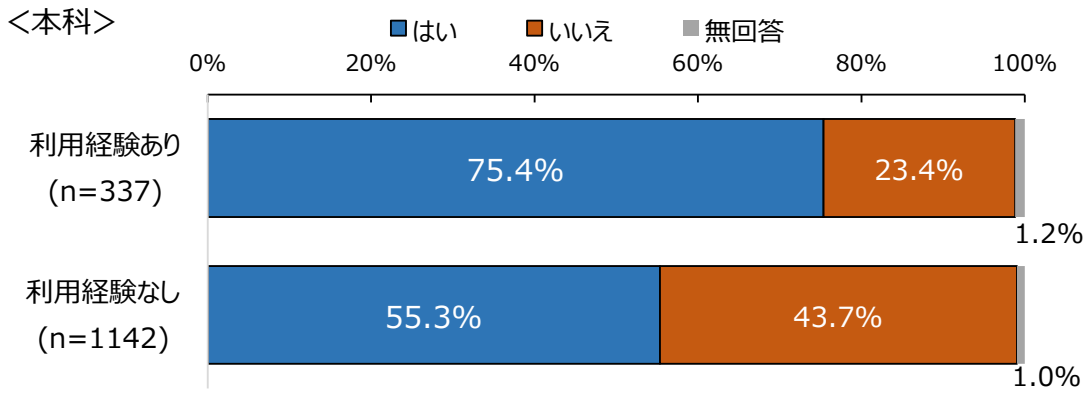
第4部 各種プログラムと海外意向の関係

4－1　本科生

4－1－1　海外意向

- 本科生について、国際化事業（グローバル・コミュニケーション・プログラム（GCP）、インターナショナル･エデュケーション・プログラム（IEP）、国際交流ルーム（GCO）、学生国際交流プログラム（二―アンポリテクの学生との交流）、異文化理解プログラムのいずれか）の利用有無別に、現在、または将来、海外に行きたいかを聞いたところ、国際化事業の利用経験がある方が、海外意向が 75%と高かった。

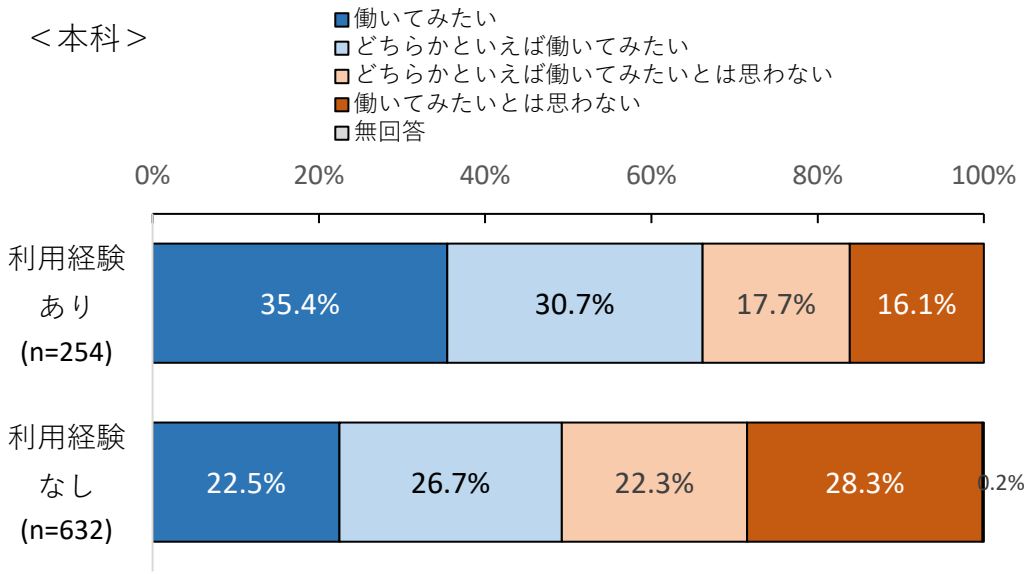
図表 4-1　国際化事業の利用有無別　海外意向



4－1－2　海外勤務意向

- 前問で「海外に行きたい」と回答した本科生に対し、国際化事業の利用有無別に、将来、海外で働いてみたいと思うか聞いたところ、国際化事業の利用経験がある学生は、働いてみたい（働いてみたい＋どちらかといえば働いてみたい）が 66.1%と高かった。

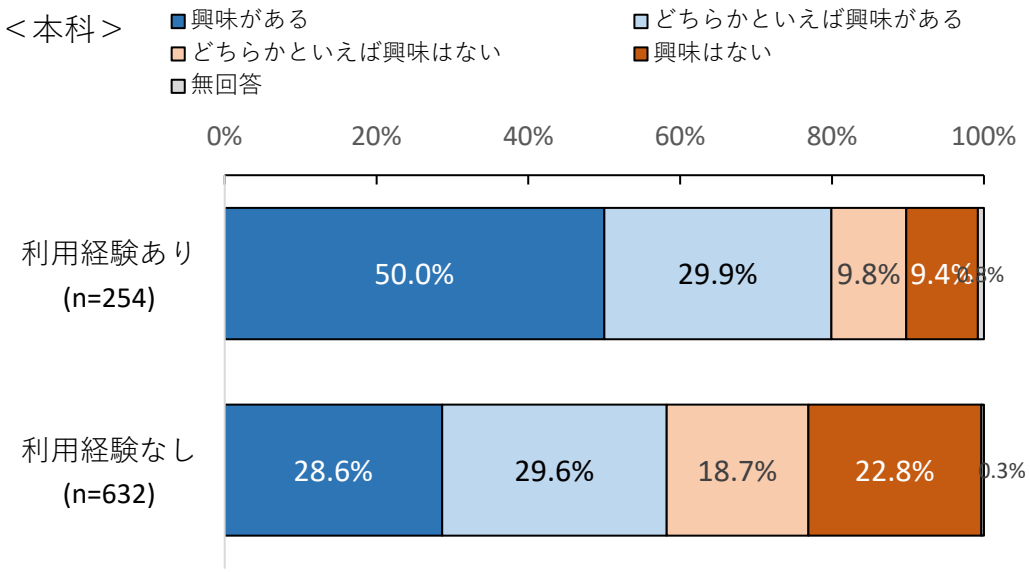
図表 4-2　国際化事業の利用有無別　海外勤務意向



4－1－3　留学への関心

- 前問同様、「海外に行きたい」と回答した本科生に対し、国際化事業の利用有無別に、留学に興味はあるか聞いたところ、国際化事業の利用経験がある学生は、興味がある（興味がある＋どちらかといえば興味がある）が約 8 割と高かった。

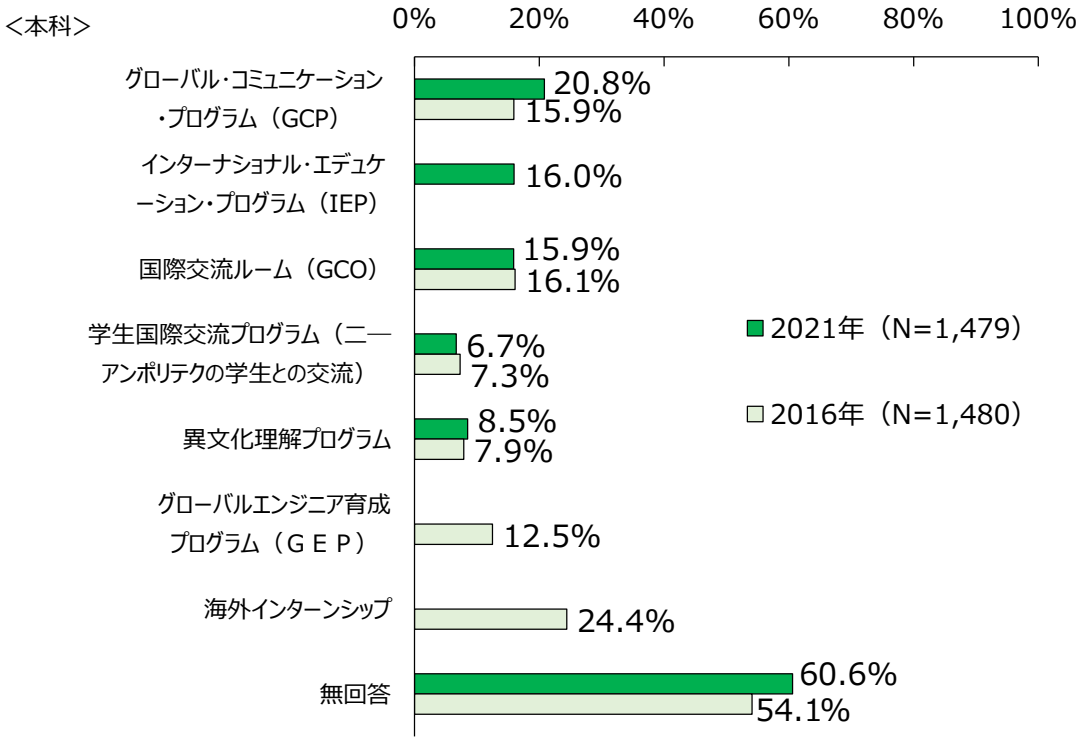
図表 4-3　国際化事業の利用有無別　留学への関心



4－1－4　今後参加したい国際化事業

- 本科生に今後参加したい国際化事業を聞いたところ、参加したいという割合が高い順に「グローバル・コミュニケーション・プログラム」「インターナショナル・エデュケーション・プログラム」「国際交流ルーム」となった。

図表 4-4　今後参加したい国際化事業

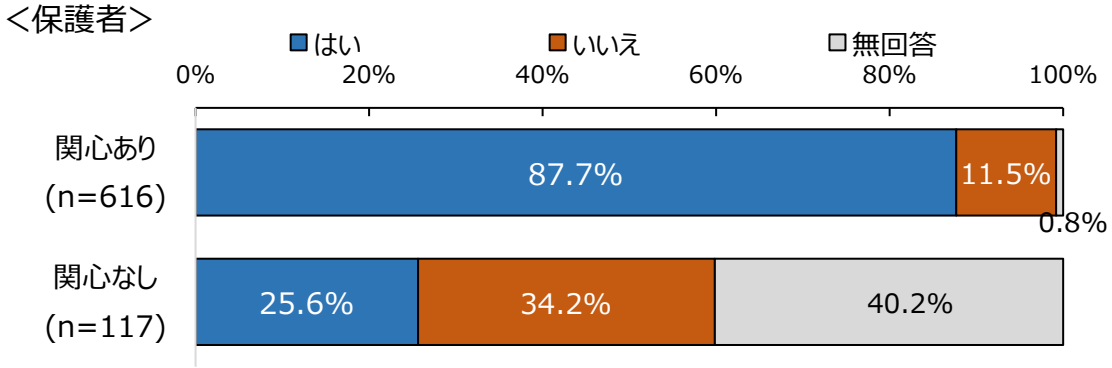


4－2　保護者

4－2－1　子どもを海外に行かせたいか

- 保護者について、国際化事業（グローバル・コミュニケーション・プログラム（GCP）、インターナショナル･エデュケーション・プログラム（IEP）、国際交流ルーム（GCO）、学生国際交流プログラム（二―アンポリテクの学生との交流）、異文化理解プログラムのいずれか）の関心有無別に、子どもを海外に行かせたいかを聞いたところ、国際化事業に関心がある保護者は、9 割近くが子どもを海外に行かせたいと考えている。

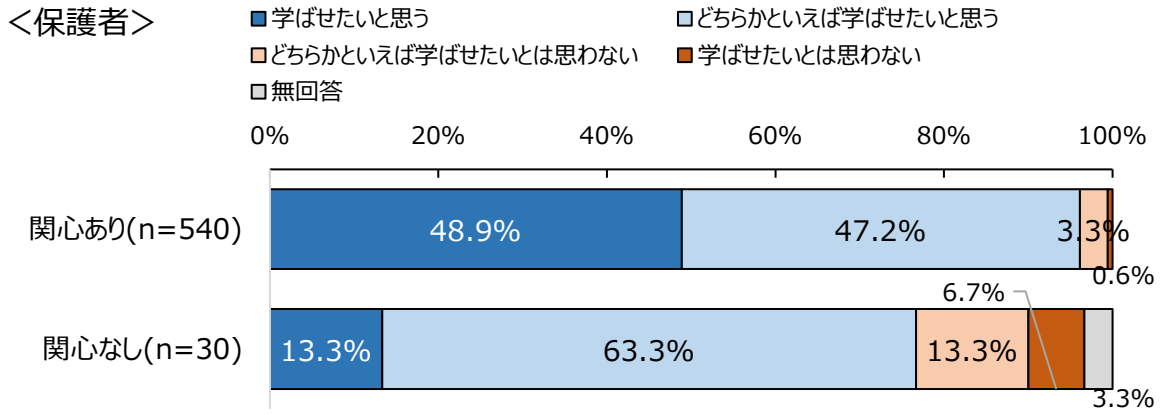
図表 4-5　国際化事業の関心有無別　子どもを海外に行かせたいか



4－2－2　子どもを海外で学ばせたいか

- 前問で、子どもを「海外に行かせたい」と答えた保護者に対し、国際化事業の関心有無別に、子どもを海外で学ばせたいかを聞いたところ、国際化事業に関心がある保護者は、9 割以上が子どもを海外で学ばせたい（学ばせたいと思う＋どちらかというと学ばせたいと思う）と考えている。

図表 4-6　国際化事業の関心有無別　海外でお子様を学ばせたいか



第5部 まとめ（本科を中心に）

＜前回調査(2016年度)からの教育上の変化＞

- 前回調査と比較して「カリキュラム」「授業」「職員」の満足度が向上し、総合満足度も向上。また、一般科目・専門科目の各科目についても満足度が向上している。一方で、教員の満足度は変わっていない。
- シラバスの利用度、満足度が向上。

＜コロナ禍の影響＞

- コロナ禍において、授業の理解度低下が懸念されたが、遠隔授業や、感染対策を講じた上での分散登校を実施したこと等により、専門科目（座学、実験・実習）であっても10%程度の低下に抑えることができ、一般科目（理数科目以外）においては「理解している（80～100%）」「だいたい理解している（60～80%）」を合計すると、前回調査と大きな違いがないという結果となった。
- 専攻科は少人数教育の特色を活かし、教員・学生の個々の取組により、演習科目も含めいずれの科目も「理解している（80～100%）」「だいたい理解している（60～80%）」を合計すると、前回調査と同等あるいは上回っている。
- 『産技祭』『高専祭』に「参加したことがある」と回答した割合は45.9%で、前回調査の60.7%から約15%減少している（『2020年は新型コロナウイルス感染症拡大予防のため『産技祭』『高専祭』は開催せず、また調査期間が2021年の開催前だったため、本科1～2年は、まだ『産技祭』『高専祭』を経験していない）。
- 課外活動に「参加していない」と回答した割合が、全てのクラブ活動で3割以上となっており、前回調査を大きく上回った。
- インターンシップに「参加したことがある」割合は42.7%で、前回調査の2/3程度。
- 生活全般で感じる心身の不調等について、前回調査と比べ「何に対してもやる気が出ない」「強い不安感に襲われる」「気分が落ち込んで何も興味が持てない」が5ポイント以上増加し、20～30%程度となっている。
- 保護者の在宅勤務や学生の遠隔授業の増加による影響として、家族との食事（夕食）の頻度の増加や会話時間の増加がみられる。

＜ネット利用の増大、読書等の減少＞

- 授業内容が理解できない場合の対応について「インターネットで調べる」割合が高く、前回調査で最も高い「友人・知人に聞く」を多くの科目で上回っている。また、「授業中に教員に質問する」「授業が終わってから教員に質問する」と回答した割合は、前回調査と比較して減少。
- レポート作成時の情報源は、「インターネット」「教科書」が共に 7 割以上。一方で、「参考書」「専門書」は、前回調査から 10 ポイント以上減少。
- 前回調査から比べて「本（漫画・雑誌以外）は読まない」が約 10 ポイント増加し、26.7%。
- スマートフォン使用時間が「6 時間以上」が、平日は 3 割強、休日は 6 割近くと予想通り非常に高い。

＜国際化事業参加者の傾向＞

- 国際化事業（グローバル・コミュニケーション・プログラム（GCP）、インターナショナル･エデュケーション・プログラム（IEP）、国際交流ルーム（GCO）、学生国際交流プログラム（二―アンポリテクの学生との交流）、異文化理解プログラムのいずれか）の利用経験がある方が、海外意向が 75%、海外で働いてみたいが約 5 割、留学に興味があるが約 6 割と高い。